

卷頭言

大阪大学国際教育交流センター長
有川友子

国際教育交流センターは、平成22年4月の留学生センターからの改組後、大阪大学のグローバル化を推進するため、IRIS（留学生情報交流室）を核とした国際教育と国際交流を担う4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の3チーム＋サポートオフィス）体制による活動に積極的に取り組んで参りました。

具体的には、多様な留学生を対象とした日本語教育の拡充、激増する留学生受け入れに伴う各種サポートの充実、多様な短期留学生受け入れプログラムの開発と運営、そして阪大生の国際性を涵養する海外研修や交換留学などの海外派遣についての取り組み、国や地域をベースとした留学生会との連携協力、留学生と一般学生の日常的な交流活動の積極的な支援、地域との連携協力、さらには外国人研究者やその家族へのサポート、と多岐にわたって係わっております。

ここに平成27年度の国際教育交流センターの活動について、年報としてまとめました。最初に新たな取り組みを中心に本年度のトピックスとして紹介し、その後各チーム、各プログラム、各活動の詳細な報告としてまとめております。

大阪大学のOUビジョン、第3期中期計画・中期目標、そしてスーパーグローバル大学創成支援事業体制において、学生の受入・送り出しどもおおむね倍増という学生交流のより一層の活発化が進められております。その中で国際教育交流センターに求められる役割はますます大きくなると思われます。今後とも、本センターは大学内の関係組織や各部局と連携しながら、大阪大学のグローバル化、グローバルキャンパスの実現のために全力を尽くしてまいります。

引き続き、ご支援とご協力を、何卒よろしくお願ひいたします。

大阪大学国際教育交流センター

2015年度 年報

目 次

卷頭言

I. 本年度のトピックス	1
1. 2015年度国際教育交流センタースピーチコンテスト	1
2. CIEE協議会シリーズ—多文化交流の最前線—	4
3. 総長顕彰・総長奨励賞および「大阪大学教員出版支援制度」による学術書の出版	8
4. 部局長未来戦略経費調査報告	9
5. 「キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション」の新規開講に向けて	17
6. 夏季短期留学生向け『理工学研究プログラム』	21
7. 留学ポートフォリオ	22
8. 短期プログラムの「将来像」について	24
9. 研修会・講習会の開催	26
II. 現況	28
1. 運営形態	28
2. 組織	29
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	30
4. 今年度の動き	31
III. 留学生対象日本語プログラム	32
1. 日本語集中（研修）コース	33
2. 留学生日本語選択コース	39
3. 全学共通教育	40
4. 国際交流科目	42
5. 学際融合教育科目	43
IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	44
1. 時間割	45
2. 学生数と進学先	45
3. 平成27年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会	45
V. 国際教養・専門複合型プログラム	47
1. 行事	48
2. 2015年度春学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	49
3. 2015年度秋学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	52
4. OUSSEP学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	55
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	56
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	59
1. 『超短期』プログラム	59
2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』J-ShIP	60

VII. 留学生支援	64
1. 生活・就学支援	64
2. 地域との連携	70
3. 留学生に対するキャリア支援	73
VIII. 海外派遣留学支援	78
1. 海外研修・異文化体験プログラム	78
2. 海外留学オリエンテーション	80
3. 大学間交換留学者数	81
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	84
5. 留学報告会	86
6. 海外留学相談とアドバイス	88
IX. サポートオフィスの活動	90
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	90
2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援	91
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	91
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	92
5. ホームページの管理運営	92
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	93
X. 大学院・学部教育	94
1. 授業担当	94
2. 研究指導	101
3. 研究指導学生学位論文	103
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	104
XI. その他の活動	105
1. 各種行事	105
2. 海外出張・海外研修	108
3. 出版物・印刷物等（2015年5月から2016年3月まで）	110
4. 来訪者対応	110
5. にほんごテーブル	111
XII. 教員個人データ	114

資料編

資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2015年度 時間割	146
資料2 2015年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧	150
資料3-1 国際交流科目 時間割（平成27年春学期）	152
資料3-2 国際交流科目 時間割（平成27年秋学期）	153
資料4 日本語授業についてのアンケート	154
資料5 国際交流科目 授業アンケート（質問票）	158
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	160

I. 本年度のトピックス

1. 2015 年度国際教育交流センタースピーチコンテスト

昨年度に続き、今年度も国際教育交流センタースピーチコンテストが開催された。「留学からわたしが得たもの」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。審査の結果、薬学部所属の WONG JU ANN さんが最優秀賞に輝いた。

【2015 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

最優秀賞	WONG JU ANN	薬 学 部	「自信を見つけた」
優 秀 賞	黄怡欣	人間科学部	「恋－中日恋愛事情の違い－」
優 秀 賞	森 裕美	外国語学部外国語学科	「青い空と海に囲まれたサンタバーバラでの9ヶ月から」
特 別 賞	HAN SANGJIN	外国語学部外国語学科	「私には夢があります」
特 別 賞	莫也	法学研究科	『『おもてなし』』
特 別 賞	DUONG THI THANH HUYEN	法学研究科	「現実」
特 別 賞	張 琴仙	法 学 部	「日本が私にくれたもの」

【受賞者と審査委員】



【プログラム】

2015 年度大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト

主 催：大阪大学国際教育交流センター
協 賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
日 時：2015 年 12 月 18 日（金）16:30~18:35
場 所：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6

総 合 司 会：国際教育交流センター 特任助教 畿岡 洋香

16:30~16:35

① 開会の挨拶：国際教育交流センター副センター長 教授 村岡 貴子
千里ロータリークラブ 会長 粉川 雅至

16:35~16:38

② 審査委員紹介：千里ロータリークラブ 会長 粉川 雅至
人間科学研究科 教授 シュヴェントカ・
国際教育交流センター副センター長 教授 村岡 貴子
国際教育交流センター 特任准教授 金 孝卿

16:38~16:40

③ 説 明：スピーチコンテストの流れ、および審査方法の説明

16:40~18:00

④ 出場者スピーチ：テーマ「留学からわたしが得たもの」

1. 青い空と海に囲まれたサンタバーバラでの 9 カ月から 森 裕美（外国語学部）
2. 恋－中日恋愛事情の違い－ 黄 怡欣（人間科学部）
3. 私には夢があります HAN SANGJIN（外国語学部）
4. 「おもてなし」 莫 也（法学研究科）
5. 現 実 DUONG THI THANH HUYEN
(外国語学部)
6. 日本が私にくれたもの 張 琴仙（法学部）
7. 自信を見つけた WONG JU ANN（薬学部）
8. 違いから学ぶ接し方 KIM JAEHAN（文学部）

18:00~18:20

⑤ 休憩

18:20~18:30

⑥ 表彰式：国際教育交流センター長 教授 有川 友子
千里ロータリークラブ 会長 粉川 雅至

18:30~18:35

⑦ 閉会の挨拶：国際教育交流センター長 教授 有川 友子

18:40~19:00

⑧ ティーパーティー IC Hall @ IRIS へ移動

【募集要項】

1. 日 時	2015年12月18日（金） 午後16:30～18:30 (選考・表彰式・写真撮影を含む)
2. 場 所	吹田キャンパス ICホール Room 5 and 6
3. 題 目	「留学から私が得たもの」 ※内容に合わせて副題をつけてください。
4. 主 催	大阪大学国際教育交流センター
5. 協 賛	国際ロータリー2660地区千里ロータリークラブ
6. 応募資格	① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 本学の <u>交換留学制度</u> を利用し、海外に <u>1学期間以上留学</u> した経験を持つ学生（学部生院生・国籍を問わない）で大阪大学に在籍している者
7. 応募方法	国際教育交流センターのホームページにある応募用紙（概要400字程度）と学生証コピーをメールに添付して送付してください。または、国際教育交流センターIRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。
8. 応募用紙	Wordファイル（Office 2003以上）を以下からダウンロードしてください。 <u>【2015年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】</u> URL : http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/
9. 応募締切	2015年11月30日（月）
10. 書類審査と発表者の決定	応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表して頂く学生へ12月9日（水）（予定）までに当選者に直接メールで連絡します。また、国際教育交流センターIRIS・豊中分室・箕面分室にて掲示を予定しています。
11. スピーチ要領	① 日本語で6分以内の発表 ② 計6分の発表（最初に留学先で使用した言語を使い3分以内のスピーチをし、続いて日本語で同じ内容の3分以内のスピーチを行うこと） ※パワーポイント使用可。
12. 審査基準	スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。
13. 表彰・副賞	スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 最優秀賞：賞状・2万円分図書カード（1名） 優秀賞：賞状・1万円分図書カード（2名） 特別賞：賞状・5千円分図書カード（4名） ※出場者全員に参加賞があります。
14. 応募先・問い合わせ先	国際教育交流センターIRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail : iris@ciee.osaka-u.ac.jp (件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。)
15. その他の	表彰式終了後、IRISにてティーパーティーを予定しています。 受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談発表の依頼をする場合があります。

2. CIEE 協議会シリーズ — 多文化交流の最前線 —

例年と同様、平成 28 年 2 月に 3 つの研究協議会を主催した。以下、それぞれの概要とプログラムについて報告する。

2 月 3 日（水）：国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐の成相圭二氏から「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策」についてのご説明の後、「留学生アドバイジングとハラスマント相談対応体制との連携の在り方」をテーマとした協議を行った。まず広島大学国際センター准教授の中矢礼美氏と大阪大学国際教育交流センター特任准教授の魚崎典子が各大学の事例を紹介し、その後 3 つの分科会にわかつてディスカッションを実施した。

分科会での討議、全体討論を通して、留学生受け入れの意義について改めて検討した。<出席者：86 名（学内 23 名・学外 63 名）>



2 月 16 日（火）：第 9 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

本協議会では「日本語教育における IT 活用の可能性」というテーマのもと、「これが教師の生きる道？－スマホ時代のことばと学習」（フリーランス・角南北斗氏）および「専門日本語学習支援ツールの開発と応用－『Hinoki プロジェクト』をもとに－」（本学大学院言語文化研究科講師・Hodošček Bor 氏）の 2 つのご講演をいただくとともに、本センターからも、難波康治准教授が大阪大学の日本語教育における IT 利用の現状と課題について報告した。全体討論では、様々な立場の参加者から質疑が交わされ、活発な論議が展開された。

<出席者：60 名（学内 35 名・学外 25 名）>



2 月 18 日（木）：第 24 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第 24 回となる本協議会では、大阪大学各留学生会の紹介に続いて、「大阪大学ムスリム留学生会の日常生活について学ぼう・ムスリム留学生会の経験から」というテーマで大阪大学ムスリム留学生会の留学生および研究者計 5 名による活動の紹介と大学生活についての発表があり、その後質疑応答が行われた。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。

<出席者：154 名（学内 29 名・学外 125 名）>



平成 27 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 44 回大阪大学留学生教育・支援協議会

主 題：「留学生アドバイジングとハラスメント相談対応体制との連携の在り方」

日 時：平成 28 年 2 月 3 日（水） 13:30～19:00（懇談会を含む）

場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 3 階阪急電鉄・三和銀行ホール

次 第：(敬称略)

[総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川 友子]

挨 捷 (13:30～13:40) 大阪大学理事・副学長 星野 俊也

I. 留学生受入れに関する施策

1, 説 明 (13:40～14:10)

「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐 成相 圭二

2, 質疑応答 (14:10～14:20)

[II. & III. & IV. コーディネーター：茨城大学留学生センター 教授 安 龍珠]

II. 事例紹介 (14:30～15:30)

1, 「広島大学国際センター・ハラスメント相談室等、留学生支援ネットワークによる取り組み」

広島大学国際センター 准教授 中矢 礼美

2, 「大阪大学国際教育交流センター・大阪大学留学生会・ハラスメント相談室と連携した取り組み」

大阪大学国際教育交流センター 特任准教授 魚崎 典子

休憩・移動 (15:30～15:45)

III. 分科会「留学生アドバイジングとハラスメント相談対応体制との連携の在り方」(15:45～16:35)

A :「大学の体制に関わる取り組み」

ファシリテーター：電気通信大学国際交流センター 教授 池田 裕

B :「学生に関わる取り組み」

ファシリテーター：名古屋大学国際教育交流センター 特任准教授 渡部 留美

C :「教職員に関わる取り組み」

ファシリテーター：大阪大学国際教育交流センター 教授 有川 友子

IV. 各分科会からの報告と全体討論 (16:40～17:10)

閉会の挨拶 (17:10～17:20) 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

懇談会 (17:30～19:00)

以 上

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日 時：2016年2月16日（火） 13:00～16:55（受付 12:40～）

場 所：大阪大学吹田キャンパス ICホール 2階 講義室5&6

主 催：大阪大学国際教育交流センター

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会

専門日本語教育におけるIT活用の可能性

総合司会 国際教育交流センター 准教授 西村 謙一

13:00～13:05 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

13:05～13:55 講演1：これが教師の生きる道？－スマホ時代のことばと学習－
フリーランス 角南 北斗

13:55～14:05 休憩

14:05～14:55 講演2：専門日本語学習支援ツールの開発と応用
－「Hinoki プロジェクト」をもとに－
大阪大学大学院言語文化研究科 講師 Hodošček Bor

14:55～15:45 報告：大阪大学の日本語教育におけるIT利用の現状と課題
大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム 准教授 難波 康治

15:45～16:00 休憩

16:00～16:50 全体討論：専門日本語教育におけるIT活用の可能性を考える
司会 国際教育交流センター 准教授 大谷 晋也

16:50～16:55 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子



Twitterから参加しよう！

Twitterにて情報を発信しています。

ハッシュタグ (#oujsp9) をつけて、ご意見、感想、質問をどんどんツイートしてください！

「第 24 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会」

日 時：平成 28 年 2 月 18 日（木） 13:30-16:30

場 所：大阪大学 吹田キャンパス

銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール

銀杏会館 3 階 大会議室（懇談会）

主 催：大阪大学国際教育交流センター

<プログラム>

(敬称略)

13:30-13:40	挨拶 理事・副学長	星野 俊也
13:40-13:55	大阪大学における各留学生会について 国際教育交流センター 特任准教授 魚崎 典子	
14:00-15:30	大阪大学留学生の日常生活について学ぼう — ムスリム留学生の経験から 大阪大学ムスリム留学生協会の活動の紹介	

発表者

Imam Murshid 大阪大学ムスリム留学生協会代表
(イマーム ムルシッド) 接合科学研究所（インド）

Mohammad Moinuddin 文学研究科（インド）
(モハッマド モインウッディン)

Marliza Binti Madung 工学研究科（マレーシア）
(マルリザ ビンティ マドゥン)

Shukurov Jasur Zafardinovich 法学部（ウズベキスタン）
(シュクロフ ジャスル
ザファルディノヴィチ)

Gulibositan Yasen 経済学研究科（中国新疆ウイグル自治区）
(グリボスタン ヤセン)

15:30-15:40	挨拶 国際教育交流センター長	有川 友子
15:45-16:30	懇談会	

懇談会では松田與三市郎様からのご寄付による国際教育交流センター交流アドバイジング研究チーム助成金より軽食をご用意しております。

3. 総長顕彰・総長奨励賞および「大阪大学教員出版支援制度」による学術書の出版

総長顕彰は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献または管理運営上の業績が特に顕著であると認められたものを顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的としている。総長奨励賞は、若手教員（概ね 40 歳以下の者）のうち、教育及び研究の業績があると認められるなど、同分野で将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的として行われている。第 4 回総長顕彰・総長奨励賞（平成 27 年度）において、国際教育交流センターは教員 1 名が受賞した（表 1）。

表 1 第 4 回総長顕彰・総長奨励賞（平成 27 年度）受賞者（国際教育交流センター）

総長顕彰・総長奨励賞の別	部 門	受賞者名	チ ー ム 名	職 名	受 賞 業 績 名
総長奨励賞	研究部門	伊藤ゆかり	交流アドバイジング 研究チーム	准教授	科学研究費補助金が新規に採択されたことによる大学の研究活動への貢献

また、平成 27 年度大阪大学教員出版支援 1 部門に、国際教育交流センター内で推薦され、申請された 1 件の学術書が以下の表 2 の通り採択された。平成 28 年秋までに刊行される予定である。

表 2 平成 27 年度大阪大学教育出版支援制度で刊行される学術書

部 門	学 術 書 の タ イ ト ル	著者名	チ ー ム 名	職 名
B 部門	人生の中の日本留学—インドネシア人留学生と元留学生の 20 年のエスノグラフィー—	有川 友子	交流アドバイジング 研究チーム	教 授

4. 部局長未来戦略経費調査報告

オーストラリアの大学における英語予備教育機関と日本語プログラムの現状

調査・報告者：難波 康治・金 孝卿

1. 日 程：2016年3月5日～3月13日（移動日3日を含む）

2. 目 的

- ① オーストラリアの大学にて留学生受け入れと英語教育を行っている英語教育施設を訪問し、そのカリキュラムと運営について調査する。
- ② 日本語専攻をもつ大学を訪問し、オンライン教育、ビジネス・キャリア日本語について調査する。

3. 訪問教育機関調査

訪問機関名	所在地	訪問日
Western Sydney University	Sydney	2016年3月7日
The College: Western Sydney University	Sydney	2016年3月7日
New South Wales Global	Sydney	2016年3月8日
国際交流基金シドニー日本文化センター	Sydney	2016年3月8日
University of Technology Sydney	Sydney	2016年3月9日
Monash University (School of Language, Cultures and Linguistics)	Melbourne	2016年3月10日
Monash College	Melbourne	2016年3月10日
Huntingdale Primary School	Melbourne	2016年3月11日

4. 英語予備教育機関および大学の英語プログラム調査

① The College: Western Sydney University

対応者：Margaret Miller (Director, English Program)

- The College は Western Sydney University が 100% 出資する College である。90% の学生が Western Sydney University に進学する。
- コース : Foundation Course, Diploma Course と EAP Course に分類できる。
- Foundation Course : オーストラリア国内の高校3年次生（12年生）が主な対象、ATAR（全国統一高校卒業試験）の結果が大学入学要件（成績）に満たない学生を中心に、英語および科目の補習教育を行う。コース終了後に、大学1年のコースに入学が許可される。様々な分野（Arts, Business Communication, Arts and Design, Construction, Engineering, Information and Communications Technology, Health Science and Nursing, Science, Social Science, Policing and Criminal Justice）への進学の基礎を教える。日本の予備校に近い存在である。
- Diploma Course : Foundation Course と同様に、大学入学要件を満たしていない者を対象に行われるコース。Foundation Course とは異なり、大学1年と同じ科目が提供され、修了後に大学2年次に編入する。

- EAP (English for Academic Purpose) コース : EAP コースは、大学および大学院に直接進学が認められているが、英語能力が不足している学生が対象の英語プログラムである。期間は 10 週と 15 週の 2 コース、5 レベル。学生数約 200 名。大学の入学時期に合わせて年 4 回開講。
- Custom-made Program : ほぼ全て日本の大学との交換留学が対象。学生数約 30 名、入学時期は隨時。
- CLEP (Cultural and Language Exchange Program) : 学部の学生と共同でさまざまなイベントを行う。
- 学内インターンシップ : Custom-made プログラムでは、プログラムの一部としてインターンシップも実施している（アウトソーシング、有料）。特徴としては、学内で雇用するインターンを行っている事があげられる。この場合、インターンシップ費用は無料で、寮費なども免除される。

② New South Wales Global

対応者 : Adele Pitkeathly (Director, UNSW Global Education English Program)

- コース : Western Sydney と同様、Foundation (UJFS) と EAP (WNSW Language Institute) の二つのコースに分かれる（施設も別）。学生数：約 1,000 名。おもに UNSW への進学をめざす学生が対象。
- IELTS Test Center を併設。
- EAP コース : 年間約 500 名。28 クラスで 1 クラスの人数は 18 名を上限としている。
- 実施時期 : 10 週間から 20 週間までの 3 つのコースがある。大学の学期開始時期に合わせて開講時期を決めている。10 週、15 週、20 週のプログラム、大学の学期開始に合わせて開講。
- USW 入学の要求に応じた英語のレベルは 6.0 なので、例えば 15 週間コースであれば IELTS5.0 の学生が入学。コースを修了時に 0.5 向上することをゴールとしている。
- 学生のリクルートには、各国、特に中国においては留学エージェントとの契約を結んでいる。これは留学生の確保のためには重要であるとのこと。
- 学習者の入学時にプレイスメントテストを行っている。IELTS の点数を記載するように入学の申請書には書いてあるが、国によっては学習者がそれを拒む場合があるためである。学習に対するビリーフが国によって違うことに考慮することが必要である。
- カリキュラムの特徴 : 専門縦断的な形でトピックごとに大学の教材をベースに作成している。例えば「水問題」など大学に進学しても通用するトピックを取り上げている。学生の専門ごとに分けてカリキュラムを設けていた時代もあったが、非効率なのでやめたとのこと。タスクには大学での学習に必要なスキルを盛り込み、例えば biblio やレポートの書き方など、大学でクラスで必要になる活動を取り入れている。
- 教師のための意思統一が最も大切であるため、カリキュラムのための Blue book とも言うべきフレームワークをまとめている。Blue book には、コースの目的、終了時に達成されるゴール、必要となるポートフォリオ、タスクの方法と評価の基準、モデルをわかりやすく記載している。
- 教材開発 : 教材についてはカリキュラムから独自の開発を行っている。そのために開発チームをシニアの教員で構成している。教材は、機関の重要な知的財産であるということを強調していた。
- PD : 教員はシニアの教員新入教員を助けるメンターシステムを導入していることでコーディネーターの責任が過重になることを回避している。

③ Monash College

対応者：櫻木真由美 (Regional Manager, Business Development), 伊藤幸太朗 (Regional Manager, Business Development), Sibastian Malouf, Manager Learning and Teaching Quality, Molly Bonnefin (Manager, Student Experience and Homestay)

- 授業見学のあと、各担当者からのブリーフィング、およびディスカッションを行った。
- オーストラリア国内最大の大学予備教育機関、英語予備教育機関としても最も大規模かつ組織的に運営されている Monash University の 100% 出資会社。
- Program の基本は ELC (English Language Course), Foundation Course, Diploma Course の 3 コース、ELC のみ Clayton Campus 内。残りはメルボルン市内。
- IELTS Test Center を併設。年間受験者は 12,000 名と国内最大。
- 学生数 (ELC) : 3,000 人
- IELTS Test Center を併設。
- Pathway、すなわち学生のキャリア形成によってカリキュラムを考えている。Academic Pathway (Foundation Course, Diploma Course)、English Language Pathway (ELC, Customized Program)、Professional Pathway (Diploma) の 3 つの柱がある。
- Customized Program: 阪大の入っている 7 大学コンソーシアムプログラムなど、主に日本からの英語研修が中心。
- ベトナムの銀行員の英語研修など、ビジネス英語の研修も行っている。
- 各国（中国、東南アジアなど）へのライセンシングと教師派遣も行っている。
- 教育学部と協力して、英語教員の研修（英語、教授法）のコースも実施している。
- 近年は大学予備教育のみならず、大学の各部局と共同で Diploma コースにも力をいれている。
- Monash Professional: キャリアパスの支援も行っている。
- Monash English: カリキュラムは、大学との “Bridging” を重視している。CEFR A2+ から C1 に至るレベルで Monash English (General, 10~60週) から Monash English Bridging (10-15 週) へと 次第に Academic English に移行するプログラム。さらに Introductory Academic Program では、入学許可を受けているが、オーストラリアの教育システムに慣れていない学習者を対象に大学での学習方法について集中的に研修を行う。
- 教材は独自開発で、専従教材開発チームで教材開発と改善を継続的に行っている。
- 独立した評価チームが評価を行い、教育の質保証に力を入れている。そのために、PD も重視し、新任の教員にはベテランの教員が mentor としてつき、助言を行うシステムを採用してコースコーディネーターの負担を軽減している。
- Moodle を採用した blended learning を行っている。

④ University of Technology Sydney (Department of International Studies)

対応者：Neil England, Suzan Oguro (共に Senior Lecturer, International Studies)

- UTS では、他の大学とはことなり、大学における短期交換留学（英語）について調査した。
- 主に日本の大学との交換留学を行っている。
- 日本語専攻との協力体制が整っている。

5. 日本語教育機関における調査

① Western Sydney University

対応者：村中浩美（Lecturer: 日本語プログラム主任）

- Western Sydney University にて行われた語学教育と IT についてのセミナーにて講演を行った。中国語、日本語、英語担当教員などが参加し、ディスカッションを行った。
- その後、日本語教育担当教員にインタビューを行った。
- 日本語科目受講者数は 10 数年にわたって横ばいか微増。外国語科目の中では最も受講者数が多い。急減することは考え難い。
- UWS では、現在の Blackboard を併用した blended learning に加え、来年度（2016 年 8 月）よりオンラインによる遠隔教育科目を全学的（日本語科目含む）に設置する予定であるとのこと。

② University of Technology Sydney

対応者：尾辻恵美（Senior Lecturer, International Studies）、平井 泰（Lecturer, International Studies）

- 日本語教育は International Studies の中で行われており、各地域に関する研究を行うことになっている。3 年間（6 セメスター）の課程のうち、最終学年の 1 年間で全学共通の研究の方法を学び、対象地域へフィールドスタディに出かける（2015 年度：250 人中、日本語は 30 人）。
- 最近では、フィールドスタディに出かける前に、教員養成課程を持つ日本の大学と Online Interview Project（Buddy システムによる英語研修と日本語事前学習）を実施している。
- 日本に来る学生について、ビジネス日本語における協力の可能性について意見交換を行った。
- Learning Future/Innovative Curriculum の方針の下で、テクノロジーを活用したアクティビティーニング、学習者の学習スタイルに対応した指導が推進されている。Black board や Google Classroom、MOOCs などを利用した反転授業の実施や、各学期の間に Online 講座の実施（漢字学習などの予習または補講）を行うなど、講義を減らす方向に向かっている。

③ 国際交流基金シドニー事務所

対応者：中島 豊（副所長）

- 昨年度移転した国際交流基金シドニー事務所を訪問し、オーストラリアにおける日本語学習の概要について聴取。合わせて国際交流基金シドニー事務所で行われている日本語研修および教師研修など活動全般について、副所長の中島氏より説明を受け、質疑を行った。
- 日本語研修は週平日 3 クラスで 14 週のコースを、事務所内の教室で提供しており、費用は 300 豪ドルである。
- オーストラリア各地域の日本語教育者を対象に、研修やイベントを行っている。
- オーストラリア国内における日本語学習者は、初等教育では減っているが、中等教育、高等教育では近年微増している。大学における外国語科目では、過去も現在も学習者が最も多い科目である。

④ Monash University

対応者：岩崎志真子、Robyn Spence-Brown（共に Senior Lecturer, School of Language, Cultures and Linguistics）、倉田尚美（Lecturer, School of Language, Cultures and Linguistics），

- モナシュ大学人間科学部日本語コースにて授業見学およびビジネス日本語における協力の可能性に

について意見交換を行った。

- 授業見学：英語研修中の阪大生などがビジターとして参加しているところを見学。大阪大学言語文化研究科博士課程修了生の Jason Christopher Jones 氏が授業担当であった。
- 日本語プログラムの動向：日本語学習者数は 80 年代後半をピークに徐々に減少していたが、近年増加に転じている。モナシュにおいても今年度の 1 年次日本語受講者数は 550 名と過去最高に並ぶ水準。外国語科目としては最大。

6. 初等教育機関におけるバイリンガル教育に関する調査

⑤ Huntingdale Primary School

英語/日本語バイリンガル小学校（幼稚園～6年生）として成功を収めている Huntingdale Primary School を訪問し、授業見学および担当者へのインタビューを行った。

- ・2012 年より日本語教育における CLIL アプローチが実施されている。以後、ビクトリア州の言語教育政策における CLIL などの柔軟で、個人に配慮した、協働的な言語学習の推奨に基づき、モデル事例の一つとされている。
- ・運営体制：2015 年から Whole school approach を採用し、各教科（英語）と日本語の教員がカリキュラム策定・方針の共有などにおいて対等に連携できるよう、全校で体系的な PD と Meeting を実施している。こうした運営体制の改編は、各教科（英語）を中心に策定されたカリキュラムに基づいて日本語教育が行われてきたそれまでの体制とは大きく異なるとのことである。

7. まとめ

① 機関の設置形態

調査した全ての予備教育機関で、現在は大学が 100% 出資した独立した企業、あるいは NPO の形で経営されている。

② Foundation コース、Diploma コースと英語コース

各大学とも正規入学以外に、Foundation コース、英語コースの 2 つの Pathway を設けている。Foundation と Diploma コースが、国内の 12 年生または大学への進学希望者で、大学入学要件を満たしていない者が主な対象であり、英語のみならず、基礎学力の向上を目指し、大学での学習の基礎的な能力を高めることを目的にしているのに対して、英語コースは、大学への入学を認められているが、英語能力が不足している者を対象としている。大阪大学の現状を鑑みると、EAP コースが比較対象となる。

③ カリキュラム開発

各校とも、専従チームを設けて独自の教材開発、カリキュラムの充実に力を注いでいる。大学の授業との接続を重視し、英語だけでなく、オーストラリアの教授・学習の方法や、大学におけるアカデミックスキルの養成に力を入れている。専門分野ごとの教材は開発せず、interdisciplinary な教材を開発している。各校とも、専従チームを設けて独自の教材開発、カリキュラムの充実に力を注いでいる。また、Control を重視し、カリキュラム開発と評価に専従のチームがあたっている。カリキュラムを教材・指導的な立場で派遣する教員を一つにパッケージ化（例：Monash English”）し、海外の教育期間に提供している。

④ 授業

大学での授業との接続を重視し、アカデミックスキルの向上を重視した授業を行っている。アクティブラーニング中心。Blackboard や Moodle を採用して、オンラインでの授業支援が行なわれている。重要なのは、教材が統一されており、個々の教師の支援も手厚く行なわれていることである。1 クラスの人数は、どんなに大規模な機関でも 15 名～18 名を上限としており、CIEE の現状（20 名以上が常態化）は憂慮すべき状態である。

⑤ Professional Development (PD)

各校とも教師のための支援、特に教材や授業技術の向上などの PD に力を入れて Quality Control を重視していることを強調していた。英語の場合、ゴールが IELTS の点数などで明示されていることもあるが、教員が安心して教育に取り組めるように様々な支援が工夫されていた。

⑥ インターンシップ

上記のように、進学のみならず、その後のキャリア形成にも関与している（特に Monash）。Western Sydney で行われていた学内インターンシップは良いアイデアである。

⑦ 英語プログラムと大学との協力関係

すべての教育機関は、大学の 100% 出資であり、大学の各プログラムとの連携を重視しているとのことである。教材や教員のためのプログラムの提供など、提携が組織的に行われていた。

⑧ 学生のリクルートと市場開拓

全ての機関で、学生のリクルートに留学エージェントを利用していた。これは中東や中国においては重要であるとのこと。エージェントとの連絡調整に多くの力を注いでいるように見受けた。エージェントの費用は入学金の 10% であるとのこと。

また、英語プログラムをパッケージ化（カリキュラム、教材、責任教員）し、Monash の分校がある地域（インドネシア、中国など）を中心に進出している。IELTS テストセンターも合わせて設置している。

⑨ 強力な運営体制

教員のみならず、運営責任をもってプログラム運営にあたる Manager とそのもとでのスタッフが配置されており、学生のリクルートから教育、カウンセリング、ハウジング、キャリアパスなど、多くの分野にわたって大学との連携をとる体制ができていた。

⑩ 施設

大学の規模に関わらず充実している。施設の広さ、自習エリア（learning commons）の設置、PC の設置、オンライン教育の充実、さらに学生の福利厚生にいたるまで非常に充実している。また、教室も、CIEE のような大きな机ではなく、正方形の小型テーブルを組み合わせて、グループワークが行いやすいように工夫されているなど、アクティブラーニングを基本とした学習のための環境がととのっていた。



The College: Western Sydney University
Margaret Miller 氏



UNSW Global の施設



国際交流基金（JF）シドニー事務所



JF シドニー事務所教室



UTS の構内



左から尾辻先生、平井先生（UTS）、金、難波



Monash University



日本語クラス (Visitor Session)



Monash College 授業風景



Huntingdale Primary School



5. 「キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション」の新規開講に向けて

国際教育交流センターは、平成28年度に大学院生向けの学際融合教育科目として新たに開講する科目として、本学における大学院留学生と日本人学生の両方のキャリア形成及び職場のダイバーシティにおける問題解決能力・コミュニケーション能力の養成を目指して、「キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション」のカリキュラムを開発した。その背景には、日本政府が掲げる「留学生30万人計画」は、留学生の積極的な招致だけでなく、卒業後日本で就労することによる地域社会のグローバル化をも視野に入れており、留学生に対する就職支援が産官学間での早急課題となっていることが挙げられる。またセンター主催の「留学生のための就職対策講座」で実施されたアンケートで単位を伴うキャリア教育科目開講の要望が上がっていたことも要因として挙げられる。

本科目では、1980年代より、知識は自らが環境との相互作用によって構築していくという構成主義の台頭により脚光を浴びているアクティブラーニングや協働学習を取り入れ、さらにICTを活用するstudent-centeredな授業を目指す。さらには留学生と日本人学生が専門分野を超えて協働的に学ぶ環境作りを目指す。評価においては、知識を収集・統合し適切な判断を下しながら課題解決を図る能力はテストだけでは評価できないため、継続的な学習成果物や学習履歴データの記録（学習のエビデンス）を多面的に評価する。

(1) カリキュラムコンセプト

本授業では、日本の内外において言語や文化の異なる人々と働くことに興味のある学生を対象とし、就職の準備から入社後の活躍までを見据え、自己概念の成長と就職活動の準備、及び職場のダイバーシティにおける問題発見解決能力、異文化間コミュニケーション能力の養成を目指す。授業前半の学習目標として、1) 日本の就職システムおよび就活用語を理解し、就職活動に積極的に取り組むことができる、2) CV（履歴書）、ES（エントリーシート）の書き方を修得し、就職活動のスキルをアップさせる、後半で、3) ビジネス場面における異文化コミュニケーション・コンフリクトマネージメントの特徴を理解し、協働的なコミュニケーションを構築することができる、4) ビジネス関連の語彙や用語を理解し、問題発見解決のプロセスで積極的に用いることができる、この4つを掲げる。

(2) アクティブラーニング・協働学習

本授業では、アクティブラーニング・協働学習を積極的に取り入れる。前半には、業界研究プロジェクトと題したグループプロジェクトを予定している。発表に向けての準備を通して、ダイバーシティな環境下で共に学び合い、知識の共有を図る。発表時にはピアレビューを課する。後半には、ケース学習による対話的コミュニケーションの実践と発表活動を予定している。ケース学習とは、事実に基づくケース（仕事上のコンフリクトの事例）を題材に、参加者が協働でこれを整理・討論する。その過程でビジネス場面でのコンフリクトを疑似体験しながら問題解決方法を導き出し、最後に一連の過程について内省を行うところまでの学習活動である（近藤・金2010）。この活動では、異なる言語文化背景や学習経験を持つ留学生と日本人学生同士が共通の課題遂行のために、互いの価値観や経験・知識を尊重しながら、対話を通じて協力的に学ぶことが求められる。対話を重ね自分を伝え相手を理解していく過程で互いの知識や情報が補完され、一人ひとりに新たな気づきや思考の深まりが起こることを期待するものである。以下に、ケース学習における討論のための設問の例と10のケースを挙げておく。

〈討論のための設問の例〉（近藤・金 2010）

-
- [1] それぞれの気持ちを考えてみましょう。
 - [2] この状況で何が問題だと考えますか。
 - [3] あなたにも似た経験がありますか。
 - [4] あなただったら、このような場合どのように行動しますか。
 - [5] 相談された場合、どのようにアドバイスしますか。
-

〈授業で取り上げる 10 のケース〉（近藤他 2013）

CASE01 まだ 9 時半です！	CASE06 中間の納品が大変!!
CASE02 私に任せられたはずなのに……	CASE07 完成度
CASE03 変更はできません	CASE08 もう動かさないで！
CASE04 なぜ期待ははずれたの？	CASE09 空気を読んで!?
CASE05 ほう・れん・そう!?	CASE10 結論は同じなのに……

(3) ICT 活用

本授業では、CLE、ブログ、SNS、ラーニング・ログ・システムといった ICT を活用し、履修者の学習をサポートする。ラーニング・ログ・システムについて、Ogata et al. (2011) は、次世代の e-Learning 環境として、日常生活での学習の体験をラーニング・ログとして蓄積し、他の学習者と共有することで知識の拡大を支援し、学習者の環境やニーズに応じた情報コンテンツを提供する学習環境の構築を目指し、SCROLL (System for Capturing and Reminding of Learning Log) と呼ばれるラーニング・ログ・システムを開発した。授業では、履修者向けの学習コンテンツを epub 化して SCROLL に実装し、学習した知識の記録、体系化、記憶の補強、振り返りを支援する（図 1、2 参照）。

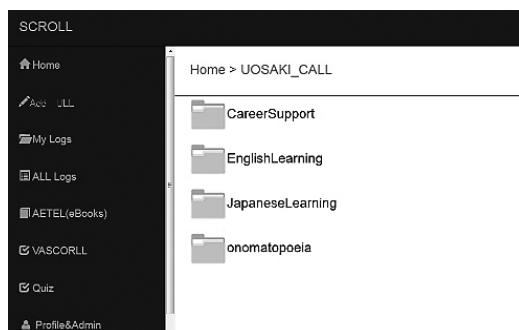


図 1 “CareerSupport” フォルダ

平成26年ににおいて、「留学の在留資格をすうめん（以下「留学生」という。）が在留外国人の在留者への対応を目的として行った在留資格審査業務の中堅として知られる者は14,170人（注）で、このうち12,599人が外務省においており、前年の割合数である12,793人より1,377人（10.8%）前年の割合数である11,647人より1,311人（11.3%）増加している。（注）平成25年までは、在留資格留学のかねが外務省への委託部門に係る在外公教費を対象としていたが、平成26年から在外公教費を対象とした待避活動（移動が既定活動中の者、就労内定者等）の在留資格申請への対応も含むものと見なして計算している。

在留資格審査件数は年々増加傾向にあるが、これは研修へ入教である。

平成26年ににおける在留状況を主な国籍・地域別内訳で見るところ

- ①中国9,347人（前年比710人、9.3%増）
- ②韓国1,234人（前年比7人、0.6%増）
- ③ベトナム111人（前年比187人、44.1%増）
- ④台湾514人（前年比154人、42.8%増）
- ⑤ネバール278人（前年比15人、5.1%減）

在留資格・在留許可（ざいりゅうきょく）とは、外国人が日本に入国・在留して行うことのできる活動等を規制化したもので、詳細は出入国管理及び難民認定法（入管法）とその下位命令（施行規則）により規定されている。

図 2 eBook インターフェース

(4) シラバス

時間割コード				開講区分	1学期
ナンバリング コード※				曜日・時間	木・4
開講科目名	キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション			定員	15名程度
開講科目名 (英)	Career Design and Business Communication			単位数	2
対象所属	全研究科			年次	博士前期・後期課程
担当教員 (所属)	金 孝卿・魚崎典子(国際教育交流センター)			授業形態	演習
講義題目※	職場のダイバーシティの中で働くために必要な知識を学ぼう				
開講言語	日本語				
キーワード 「○」を入れ てください。	世界	異分野	成熟	タフ	
	○		○		
授業の目的	就職の準備から入社後の活躍までを見据えて、自己概念の成長と就職活動の準備、および職場のダイバーシティにおける問題発見解決能力・異文化間コミュニケーション能力を養う。				
学習目標	1) 日本の就職システムおよび就活用語を理解し、就職活動に積極的に取り組むことができる。 2) CV(履歴書)、ES(エントリーシート)の書き方を修得し、就職活動をスキルアップさせる。 3) ビジネス場面における異文化コミュニケーション・コンフリクトマネージメントの知識を理解し、協働的なコミュニケーションを構築することができる。 4) ビジネス関連の語彙や用語を理解し、問題発見解決のプロセスで積極的に用いることができる。				
履修条件・受講条件※	日本の内外において言語や文化の異なる人々と働くことに興味のある学生。留学生の場合は日本語の漢字1000字以上の読み書きができるることを受講条件とする。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キャリアデザイン(課題と方法) 第3回 自己分析・キャリア形成 第4回 企業研究 第5回 就職の流れ、インターンシップ、Web-test、業界研究プロジェクト(1) 第6回 履歴書(CV)、ESの書き方 業界研究プロジェクト(2) 第7回 合同企業説明会対策、面接対策 業界研究プロジェクト(3) 第8回 模擬面接・業界研究プロジェクト発表会 第9回 前半：ビジネスコミュニケーションの特徴を知る ケース学習とは 第10回 ケース学習 グループ・ディスカッション1) 第11回 ケース学習 学生による発表・評価 第12回 ケース学習 グループ・ディスカッション 2) 第13回 ケース学習 学生による発表・評価 第14回 ケース学習 グループ・ディスカッション 3) 第15回 ケース学習 学生による発表・評価				
授業外における学習	プロジェクト学習準備・プレゼンテーション準備・CV作成・ES作成				

教科書・教材※	『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習～職場のダイバーシティで学び合う～』ココ出版
参考文献※	必要に応じて授業中に指示する。
成績評価	●授業内タスク 25%、プレゼンテーション 25%、授業外タスク 25%、レポート 25% ●出席 2/3 以上
コメント※	グループディスカッション、グループプロジェクト等、アクティブラーニング中心の授業です。授業には積極的に参加することを心がけてください。日本人学生と留学生が協働的に学習しながら、職場のダイバーシティでの学び合いを疑似体験できる場になることを願っています。

<参考文献>

近藤彩・金孝卿（2010）「「ケース活動」における学びの実態—ビジネス上のコンフリクトの教材化に向けてー」『日本言語文化研究会論集』第6号、pp.15–31、国際交流基金日本語国際センター・政策研究大学院大学

近藤彩・金孝卿・ヤルディ,ムグダ・福永由佳・池田玲子（2013）『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習—職場のダイバーシティで学び合うー【教材編】』ココ出版

Ogata et al. (2011) : H. Ogata, B. Hou, M. Li, M.M. El-Bishouty, N. Uosaki, and Y. Yano, "SCROLL: Supporting to Share and Reuse Ubiquitous Learning Log in the Context of Language Learning," International Journal of Research and Practice on Technology Enhanced Learning (RPTEL), Vol.6., No.2, 2011, pp.69-82.

6. 夏季短期留学生向け『理工学研究プログラム』

本学の海外協定校から、その長期休暇期間中に集中的に研究活動を行う、主に学部生を対象としたプログラムを提供して欲しいとの要望が多く寄せられてきていた。その要望に答えるべく、既存プログラムとして十分な実績を持つ「FrontierLab@OsakaU」（1学期～1年の期間、研究室に配属され研究活動を行うプログラム。以下、レギュラーフロンティア）の枠組みを基盤として活用し、新たな短期留学生受入れのための取り組みとして「FrontierLab@OsakaU Summer Program」（以下、フロンティアサマー）を2015年度に開発した。

フロンティアサマーにおいて留学生は、レギュラーフロンティアと同様に、質の高い研究を遂行している「研究室」における活動を体験し、そこで研究遂行に必須の能力（実験立案・実行、資料検索・整理、論文執筆・発表等の知的生産技術や、ディスカッション・ネゴシエーション等の対人スキル）を高いレベルで獲得する。また留学生を受入れる研究室にとっては、研究活動はもとより普段の生活や研究室行事など全てが多文化共生環境へと変化し、外国人留学生相互を含めた多文化交流が促進されることで、日本人研究者（学生・教職員）個々の意見交換スキル等、国際的通用力が継続的に向上すると共に、派遣元大学と受入側研究室との研究交流の多様化も促進される。実施初年度である2015年度には研究成果が論文や共同研究へと進んだ例も見られた。

実施後のアンケート等を通じて、学生・受入研究室双方から本プログラムに対して非常に高い評価を得たことが分かった。さらに協定校側からは派遣者数枠の拡大の打診があり、それらの結果を受けて、全学国際交流委員会傘下のフロンティアラボ運営企画会議において、2016年度以降の受入れ体制の拡充を検討している。将来的には広く全世界の協定校に留学機会を提供することとし、さらには派遣を含めた双方向の学生交流推進へ貢献することを通じて、大学の国際化・国際競争力強化の一翼を担うプログラムへの発展を目指したい。

【2015年度プログラム修了生と指導教員】



7. 留学ポートフォリオ

高等教育では、学生たちの成長を的確に評価するために、学内外にわたる様々な「学び」を包括的・網羅的に記録する必要がある。当センターでは、主に派遣留学生を対象として、その「学び」を可視化するために学習記録システム「留学ポートフォリオ」を開発してきた。

2015年度には、全学派遣留学プログラムである夏季（イギリス）および春季（オーストラリア）短期語学研修の参加者を中心に、本システムを活用した。2016年3月現在の利用者数は243名である。学生らは海外での様々な「知見」・「発見」・「経験」をシステムへアップロードし、それによって彼らの成長を多様な視点から可視化すること可能になる。留学中に獲得した「成績」だけではなく、その「獲得過程」をも多角的多元的にトレースすることが可能になることが本システム活用の大きな利点である。そのようなデータの蓄積を留学中に同時進行的に実施することにより、教職員サイドからは、キャンパスから離れている様々な学生の活動やパフォーマンスを一括してモニターしながら、各々に必要な修学上や危機管理上の指示を送ることも可能となっている。

システム広報活動の一環として、これまでにリーフレットの作成・配布や、大阪大学学務情報システム「KOAN」掲示板等での情報提供と併せて、本学公式webサイト上での動画公開等に努めている。2016年1月にはシステム説明会を開催し、学内外合わせて51名の参加者があった。

今後も多言語対応を進めるなど、より幅広い関係者によるシステム利用を可能とし、厳格な個人情報管理を施しながら、留学先の教職員やインターンシップ先の関係者など、様々なステークホルダーによって学生の成長を見守り、また検証できる環境を整備し、学生交流、特にoutboundに関するシステムティックなサポート体制を強化して行きたい。

【留学ポートフォリオシステム ログイン画面】



**国際教育交流センター主催
大阪大学「留学ポートフォリオ」説明会**

1. 開催日時 平成28年1月29日(金) 14:00~(開場13:30~)
2. 開催場所 大阪大学 吹田キャンパス 情報科学研究科A棟 講義室110
3. 説明会次第

(敬称略)

開会の挨拶(14:00~14:05)

国際教育交流センター センター長 有川 友子

講演(14:05~15:35)

テーマ「たくましい学生を育てるeポートフォリオ」

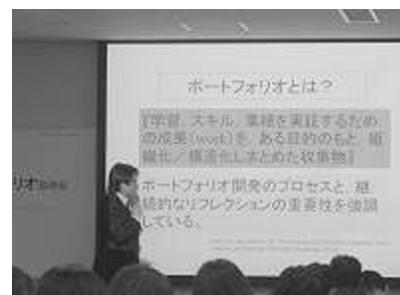
東京学芸大学 情報処理センター 准教授 森本 康彦

大阪大学「留学ポートフォリオ」の紹介(15:35~16:15)

国際教育交流センター 教授 近藤佐知彦

質疑応答 15分(16:15~16:30)

閉会



【説明会の様子およびポスター】

8. 短期プログラムの「将来像」について

2015年3月に策定された「大阪大学国際戦略」において、2024年までの施策として、以下の目標を掲げている。

留学生の受入推進

様々な国籍やバックグラウンドの人材が切磋琢磨する場を構築するため、すべての課程における留学生割合を増加させる。具体的には、2020年に学部の留学生割合を10%に、大学院の留学生割合を25%に、学生全体では15%に増加させ、戦略期間中に全学生に占める留学生割合17%の達成を目指す。そのために、協定校制度による優秀な学生の受け入れなど、多様な留学生の受け入れのための柔軟な入試制度を構築し、実行組織としてグローバルアドミッションズオフィスを活用する。

短期留学プログラムやサマープログラムなど国際的に互換性のあるカリキュラムを拡充・発展させるとともに、英語で受講可能な科目数を増加させ、英語による履修のみで学位を取得できるコースの増設を進める。将来の若年人口増と高等教育への需要増が予想される国々、たとえばインドネシア、ベトナムなど東南アジア地域の重点国、南アジア、中東、中南米諸国等と戦略的交流を推進し、留学生を受け入れる。

上記の野心的な目標を、例えば学部生レベルで計算すると、学部だけで1600名以上の受入を達成する必要がある。達成させるために、現在注力されている施策としては；

- (1) 私費留学生としての留学生受入
- (2) 交換留学生としての留学生受入
- (3) 授業料を徴収する「サマースクール」スタイルの留学生受入

…の三本柱での受入である。同時に、それだけではかなりの「取りこぼし」が生じるのは避けられないところもある。したがって、その打開策として；

- (4) まったく新しい発想の受入プログラム

を検討することは必要になってくると考えている。

上記の(1)については、正規生の受入促進であり、入試改革などをともないつつ、全学的な取り組みと相当の資源を投入する必要がある。本センターのミッションからは多少は離れるといつてもよいだろう。同時にこのような受入は留学生受入の王道でもあり、本学の教育理念などを色濃く受け継ぐ優秀な人材を世界に送り出すという目的のために(1)のカテゴリーの受入を進めるべきである。(2)(3)および(4)の受入手法に関しては、非正規受入ではありながらも、その後の「還流」、つまり正規生受入などに繋がるような工夫を行うのが適当だと考えられる。

正規生受入に繋がる受入として、(2)については、本センター短期留学プログラム研究開発チームでは、授業料不徴収型、つまり交換留学ベースのプログラムとして国際教養・専門複合型プログラム（いわゆるOUSSEP）を運営している。1996年に22名の受入で発足して以来、本プログラムは順調に受入数を伸ばしてきている。特に2005年度に「国際交流院会・OUSSEP検討ワーキンググループ」を設置して、1セメスターのOUSSEP受入などについて提言、またその成果の一部は「FrontierLab」といったOUSSEP以外のプログラムとしても結実している。ここ数年は各セメスターに80名弱の受け入れを続けているのは特筆しても良いだろう。

ただ考えねばならぬのは OUSSEP は非正規生としてはそれなりに学内のリソースを費消するプログラム

であり、「大阪大学国際戦略」に掲げられた野心的な量的目標を達成するために、OUSSEP に代表される交換留学プログラム群を拡張することのみを考えるのは、無謀でありまた無策であるという点だ。学内では人間科学研究科が新規短期プログラムの（仮称）Frontier Human Science Program を Monash College と協働で運用するなど、新たな動きが出ている。既存の教育リソースを活用して新たな受入スキームを作り上げる動きとして、本センターからも支援を行いつつ、協働してプログラムの成功を期すことにしている。

OUSSEP に代表される短期ベースのプログラムの拡張によって数値目標を貯うのは「無謀にして無策」とコメントしたが、具体的には量的目標の達成のために活用するべきは(3)のサマースクールタイプの受入増強ということになる。

日本サイドで付与する奨学金資源も枯渇していく中で、交換留学よりも短い期間で完結し、在籍校の授業スケジュールにも影響されるところの少ない「授業料徴収型プログラム」として、本センターでは日本語防災プログラムと、学期内日本語専修プログラム（いわゆる J-ShIP）を運営してきた。基本的な考え方としては、様々なニーズに応えるとしても、本センターが提供しうる教育リソースとしては日本語をキラーコンテンツとして利用していくという考えに基づいている。

ただしその一方で、世界最先端の研究を数多く手がけている本学のプログラムとして、やや偏ったプログラム構成になっていることは否めない。本センターが主体的に手がけているわけではないが、チームの教員が深く関与しながら「FrontierLab@osakaU」のサマースクール版が 2015 年度から運用が始まっているのは朗報である。

(3)のサマースクールタイプは、いわば従来の交換留学協定の外側に増設・拡張を可能とするプログラムデザインであり、教室や宿舎などのキャパシティを調整していくことで、かなり柔軟に対応することが出来るはずである。その意味では、こういった作りのプログラムをさらに拡張していくことは理に適っている。

その一方で、それでも追いつかないほどに受入数を「かさ上げ」していく必要があるため、(4)のまったく新しいアイデアの検討も始める必要があると考えている。例えば以下のような非正規学生の拡張策である。

《インターンシップ》

語学（日本語）に関する集中的なレクチャーに加え、現在学生のニーズが高い「インターンシップ」に関するプログラムを提供する。学外の企業などと連携して、キャンパス外での学びに単位を付与するなど教育カリキュラムのアウトソース化が可能になる。学内リソースの節約を図りつつ、留学生増大といった果実を得る。この場合、教育の質保証（単位付与の妥当性とプログラム理念の学外者との共有）や、そもそも学外に協力者を得る場合に、学外関係者にどのようなインセンティブを与えるのか、といった点をクリアする必要がある。

《大学間協働プログラム》

本学の受入プログラムが、他学の受入プログラムと協働・協調する事を考えても良いのではないだろうか。本学の得意とする分野と他学の得意とする分野が異なる場合など、それぞれの特色を活かして期間を前後させて同一の学生を短期で受け入れたり、もしくは主プログラムと「pre-sessional」にあたる部分を分離させる、もしくは性格の異なるプログラム、例えば教室における学修とインターンシップについて異なった大学等が連携するなど、いろいろなパターンが考えられる。正規生には Double Degree や Joint Degree があるように、非正規生に対しても Joint Program が選択できる方が学生のニーズに応えられるのではないか、という発想である。

以上、本稿については短期プログラムのコーディネートや開発を行ってきた経験から、近藤佐知彦が個人的に記しているものであり、本センターの見解を代表しているものではない事はおことわりした上で、今後の読者諸賢のご意見を乞いたい。

9. 研修会・講習会の開催

国際教育交流センターでは、留学生の安全な暮らしを支援するため、「留学生のための交通安全講習会」を今年度も4月と10月に開催した。また障がいを持つ留学生に対して合理的配慮をどのように行うべきかを学ぶため、教職員対象の研修会「多様な留学生を受け入れるにあたって～」を9月と2月に開催した。さらに、ハラスメント問題に対する意識向上を図るため、教職員を対象とした「ハラスメント問題研修会」を3月に開催した。

(1) 留学生のための交通安全講習会

国際教育交流センターは、留学生の安全な日常生活を支援するため、吹田警察と安全衛生管理部との共催で「留学生のための交通安全講習会」を今年度2回開催した。背景として前年度に留学生が関わる自転車事故が発生したことが挙げられる。参加者は4月54名、10月130名であった。

Important information for all international students

留学生の皆さんへ大事なお知らせ



Learn about dangers, rules and manners for riding a bicycle!

一度は知っておこう！ 自転車運転の危険とルールとマナー

Suita City police will hold a workshop about bicycle riding.

吹田警察署による自転車に関する安全講習会を行います。

※同時通訳あり(Simultaneous English interpretation)

4:30 p.m., Mon., Apr13
平成27年4月13日(月) 16時30分～

Osaka University, 3rd Floor, Icho Kaikan,
Suita Campus
吹田キャンパス 銀杏会館 3階

We don't know much about "traffic rules" for bicycles.



安全衛生管理部／学生交流推進課



我々は自転車の「交通ルール」が知らないことが多いです。

Important information for all international students

留学生の皆さんへ大事なお知らせ



Learn about traffic safety, especially about rules and manners for riding a bicycle!

交通安全、自転車運転のルールとマナーについて学ぼう！

Suita City police will hold a workshop about traffic safety.

吹田警察署による交通安全講習会を行います。

※同時通訳あり(Simultaneous English interpretation)

4:30 p.m., Mon., October 19
平成27年10月19日(月) 16時30分～

MO Hall, 3rd Floor, Convention Center, Suita Campus,
Osaka University
大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター 3階 MOホール

We don't know much about "traffic rules" for bicycles.



自転車の「交通ルール」について
我々は知らないことが多いです。



国際教育交流センター／安全衛生管理部／学生交流推進課

(2) 研修会「多様な留学生を受け入れるにあたって～」

国際教育交流センターは、障害を持つ留学生に対して公正な対応をすべく、キャンパスライフ支援センターとの共催で同センターの望月直人特任准教授による研修会を今年度計2回開催した。背景には2016年度4月より施行される「障害者差別解消法」にセンターとして適切に対処する必要性があることが挙げられる。参加者は9月4日「多様な留学生を受け入れるにあたって～自閉症スペクトラムの学生を受け入れる場合～」27名、2月26日「多様な留学生を受け入れるにあたって～事例検討：自閉症スペクトラムの学生のケース～」23名であった。

研修会のご案内	研修会のご案内
 キャンパスライフ 支援センター CIEE Center for International Education and Support Center for Campus Life	 キャンバスライフ 支援センター CIEE Center for International Education and Support Center for Campus Life
多様な留学生を受け入れるにあたって ～自閉症スペクトラムの学生を受け入れる場合～	多様な留学生を受け入れる ～事例検討：自閉症スペクトラムの学生のケース～
日時 平成27年9月4日(金) 10:00-11:00	日時 平成28年2月26日(金) 15:00-16:00
場所 吹田キャンパス ICホール 2F 第5・6講義室	場所 吹田キャンパス ICホール 4階 会議室
講師 大阪大学キャンパスライフ支援センター 望月 直人 特任准教授	講師 大阪大学キャンパスライフ支援センター 望月 直人 特任准教授
	
主催: 大阪大学国際教育交流センター 共催: 大阪大学キャンパスライフ支援センター・学生相談室	主催: 大阪大学国際教育交流センター 共催: 大阪大学キャンパスライフ支援センター・学生相談室



研修会の様子 (2016.2.26)

(3) ハラスメント問題研修会

国際教育交流センターでは、ハラスメント問題に対する教職員の意識向上を図るために、ハラスメント相談室の上原秀子特任講師による「ハラスメント問題研修会」を3月25日に開催した。今回は、特にアカデミック・ハラスメントの問題を中心に講演および質疑応答が行われた。参加者は11名であった。

II. 現況

1. 運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してきた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター教員12名（専任教員9名と特任准教授3名、平成27年6月1日現在で以下同様）、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計28名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員14名全員（専任教員10名、特任准教授3名、特任助教1名）及び学生交流推進課学生交流企画係長と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

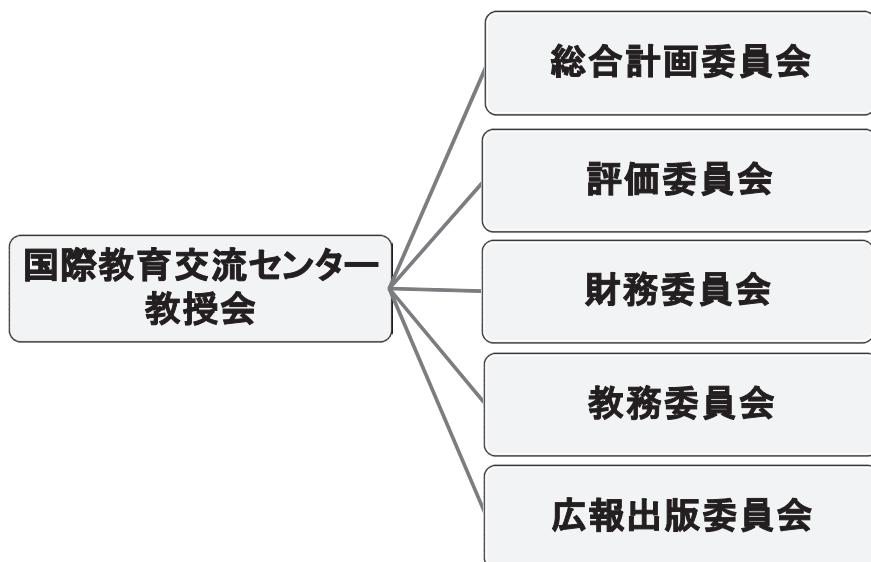


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授 1、准教授 1、特任准教授 1）、短期プログラム開発研究チーム（教授 1、准教授 1、特任助教 1）、日本語教育研究チーム（教授 2、准教授 4、特任准教授 2）の 3 つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム 2、短期プログラム開発研究チーム 3、日本語教育研究チーム 1、サポートオフィス 2）も参画して、実際の業務にあたっている。

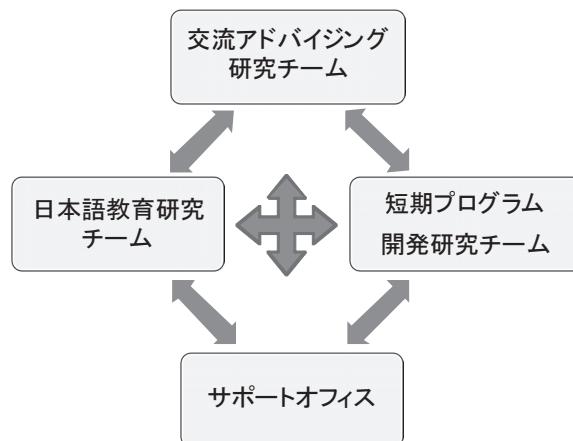


図 2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ 支援	海外留学派遣 支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語研修コース ・留学生日本語プログラム ・国際交流科目 ・全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） ・全学共通教育基礎セミナー ・大学院教育 ・大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム ・超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム ・学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 ・各種の超短期プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・OUSSEP 運営 ・超短期プログラムの開発と運営 ・留学生オリエンテーション ・留学生を対象としたカウンセリング ・受け入れ・派遣に関わるコーディネーション ・大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 ・Brothers and Sisters Program (BSP) の支援 ・留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 ・留学生のキャリア支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期派遣留学プログラムの開発と運営 ・留学生相談・アドバイス ・海外留学・研修等危機管理オリエンテーション ・受け入れ・派遣に関わるコーディネーション ・海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 ・海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生交流情報室 (IRIS) ・留学生支援ボランティア協議会 ・いちょう日本語プログラム ・ホストファミリープログラム ・公立学校教員初任者研修 ・国際理解教育への協力 ・ほんごテーブル運営のボランティアグループの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 ・ビザ取得手続き等各種手続きのサポート ・宿舎手配の支援 ・新規来日者オリエンテーション ・各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 ・多文化社会と留学生交流研究会の開催 ・留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 ・日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究 				

図 3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2015年6月現在

センター長		有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング	教 授	有川 友子
研究チーム	准教授	伊藤ゆかり (博士 (国際公共政策))
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
短期プログラム開発	教 授	近藤佐知彦 (Ph.D、Social Science)
研究チーム	准教授	宮原 啓造 (Ph.D、Mechanical Engineering)
	助 教	歳岡 涼香 (特任、博士 (言語文化学))
日本語教育研究	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
チーム	教 授	西口 光一 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
		難波 康治 (教育学修士)
兼任教員	留学生受入れ	西村 謙一 (法学修士)
	専門教育教員	義永美央子 (博士 (言語文化学))
		磯野 英治 (特任、博士 (日本語教育学))
		金 孝卿 (特任、博士 (応用言語学))
		鄭 聖汝 (講師、文学研究科)
		安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		ペドリサ・ルイス (准教授、法学研究科)
		ヴィラワン・ドニー・ダハナ (准教授、経済学研究科)
		浦川 理 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		金子 聖子 (助教、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		鎌谷 研吾 (講師、基礎工学研究科)
非常勤講師	岡崎 洋三、畠中 香乃、山崎 深雪、福良 直子、藤澤 好恵、小原 俊彦、 岡田亜矢子、梅本 仁美、伊藤 創、滝井 未来、菅 摂子、浦木 貴和、 滑川恵理子、櫻井 千穂、野々口ちとせ、蔭山 拓、上仲 淳、新庄あいみ、 竹内 茜、田中 真衣、矢部 正人、花井 理香、木村 康代	
日本語TA	藤原 京香、久保田育美、松下 恵子、陳 雪蓮、柳 善美、王 健、 武藤 (小田) 佐智子	
特任事務職員	村田いずみ (留学生交流情報室)、段家 恒子 (留学生交流情報室)、 川上 圭子 (短期チーム)、山村 賛美 (短期チーム)、 遠藤 美紀 (短期チーム)、黒川 愛実 (サポートオフィス)、 三輪久美子 (サポートオフィス)、小関 祐子 (日本語教育)	
事務補佐員	根津 大輔 (短期チーム)、福井めぐみ (短期チーム) ローラン恵子 (サポートオフィス)、原 菜美子 (サポートオフィス)	

鹿島 実夢（日本語教育）
留学生交流情報室 橋本 洋子、岩根 由依、岡田 葉子、山下 景子
スタッフ

4. 今年度の動き

2013年7月に着任した磯野特任准教授は、2016年3月に特任の任期を終えて退任した。4月1日には、名古屋商科大学経済学部専任講師に着任された。新たな職場でのますますのご活躍を祈りたい。また、2015年4月より短期プログラム開発チームには、HELP!（日本人・留学生ペアワークによる阪大生英語力増強スキーム）や留学ポートフォリオ（留学準備から派遣留学の成果記録までを一気通貫に行うシステム）の事務担当の特任事務職員として遠藤美紀さんが着任した。

III. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施/提供している。学生の身分によって異なる日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心としたプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験 N 1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで 7 段階のレベルを設定している。

* 単位あり正規科目

対象留学生	プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中（研修）コース
	全 学	2. 留学生日本語選択コース
学部留学生	一般正規生	3. 全学共通教育：第 2 外国語/国際教養*
	学部英語コース	3'. : 第 1 外国語*
短期留学生	4. 国際交流科目（日本語）*	100～600
日韓共同理工系留学生プログラム生	5. 日韓共同理工系留学生プログラム	400・500

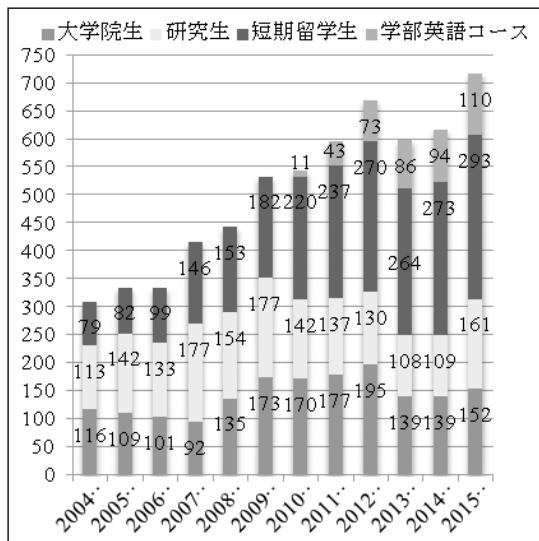


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生(上表の3)は含まない)

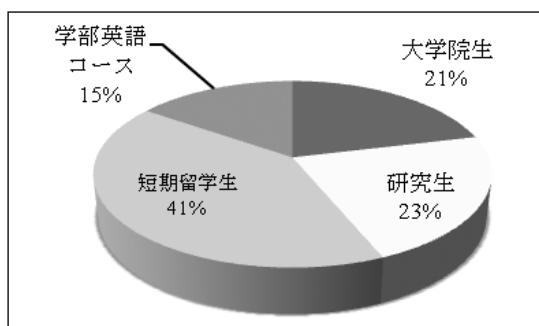


図2 履修者身分別分布

2015 年度の春学期・秋学期の履修者数合計は 716 名で、過去最高となっている（図 1）。身分別分布（図 2）の 41% と最大履修者数を占める短期留学生は、最大の履修者数であった 2014 年度よりもさらに増加し、293 名にのぼった。また、G 30 学部英語コース生も 110 名と過去最高の履修者数に達している。

2004 年度以降の推移（図 1）から、総履修者数が約 2 倍以上に増加していることがわかるが、短期留学生増（3.7 倍）および G 30 学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっている。G 30 による留学生増の方針を実現するために開始された学部英語コースや短期留学生の積極的受け入れといった大学の国際化戦略を反映した結果である。

一方で、各クラスの登録者数が従前より激増したことにより、2003 年度に竣工された IC ホール（吹田キャンパス）の教室が手狭になる、クラス数に見合った教室数がなく時間割作成に困難が生じるなど、課題も生じている。授業担当教員の創意工夫により、教育の質保証には最善を尽くしているが、大学全体の学事暦の変更も考慮に入れたコース再編を検討する時期に来ているといえる。

上記 1～4 のプログラムの春学期および秋学期の開講科目の時間割、および、選択コースの履修登録状況は、卷末記載の資料 1、資料 2 に示している。

1. 日本語集中（研修）コース

日本語集中（研修）コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした 15 週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生）も受け入れている。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100, IJ200, IJ300 の 3 クラス（春学期は IJ150 も含む 4 クラス）に分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には研修生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を隨時指導教員に報告し、日本語研修と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100/150 クラス

① 概 要

100 クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初步から日本語を学習する。例年受講生が多い春学期には、より学生のレベルに応じたきめ細かい教育を実施するため、100/150/200/300 の 4 クラス体制をとっている。100 クラスは日本語学習経験が全くない学生、150 クラスはカタカナやひらがながからうじて読み、挨拶程度の日本語が使えるレベルの学生を対象とする。いずれも授業時間数は 1 週間当たり 15 コマで、うち 4 コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100/150 クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第 42 期・第 43 期 日本語集中（研修）コース IJ100, IJ150 クラス時間割（平成 27 年度）

第 42 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			アクティビティ IJ100 のみ		
2 時間目 10：30-12：00	チュートリアル 1 (漢字と語彙)	チュートリアル 2 (漢字と語彙)	コンピュータと プレゼンテーション IJ100, IJ150	チュートリアル 3 (漢字と語彙)	チュートリアル 4 (漢字と語彙)
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コンピュータと プレゼンテーション IJ100 プレゼンテーション IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
4 時間目 14：40-16：10	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	アクティビティ IJ150 のみ	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150

第 43 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			コンピュータと プレゼンテーション IJ100		
2 時間目 10：30-12：00	チュートリアル 1 (漢字と語彙)	チュートリアル 2 (漢字と語彙)	コンピュータと プレゼンテーション IJ100	チュートリアル 3 (漢字と語彙)	チュートリアル 4 (漢字と語彙)
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	アクティビティ IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100
4 時間目 14：40-16：10	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100		コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100

(2) IJ200 クラス

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 12 コマで、10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200 クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第 42 期・第 43 期日本語集中（研修）コース IJ200 クラス時間割（平成 27 年度）

第 42 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			漢字と語彙 JK201（非漢字系） JK202（漢字系）		
2 時間目 10：30-12：00	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	読解 IJ200	読解 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	チュートリアル IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
4 時間目 14：40-16：10				コミュニケーション行動 IJ200	

第 43 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			漢字と語彙 JK201（非漢字系） JK202（漢字系）		
2 時間目 10：30-12：00	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	コミュニケーション行動 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション行動 IJ200	プレゼンテーション基礎 IJ200
4 時間目 14：40-16：10				コミュニケーション行動 IJ200	

※漢字と語彙：JK201 は、母語で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母語で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300 クラス

① 概要

300 クラスは、日本語を 1～2 年、約 200～300 時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は 1 週間当たり 9 コマで、「コミュニケーション行動」4 コマ、「文法・読解」2 コマ、「漢字と語彙」1 コマ、「研究計画書の作成（ライティング）」、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1 コマで構成されている。「コミュニケーション行動」はトピックベースの授業で、政府資料等の生教材を使用して読解、聴解、ディスカッション、ライティングを行い、「漢字と語彙」および「文法・読解」で語彙や文法を学習する。また、42 期から新たに導入された「研究計画書の作成」（43 期は「ライティング」）では、研究計画書の作成プロジェクトを通じ、アカデミック・ライティングの基礎を学習した。

② 時間割

春学期、秋学期とも、同一のトピック・ユニットで学習した。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、文化の歴史、社会の歴史である。

第 42 期・第 43 期日本語集中（研修）コース IJ300 クラス時間割（平成 27 年度）

第 42 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10：30-12：00	研究計画書の作成	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	チュートリアル	文法・読解 IJ300	研究計画書の作成	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300

第 43 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10：30-12：00	ライティング IJ300		コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12：00-13：00 昼休み					
3 時間目 13：00-14：30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	チュートリアル
4 時間目 14：40-16：10		文法・読解 IJ300			

※漢字と語彙：JK301 は、母語で漢字を使用しない学生のための授業。JK302 は、母語で漢字を使用する学生のための授業。

○ コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）、義永美央子（IJ100, IJ150 クラス）

○ 学生数と身分別内訳 (IJ150 は春学期（第 42 期）のみ開講のため秋学期（第 43 期）は “-” と記す)

クラス別人数

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第42期	10	9	8	5	32
第43期	15	--	6	6	27
合計	25	9	14	11	59

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第42期	32	--	0	32
第43期	3	7	17	27
合計	35	7	17	59

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第42期	10	9	8	5	32
第43期	1	--	0	2	3
合計	11	9	8	7	35

※2 教員研修クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第42期	--	--	--	--	--
第43期	7	--	0	0	7
合計	7	--	0	0	7

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100		IJ150		IJ200		IJ300		計	
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外
第42期	10	0	9	0	8	0	5	0	32	0
第43期	1	0	--	--	0	0	2	0	3	0
合計	11	0	9	0	8	0	7	0	35	0

※3 学内応募クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第42期	0	0	0	0	0
第43期	7	--	6	4	17
合計	7	0	6	4	17

○ 学生出身国と配置（進学）先一覧

研修生の出身国

国名	第42期	第43期
アフガニスタン	1	0
アルゼンチン	1	0
イエメン	0	1
イラン	2	0
インド	0	7
ウズベキスタン	0	1
エジプト	1	0
ガボン	1	0
ギニア共和国	1	0
ケニア	1	0
シリア	1	0
スーダン	1	0
スリランカ	2	0
スペイン	0	1
タイ	0	2
タジキスタン	1	0
チュニジア	1	0
ドイツ	1	0
ドミニカ共和国	1	0
ナイジェリア	1	0
パキスタン	1	0
パナマ	1	0
ハンガリー	1	0
パンダラデシュ	0	1
東ティモール	0	1
ブラジル	0	1
ブルガリア	1	0
ベトナム	1	2
ベネズエラ	1	0
ペルー	0	1
ボツワナ	1	0
ポルトガル	1	0
マレーシア	2	1
ミャンマー	1	0
モザンビーク	2	0
ヨルダン	1	0
ロシア	1	0
韓国	0	3
中国	0	5
計	32	27

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	第42期	第43期
経済学研究科	7	0
理学研究科	2	3
医学系研究科	2	4
歯学研究科	1	0
薬学研究科	1	0
工学研究科	7	2
国際公共政策研究科	5	0
言語文化研究科（言社）	2	1
情報科学研究科	2	2
微生物病研究所	0	4
産業科学研究所	2	2
蛋白質研究所	1	0
接合科学研究所	0	1
レーザーエネルギー学研究センター	0	1
大阪教育大学	0	6
和歌山大学	0	1
計	32	27

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要となるアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目も開講し、幅広く学内の留学生の日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受けたうえで、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ~ 数科目選択できるように設定されている。

○ 開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語・漢字と語彙・文法講義で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語を各スキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション・プレゼンテーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

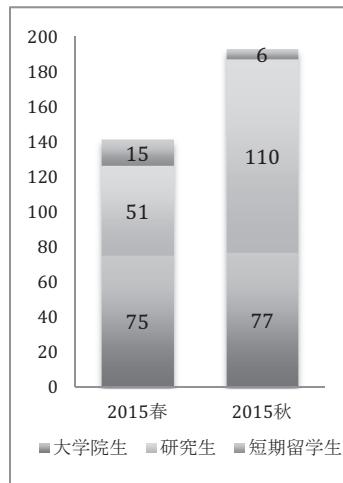
開講科目一覧

	一般日本語科目			専門日本語科目				
	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	文法講義 (JG)	アカデミックリーディング (JR)	アカデミックライティング (JW)	アカデミックコミュニケーション (JC)	アカデミックプレゼンテーション (JP)	ビジネス日本語コミュニケーション (BJ)
100 (入門)	JB100 ^{*1}							
200 (初級)	JB200 ^{*1}	JK ^{*2} 201	JK ^{*3} 202 /302					
300 (初中級)	JB300 ^{*1}	JK ^{*2} 301	JG 300/400					
400 (中級)					JW 400/500	JC 400/500	JP 400/500	
500 (中上級)								
600 (上級)				JR 600/700	JW 600/700	JC 600/700	JP 600/700	BJ 500/ 600/ 700
700 (超上級)								

*1 JA受講者は受講できません。*2 母語で漢字を使わない人のためのクラスです。*3 母語で漢字を使う人のためのクラスです。

○ 履修登録者数

実数で春学期 141 名、秋学期は 193 名、計 334 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、大学院生が約半数を占め最も多く、次いで研究生、短期留学生の順となっている。部局別では、工学研究科を筆頭に、19 研究科／学部および 4 研究所 2 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



学期・身分別受講者数



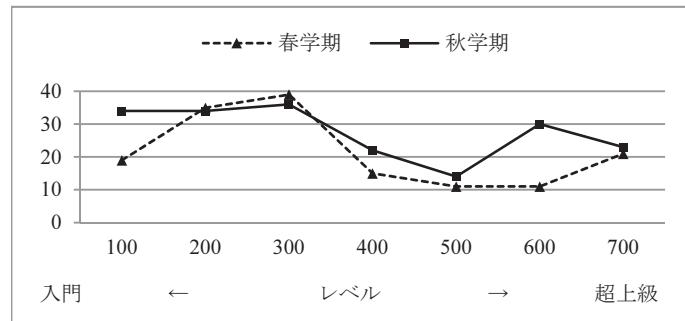
秋学期広報用ポスター

○ 履修者のレベル分布

入門（レベル 100）～中級前半（レベル 300）程度の履修者が多いが、秋学期には上級（レベル 600）の学習者数も 30 名にのぼっている。

○ 履修者の出身国・地域

春学期は 38 カ国・地域、秋学期は 43 カ国・地域に及ぶ。



3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第 2 外国語」と「国際教養 2」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第 2 外国語」として、後者を「国際教養 2」として履修する位置づけとしている（ただし、G30 学生は「第 1 外国語」と「国際教養 2」の科目として履修している）。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生と一緒にプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2009 年度に 2 コマ増設した「多文化コミュニケーション（日本語）」および 1 コマ増設した「専門日本語」（吹田キャンパスで開講）、2011 年度に 2 コマ増設した「専門日本語」に加え、2014 年度は、さらに受講者のニーズに配慮して授業を展開するため、「総合日本語」と「多文化コミュニケーション（日本語）」をそれぞれ 2 コマずつ増設するとともに、後期からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにし、2015 年度も引き続きその態勢を維持した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「基礎セミナー」（「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、計 29 コマ（実質 20 コマ）を提供した。

なお、2011 年度まで全学共通教育を担ってきた組織である「大学教育実践センター」は発展的に解消され、「全学教育推進機構」が発足して、共通教育は 2012 年度より新体制の下で実施されている。

○ 全学教育推進機構兼任教員

- 村岡 貴子 教授：企画開発部言語教育部門
- 近藤佐知彦 教授：企画開発部海外教育部門
- 大谷 晋也 准教授：実施調整部言語教育部会

○ 提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- 総合日本語（1単位：前期3コマ・後期2コマ計5コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- 専門日本語（1単位：前期3コマ・後期3コマ計6コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養2

- 多文化コミュニケーション（日本語）（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

下記(3)の「多文化コミュニケーションセミナー」を受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 基礎セミナー

- 多文化コミュニケーションセミナー（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○ 共通教育提供科目・担当者一覧

前　　期

後　　期

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	大谷 晋也
総合日本語	金 孝卿
総合日本語	磯野 英治
専門日本語	磯野 英治
専門日本語	難波 康治
専門日本語	村岡 貴子

授業科目名	担当者
総合日本語	磯野 英治
総合日本語	金 孝卿
専門日本語	難波 康治
専門日本語	大谷 晋也
専門日本語	村岡 貴子

(2) 国際教養2

多文化コミュニケーション（日本語）	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション（日本語）	宮原 啓造
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	磯野 英治
多文化コミュニケーション（日本語）	有川 友子

多文化コミュニケーション（日本語）	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	磯野 英治

(3) 基礎セミナー

多文化コミュニケーションセミナー	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーションセミナー	宮原 啓造
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	磯野 英治
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

多文化コミュニケーションセミナー	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	磯野 英治

4. 国際交流科目

本学では、英語（あるいはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。

本年度は、昨年度の 250 レベルの 1 科目を 300 レベルの JA300 として 2 トラック開講することとした。それに従い、従来の 300 レベル以降は順次に番号が繰り上がって、従来の 5 レベルから、JA100 から JA600 までの 6 レベルとなった。そして、今年度はこの 6 レベルで各レベルで 2 トラックの授業を開講した。各 JA クラスでは、90 分の授業が週に 3 コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようにカリキュラムが編成されている。

○ 提供科目と担当教員一覧

平成 27 年度 春学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック 1	金 孝卿・岡田亜矢子・花井 理香
JA100 トラック 2	金 孝卿・櫻井 千穂
JA200 トラック 1	磯野 英治・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック 2	磯野 英治・岡崎 洋三・上仲 淳
JA300 トラック 1	西口 光一・畠中 香乃・花井 理香
JA300 トラック 2	西口 光一・矢部 正人・岡崎 洋三
JA400 トラック 1	西口 光一・新庄あいみ
JA400 トラック 2	西口 光一・蔭山 拓・浦木 貴和
JA500 トラック 1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック 2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック 1	大谷 晋也・田中 真衣・小原 俊彦
JA600 トラック 2	大谷 晋也・伊藤 創・岡崎 洋三

平成27年度 秋学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック 1	金 孝卿・岡田亜矢子・花井 理香
JA100 トラック 2	金 孝卿・櫻井 千穂
JA200 トラック 1	磯野 英治・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック 2	磯野 英治・岡崎 洋三・上仲 淳
JA300 トラック 1	西口 光一・畠中 香乃・花井 理香
JA300 トラック 2	西口 光一・矢部 正人・岡崎 洋三
JA400 トラック 1	西口 光一・新庄あいみ
JA400 トラック 2	西口 光一・蔭山 拓・浦木 貴和

授業科目名	担当者
JA500 トラック 1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック 2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック 1	大谷 晋也・田中 真衣・小原 俊彦
JA600 トラック 2	大谷 晋也・伊藤 創・岡崎 洋三

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語（アカデミック・リーディング）A/B」「上級専門日本語（アカデミック・ライティング）A/B」「上級専門日本語（アカデミック・プレゼンテーション）A/B」「上級専門日本語（アカデミック・コミュニケーション）A/B」を学際融合教育科目として提供している。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、研究活動に必要となるリーディング・ライティング・プレゼンテーション・オーラルコミュニケーションの各スキルに特化した学習活動を実施しているが、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するよう努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○ 学際融合教育科目・担当者一覧

前 期		後 期	
授 業 科 目 名	担 当 者	授 業 科 目 名	担 当 者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一	上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子	上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) A	難波 康治	上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) B	難波 康治
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	義永美央子	上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	義永美央子

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOS プログラム）とは、日本の国立大学の理工系学部に韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成 12 年度より受入を開始した。本プログラムでは、学部入学前に 1 年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されている KOSMOS プログラムは、日本語教育と専門教科教育の 2 つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週 8 コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスをおこなっている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時間割

第2次第6期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（平成27年度）2015.10-2016.2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	(吹田)	(豊中)	(吹田)	(豊中)	(吹田)
1時間目 8:50-10:20		共通教育 数学聴講 解析学	理系 日本語① (村上) Room4		
2時間目 10:30-12:00	専門基礎 日本語① (蔭山) Room4	専門教科 化学 (立光) 213 演習室	理系 日本語② (村上) Room4	日本事情・ 異文化適応 (蔭山) C204	専門基礎 日本語③ (上仲) Room 4
昼休み					
3時間目 13:00-14:30	専門教科 物理(I) (金) Room4	専門教科 化学 (立光) 213 演習室	ホームルーム	専門教科 数学(2) (鹿間) C-S4	専門基礎 日本語④ (上仲) Room4
4時間目 14:40-16:10	専門教科 物理(II) (寺井) Room4	専門教科 数学(1) (宮田) C-S4		専門基礎 日本語② (磯野) C-S4	専門基礎 日本語⑤ (山崎) Room4
5時間目 16:20-17:50	専門教科 英語 (前川) Room4				

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センター IC ホールで授業）

※時間割は次の順で記載……授業名、() 内：講師名、下段：講義室名

※C-S4 は全学教育推進機構 C 棟 4 階 S4 教室、C204 は全学教育推進機構 C 棟 2 階 204 教室、

213 演習室は全学共通教育総合棟 II 2 階。

2. 学生数と進学先

平成26年度は、7名の学生を受け入れた。進学先は、理学部4名、工学部2名、基礎工学部1名である。

3. 平成27年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6月26日に筑波大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、本学からは村岡貴子・本センター教授、西村謙一・同准教授、学生交流推進課の上河原淳補佐と井上侑子係員の4名が参加した。同協議会は、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学と韓国側の予備教育担当大学である慶熙大学の関係者が一同に会し、予備教育を含めた本事業の現状とその問題点等について認識の共有を図り、より効果的な事業実施に向けて検討を行うことを目的としている。

(1) 日 程：2015年6月26日(金)

(2) 場 所：筑波大学国際会館

(3) 講 演

- (1) 「国費外国人留学生制度と日韓共同理工系学部留学生について」(文部科学省高等教育局学生・留学生課 留学生交流室国費留学生係長 柳瀬貴司) *日韓共同理工系学部留学生事業関連のみ抜粋
- 日韓共同理工系学部留学生の 2015 年選抜スケジュールの紹介 (今年度の留学推進フェア日程が 9 月 27 日と紹介されたが、日本側大学の要望を受けて再検討することとなった)
 - 今後の検討課題として、面接試験実施方法、韓国の教育課程を踏まえた出題範囲の設定、試験解答の公表、1 大学当たりの受け入れ人数の検討などがある。
 - 第 3 次事業にむけて、第 2 次事業のフォローアップ、韓国の大学修学能力試験（スヌン）活用、日本人の韓国留学、他分野への拡充などを検討する必要がある。
- (2) 「日韓共同理工系学部留学生事業の発展方向」(大韓民国国立国際教育院 Education Researcher Hwang Hyejeong)
- 事業概況：2011 年より兵役休学を許可、平成 27 年 4 月に学部を卒業した第 2 次第 1 期生 81 名中 53 名が日本の大学院に進学、直近 3 年間の出身高校はほとんどが一般高校、第 2 次第 4 期以降の倍率は 3.3 ~ 3.4 倍で推移 (2015 年は 3.36 倍)。
 - 2015 年度選抜方式改定案：高校の成績および面接試験を加算する (筆記試験対策に集中し、高校での学業を疎かにしてきた合格者の中から学部課程における不適応者が出ていていることを受けたもの)。
 - 将来に向けた提案：韓国での説明会と協議会の同時開催、大学修学能力試験の導入、予備教育課程の改革、学生管理の強化 (入学条件の強化、成績に応じた奨学金の削減)、第 3 次事業。
- (3) 「2015 年度第 2 次 6 期生韓国予備教育課程の現状報告」(慶熙大学校国際教育院院長 趙頤龍)
- 予備教育開始時点の日本語プレイスメントテストの結果は、過去数年と比較すると最低。
 - 日本語能力が最も高いレベルの学生は過去数年と比較して優秀。
 - 学生は日本語学習を例年以上に重視。他方、専門科目についてはあまり重視していない様子。
 - 学生の負担を軽減するため、TOEFL と日本留学試験の受験を免除。
 - 毎月、学生の成績および出席状況を評価。基準以下の学生に対する奨学金カット、保護者への通知、懲戒結果の貼り出しを実施。

(4) 全体会議

テーマ：日韓プログラムの受入れ体制について

目的：日韓生の渡日後の予備教育及び正規課程進学後の受入れ体制や修学支援について、複数の大学の事例や課題を共有し、より良い受入れの方策について検討する。

(1) 事例紹介：岡山大学、名古屋大学、東京外国語大学、筑波大学

各大学より、現状の教育方針やカリキュラム等について報告があり、続いて質疑応答がなされた。以下、順不同で、本学に関連する情報や主な提案について簡単にまとめる。

- 岡山大学から大阪大学大学院への進学者数 8 名
- 兵役を除き、休学・留年の割合は他の学生より少ない。
- 無駄なことはしないという、ある種の合理性を感じるとのコメントが出された。
- 予備教育の枠にとらわれない柔軟な制度的な運用は可能か。(例：教養科目の単位認定)

(5) 日韓生による発表

- 在学生と卒業生計 3 名による経験談が語られた。

V. 國際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として 500 人を優に超える交換留学生を受け入れてきた。G30 によって非正規生を含めた留学生の受け入れに数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプのプログラムとしての留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）と共に学ぶ状況を学内に作るための戦略的プログラムとしての性格も色濃くなってきた。なお国際交流科目の一部は「G30 英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムが充実している。

平成 27 年度の OUSSEP では、平成 26 年度の日本学生支援機構の奨学金付与方針の変更に伴い、引き続いて自主研究を行う学生と行わない学生を一本化して柔軟運用が出来るように配慮している。また主として奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、27 年度には 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を 6 住戸 18 人の三人シェア体制へ変更するなど、留学生受入スキームのインフラ的なバックアップを引き続いて進めてきた。

なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されていたが、平成 21 年度の G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となった。教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 3（うち特任職員 1 はスーパーグローバル創成支援事業によって増員）並びに事務補佐員 2 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけになっている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。

1. 行 事

OUSSEP および国際交流科目関係の行事（2015 年 4 月から 2016 年 3 月まで）

月	日	曜 日	行 事 等
4	1	水	4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/6（月））
	7	火	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO） 吹田キャンパスツアー OUSSEP オリエンテーション OUSSEP Buddy との顔合わせ ホストファミリーとの出会いの会
	8	水	IT オリエンテーション 豊中キャンパスツアー UR 学生オリエンテーション 自主研究指導教員面談
	9	木	国際交流科目（平成 27 年度第 1 学期）開始
	9～14		学生定期健康診断（豊中キャンパス）
	15	水	国際交流科目（平成 27 年度 1 学期）履修届提出締め切り
	20～27		学生定期健康診断（吹田キャンパス）
	22	水	自主研究 Registration&Study Plan Form 提出締め切り
	30	木	いちょう祭準備 授業休講
	1～2		いちょう祭 祭日
5	3	日	いちょう祭片付け
	4	月	いちょう祭片付け
6	1	月	日本食文化調理体験（高野豆腐）
	20	土	見学旅行（高野山）
	21	日	
7	13	月	日本食文化調理体験（わらび餅）
8	4	火	フェアウェルパーティ
	5	水	国際交流科目（平成 27 年度第 1 学期）終了
	6	木	夏季休業開始 終了学生隨時帰国
9	16	水	9月受入れ学生大阪到着（～9/18（金）） 市役所手続き等（～9/25（金））
	28	月	豊中オリエンテーション
	29	火	吹田オリエンテーション
10	1	木	国際交流科目（平成 27 年度 2 学期）授業開始
	9	金	国際交流科目（平成 27 年度 2 学期）履修届提出締め切り
	16	金	自主研究 Registration&Study Plan Form 提出締め切り
11	1	日	まちかね祭大学祭（～11/3（火））
	4	水	My Country & My University 発表会（吹田キャンパスサイバーメディアコモンズ） 大学祭片付け授業なし
	7	土	見学旅行（宮島・広島）
	8	日	
	16	月	日本食文化調理体験（お好み焼 VS 広島焼き）
12	22	火	冬期休業（～1/3（日））
1	15	金	大学入試センター準備のため休講
2	5	金	フェアウェルパーティ
	8	月	国際交流科目（平成 27 年度 2 学期）終了
	9	火	2月終了学生隨時帰国

2. 2015 年度春学期 : OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2015 年度 春学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

番号	性別	学年	国籍	所属大学	配属部局
1	女	U4	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	人間科学部
2	男	U3	アメリカ合衆国	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
3	女	U3	アメリカ合衆国	ワシントン大学	人間科学部
4	女	U3	アメリカ合衆国	ワシントン大学	理学部
5	女	U4	アメリカ合衆国	ワシントン大学	外国語学部
6	女	U3	アメリカ合衆国	ワシントン大学	理学部
7	女	U3	アメリカ合衆国	ワシントン大学	文学部
8	男	U4	アメリカ合衆国	ワシントン大学	工学部
9	男	U5	インドネシア	国立台湾大学	経済学部
10	女	U2	オーストラリア	アデレード大学	人間科学部
11	女	U4	オーストラリア	オーストラリア国立大学	法学部
12	男	U2	オーストラリア	モナシュ大学	文学部
13	女	U3	オーストラリア	モナシュ大学	外国語学部
14	女	U3	オーストラリア	モナシュ大学	外国語学部
15	女	U3	オーストラリア	延世大学校	外国語学部
16	女	U3	オーストリア	ウィーン大学	人間科学部
17	男	U3	オランダ	グローニングン大学	文学部
18	女	U3	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
19	女	U4	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	文学部
20	女	U4	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	外国語学部
21	男	U3	カナダ	マックマスター大学	理学部
22	男	U5	カナダ	マックマスター大学	人間科学部
23	男	U2	スウェーデン	イエーテボリ大学	人間科学部
24	男	U3	タイ	マヒドン大学	経済学部
25	男	U3	デンマーク	コペンハーゲン大学	人間科学部
26	男	M1	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	人間科学研究科
27	女	U4	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	工学部
28	男	U4	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	工学部
29	男	U3	ドイツ	ゲッティンゲン大学	法学部
30	女	U3	ドイツ	ハイデルベルク大学	文学部
31	女	U2	ドイツ	ハイデルベルク大学	法学部
32	女	M2	ドイツ	ハイデルベルク大学	言語文化研究科
33	女	M2	ドイツ	ビーレフェルト大学	理学研究科
34	男	M1	ドイツ	ミュンヘン・ルートウヴィヒ・マクシミリアン大学	文学研究科
35	男	M2	ドイツ	ミュンヘン工科大学	経済学研究科
36	男	M1	ドイツ	ミュンヘン工科大学	情報科学研究科
37	男	M1	ドイツ	ルール・ポーフム大学	文学研究科
38	女	M5	ドイツ	ルール・ポーフム大学	人間科学研究科
39	女	M2	ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール カルビン派大学	言語文化研究科
40	女	U3	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	人間科学部

2015 年度 春学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

番号	性別	学年	国籍	所属大学	配属部部局
41	女	U3	フィリピン	デ・ラ・サール大学	外国語学部
42	男	U3	フィリピン	フィリピン国立大学	経済学部
43	女	U4	フィンランド	オーポアカデミー大学	人間科学部
44	男	U2	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学部
45	男	U3	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学部
46	女	U3	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学部
47	男	U4	ブラジル	リオデジャネイロ州立大学	法学部
48	女	U3	フランス	グルノーブル大学連合	文学部
49	男	U3	フランス	グルノーブル大学連合	文学部
50	女	U3	フランス	ストラスブール大学	外国語学部
51	女	U3	フランス	ストラスブール大学	外国語学部
52	女	U2	フランス	リール政治学院	外国語学部
53	女	U2	フランス	リール政治学院	外国語学部
54	男	U4	メキシコ	テキサス A&M 大学	人間科学部
55	男	U3	メキシコ	メキシコ国立自治大学	法学部
56	男	U5	メキシコ	メキシコ国立自治大学	工学部
57	男	M1	ロシア	サンクトペテルブルク大学	文学研究科
58	女	M2	ロシア	サンクトペテルブルク大学	国際公共政策研究科
59	女	U3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
60	女	U3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
61	女	M1	ロシア	サンクトペテルブルク大学	経済学研究科
62	男	U2	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
63	男	U2	ロシア	サンクトペテルブルク大学	文学部
64	女	U3	香港	香港科技大学	基礎工学部
65	女	U3	香港	香港科技大学	基礎工学部
66	女	U3	香港	香港科技大学	基礎工学部
67	男	U4	香港	香港中文大学	基礎工学部
68	男	U3	香港	香港中文大学	工学部
69	女	U3	香港	香港中文大学	経済学部
70	男	U4	台湾	国立交通大学	理学部
71	男	U3	大韓民国	釜山大学校	工学部
72	男	U5	大韓民国	慶熙大学校	法学部
73	女	U3	大韓民国	慶熙大学校	法学部
74	男	M2	中国	アウグスブルグ大学	経済学研究科
75	女	U3	中国	華東政法大学	法学部
76	女	U3	中国	復旦大学	文学部
77	男	U3	中国	復旦大学	工学部
78	女	U3	中国	浙江大学	基礎工学部
79	男	U4	中国	浙江大学	理学部
80	女	U2	日本	ジョージア大学	人間科学部

2015 年度 春学期 国際交流科目開講リスト

No.	科 目 名 (和文)	科 目 名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	芸術と脳科学のインターフェイス —文理融合アプローチの実践	Art and Neuroscience-An Interdisciplinary Approach	文学研究科	好 井 千 代
2	比較社会学	Comparative Sociology	人間科学部	Scott North
3	政治学 I	Politics I	人間科学部	佐 藤 治 子
4	国際協力学 I	International Development and Collaboration I	人間科学部	中 村 安 秀
5	社会の中の自己	Self, Identity and Society	人間科学部	Don BYSOUTH
6	日本の社会階層	Social Stratification in Japanese Society	人間科学部	安 元 佐 織
7	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学部	Viktoriya KIM
8	日本社会における法律のしくみ	Current Issues in Japanese Law and Society	人間科学部	Viktoriya KIM
9	多文化共生論	Seminar in Studies of Multicultural Societies	人間科学部	Viktoriya KIM
10	人類学 I	Anthropology I	人間科学部	Mohacs Gergely
11	基本的人権論	Human Rights	人間科学部	Christie LAM
12	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学部	Pedriza Luis
13	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学部	Pedriza Luis
14	バイオエシックスとヘルス・ロー： バイオテクノロジー、先端医療、ヘルスケア・システムにおける法的諸問題	Bioethics and Health Law: Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System	法学部	瀬戸山 晃 一
15	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀 川 智 也
16	身の回りの高分子	Polymers in Daily Life and Science	理学部	今 田 勝 巳
17	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学部	祖父江 友 孝
18	情報通信技術の最前線	ICT Technology: Current status & future perspective	工学部	北 山 研 一
19	情報科学入門	Introduction to Information Science	基礎工学部	長谷川 亨
20	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	言語文化研究科	村上スマス・ アンドリュー
21	数学とその工学応用 (I)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)	国際教育交流センター	宮 原 啓 造
22	言語と翻訳	Language and Translation	国際教育交流センター	歳 岡 淳 香
23	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	国際教育交流センター	近 藤 佐知彦
24	オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚 崎 典 子
25	社会保障とサービスデザイン	Social Security and Service Design	国際教育交流センター	伊 藤 ゆかり
26	総合日本語 JA100 - トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	金 孝 卿
27	総合日本語 JA100 - トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
28	総合日本語 JA200 - トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	磯 野 英 治
29	総合日本語 JA200 - トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
30	総合日本語 JA300 - トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西 口 光 一
31	総合日本語 JA300 - トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
32	総合日本語 JA400 - トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	西 口 光 一
33	総合日本語 JA400 - トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
34	総合日本語 JA500 - トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難 波 康 治
35	総合日本語 JA500 - トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
36	総合日本語 JA600 - トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	大 谷 晋 也
37	総合日本語 JA600 - トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
38	自主研究 II - A 自主研究 II - B 自主研究 II - C	Independent Study II·A Independent Study II·B Independent Study II·C		各自主研究 担当教員

3. 2015 年度秋学期 : OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2015 年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

番号	性別	学年	国籍	所属大学	配属部局
1	男	U3	アメリカ合衆国	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	工学部
2	男	U2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	法学部
3	女	U2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	外国語学部
4	男	U4	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	理学部
5	男	U2	アメリカ合衆国	ワシントン大学	文学部
6	女	U3	アメリカ合衆国	ワシントン大学	外国語学部
7	女	U4	インドネシア	ガジャマダ大学	経済学部
8	女	U4	インドネシア	ガジャマダ大学	人間科学部
9	女	U3	ウクライナ	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
10	男	U3	オーストラリア	アデレード大学	人間科学部
11	女	U3	オーストラリア	モナシュ大学	人間科学部
12	男	U2	オーストラリア	モナシュ大学	文学部
13	男	M2	オランダ	グローニングン大学	基礎工学研究科
14	女	U3	カナダ	トロント大学	経済学部
15	女	U4	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
16	男	U3	カナダ	マックマスター大学	人間科学部
17	男	U2	カナダ	マックマスター大学	人間科学部
18	男	M1	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	基礎工学研究科
19	女	M1	チェコ	プラハ・カレル大学	文学研究科
20	男	U3	デンマーク	南デンマーク大学	基礎工学部
21	男	M2	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
22	男	M2	ドイツ	アウグスブルグ大学	基礎工学研究科
23	男	M2	ドイツ	アウグスブルグ大学	工学研究科
24	男	M2	ドイツ	アウグスブルグ大学	基礎工学研究科
25	女	U4	ドイツ	ウェストファリアン・ヴィルヘルム大学 ミュンスター	法学部
26	女	U4	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	文学部
27	男	U3	ドイツ	グローニングン大学	人間科学部
28	男	U4	ドイツ	ゲッティンゲン大学	経済学部
29	女	U3	ドイツ	ハイデルベルク大学	文学部
30	男	U3	ドイツ	ハイデルベルク大学	人間科学部
31	男	U4	ドイツ	ビーレフェルト大学	人間科学部
32	女	M2	ドイツ	ビーレフェルト大学	理学研究科
33	男	U3	ドイツ	ベルリン工科大学	理学部
34	男	U4	ドイツ	ミュンヘン工科大学	基礎工学部
35	女	U3	ドイツ	ミュンヘン工科大学	経済学部
36	男	U4	ドイツ	ミュンヘン工科大学	工学研究科
37	女	M3	ドイツ	ミュンヘン工科大学	経済学研究科
38	女	M3	ドイツ	ルール・ポーフム大学	文学研究科
39	男	U3	ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール カルビン派大学	外国語学部
40	女	U3	フィリピン	デ・ラ・サール大学	外国語学部

2015 年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

番号	性別	学年	国籍	所属大学	配属部局
41	男	U3	フィリピン	フィリピン国立大学	経済学部
42	女	U4	フィンランド	オーポアカデミー大学	文学部
43	女	M1	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学研究科
44	男	U3	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	理学部
45	男	U2	フランス	グルノーブル大学連合	文学部
46	女	U4	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
47	女	U4	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
48	男	M2	フランス	グルノーブル大学連合	情報科学研究科
49	女	M3	フランス	グルノーブル大学連合	情報科学研究科
50	男	U4	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
51	女	U3	フランス	リール政治学院	外国語学部
52	女	U3	フランス	リール政治学院	外国語学部
53	男	M2	ベルギー	ルーヴアンカトリック大学 (Neuve)	経済学研究科
54	女	M2	ベルギー	ルーヴアンカトリック大学 (Neuve)	経済学研究科
55	女	U3	マレーシア	ブリティッシュ・コロンビア大学	人間科学部
56	女	U4	メキシコ	メキシコ国立自治大学	理学部
57	女	U3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
58	女	U4	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
59	女	U3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
60	女	U3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
61	男	U4	英国	マドリッド自治大学	文学部
62	女	U3	英国	リーズ大学	理学部
63	女	U4	台湾	国立交通大学	外国語学部
64	女	U5	台湾	国立成功大学	基礎工学部
65	女	U2	台湾	国立台湾大学	経済学部
66	男	U6	大韓民国	釜山大学校	外国語学部
67	女	U4	大韓民国	釜山大学校	理学部
68	女	U2	大韓民国	慶熙大学校	法学部
69	男	U2	中国	トロント大学	外国語学部
70	女	U3	中国	ブリティッシュ・コロンビア大学	外国語学部
71	女	U3	中国	マックマスター大学	理学部
72	女	U3	中国	華東政法大学	法学部
73	女	U3	中国	華東政法大学	法学部
74	女	M2	中国	慶熙大学校	国際公共政策研究科
75	男	M2	中国	同济大学	工学研究科
76	女	M2	中国	同济大学	経済学研究科
77	女	U3	中国	浙江大学	基礎工学部
78	男	U4	中国	浙江大学	理学部
79	女	U3	日本	パデュー大学	工学部

2015 年度 秋学期 国際交流科目開講リスト

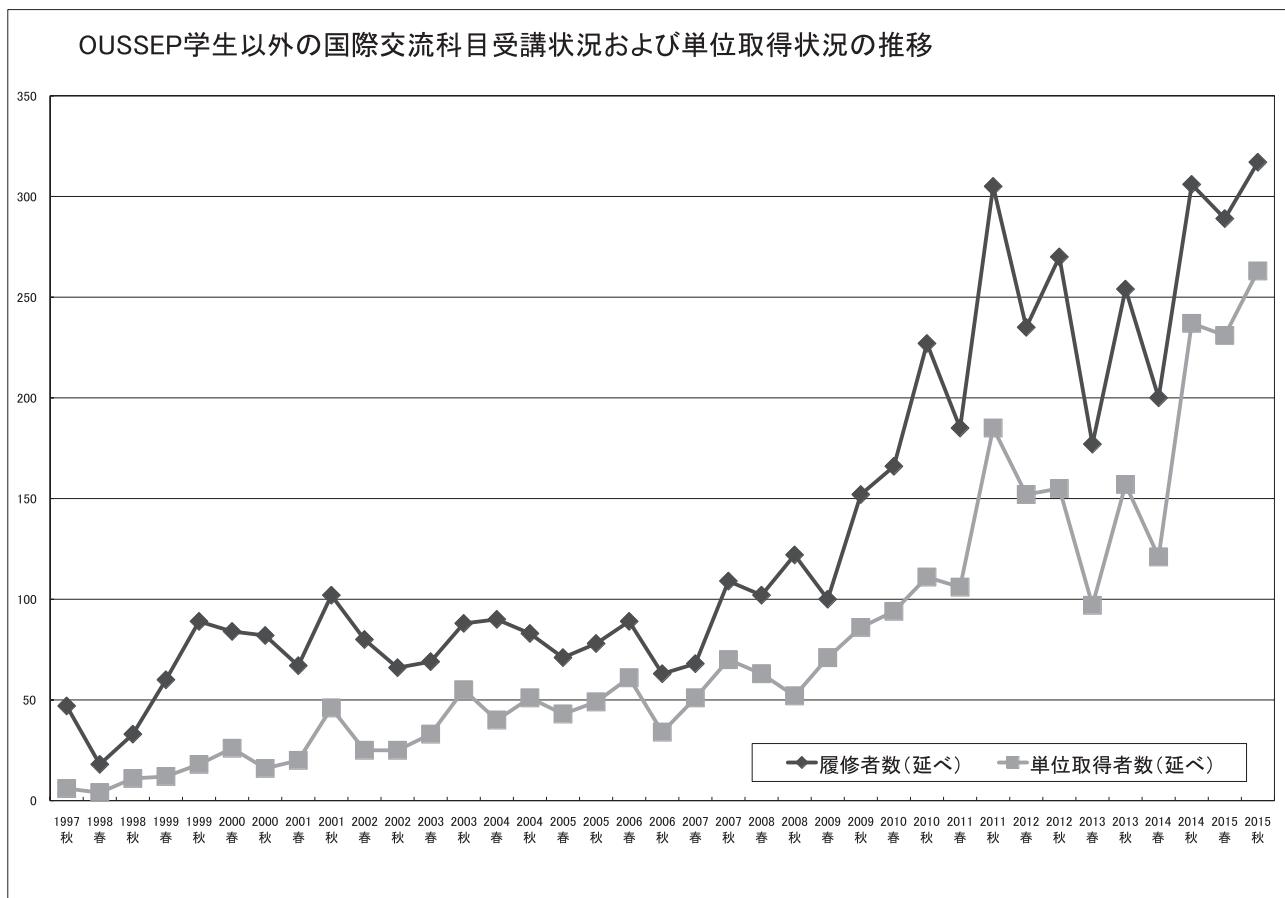
No.	科 目 名 (和文)	科 目 名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	現代日本と歴史世界	Histoy Matters: A Japan Perspective	文学研究科	田 口 宏二朗
2	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学部	山本ベバリー・アン
3	グローバル化と大学教育	Global Issues in Education	人間科学部	石 川 真由美
4	多変量統計科学	Multivariate Statistical Science	人間科学部	足 立 浩 平
5	高齢者心理学	Psychology of Aging	人間科学部	権 藤 恭 之
6	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学部	中 道 正 之
7	政治学 II	Politics II	人間科学部	佐 藤 治 子
8	社会学 I	Sociology I	人間科学部	Viktoriya KIM
9	社会学 II	Sociology II	人間科学部	Viktoriya KIM
10	市民社会運動	Introduction to Civil Society Movements	人間科学部	Christie LAM
11	人類学 II	Anthropology II	人間科学部	Christie LAM
12	日本の神話と伝説	Japanese Myths and Legends	人間科学部	Irina HOLCA
13	特別講義 (比較契約法・不法行為法)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学部	Leonardo Ciano
14	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学部	Pedriza Luis
15	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学部	Pedriza Luis
16	日本の法・政治制度と法・政治文化入門	Introduction to Japanese Legal / Political System and Culture	法学部	瀬戸山 晃 一
17	日本経済史	Economic Histoty of Japan	経済学部	ピエール＝イブ・ドンゼ
18	現代宇宙地球科学の話題	Current Topics in Earth and Space Science	理学部	中 嶋 悟
19	応用理工学入門	Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science	工学部	望 月 正 人
20	先端科学技術における応用物理学	APPLIED PHYSICS FOR ADVANCED SCIENCE AND TECHNOLOGY	工学部	八 木 厚 志
21	持続型環境社会の設計	Energy and Environment: A multidisciplinary approach towards solving world's energy crisis	工学部	田 中 敏 宏
22	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学部	藤 田 清 士
23	Cutting Edge of Biotechnology	Cutting Edge of Biotechnology	基礎工学部	馬 越 大
24	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュー
25	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀 川 智 也
26	総合日本語 JA100 - トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	金 孝 卿
27	総合日本語 JA100 - トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
28	総合日本語 JA200 - トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	磯 野 英 治
29	総合日本語 JA200 - トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
30	総合日本語 JA300 - トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西 口 光 一
31	総合日本語 JA300 - トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
32	総合日本語 JA400 - トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	西 口 光 一
33	総合日本語 JA400 - トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
34	総合日本語 JA500 - トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難 波 康 治
35	総合日本語 JA500 - トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
36	総合日本語 JA600 - トラック 1	Japanese JA600 - Track 1	国際教育交流センター	大 谷 晋 也
37	総合日本語 JA600 - トラック 2	Japanese JA600 - Track 2		
38	言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	国際教育交流センター	西 口 光 一
39	社会起業	Social Entrepreneurship	国際教育交流センター	伊 藤 ゆかり
40	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有 川 友 子
41	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚 崎 典 子
42	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近 藤 佐知彥
43	数学とその工学応用 (II)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)	国際教育交流センター	宮 原 啓 造
44	翻訳と翻訳者たち	Translation and Translators	国際教育交流センター	歳 岡 涼 香
45	自主研究 I - A 自主研究 I - B 自主研究 I - C	Independent Study I - A Independent Study I - B Independent Study I - C		各自主研究 担当教員

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	人科	外	法	経済	理	医	歯		
2015 春	6 (4)	7 (5)	24 (12)	16 (16)	9 (3)	37 (31)	2 (2)	1 (1)		
2015 秋	9 (9)	7 (4)	35 (23)	24 (20)	15 (11)	31 (28)	4 (4)	0 (0)		
2015 春・秋合計	15 (13)	14 (9)	59 (35)	40 (36)	24 (14)	68 (59)	6 (6)	1 (1)		
1996 春から 2015 秋の合計	441 (277)	425 (182)	896 (491)	578 (327)	518 (340)	353 (204)	132 (61)	8 (4)		
学部	薬	工	基工	言語	国公	情報	生命	高司	計	G/R
2015 春	0 (0)	34 (28)	34 (24)	0 (0)	9 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	180 (132)	0.73
2015 秋	0 (0)	40 (28)	28 (24)	2 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	199 (156)	0.78
2015 春・秋合計	0 (0)	74 (56)	62 (48)	2 (1)	10 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	379 (288)	0.76
1996 春から 2015 秋の合計	55 (31)	754 (408)	497 (305)	19 (11)	41 (27)	19 (12)	29 (13)	3 (1)	4768 (2694)	0.57

いざれも延べ数。 () 内の数字は単位取得者数を表す。G/R は、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受ける科目であり、提供科目数は年々増え、平成27年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな学部から多様な授業が行われた。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。

平成27年度 春学期 国際交流科目 担当教員・TA対象 FDオリエンテーション

- 平成27年4月6日（月）吹田キャンパス ICホール4F会議室 13:00～
- 平成27年4月7日（火）豊中キャンパス 大学会館 セミナー室1 14:30～

<プログラム>

I. 授業を実施頂く上でご配慮いただきたいこと

国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. 授業の質保証のための担当教員の実践

<吹田> TLSCよりアクティブラーニングセミナー

講師：佐藤 浩章（全学教育推進機構習支援部門）

（詳細）www.tlsc.osaka.ac.jp/events/141020_1

<豊中> 留学生と日本人が共存する教室での『理工系』授業の工夫

講師：藤田 清士（工学研究科）

III. 質疑応答・全体での意見交換

平成 27 年度 秋学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FD オリエンテーション

- 平成 27 年 9 月 29 日 (火) 吹田キャンパス IC ホール 2F 講義室 5 14:30~
- 平成 27 年 9 月 30 日 (水) 豊中キャンパス 文理融合研究棟 6F 共通講義室 1 13:00~

<プログラム>

I. 実施上でご配慮いただきたいこと

国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦 (国際教育交流センター 教授)

II. 授業の質保証のための担当教員の実践

<吹田> 歴史系授業の実践例

講師: 西村 謙一 (国際教育交流センター)

<豊中> TLSC よりシラバスセミナー

講師: 佐藤 浩章 (全学教育推進機構習支援部門)

大山 牧子 (全学教育推進機構習支援部門)

III. 質疑応答・全体での意見交換



【近藤教授による説明】



【佐藤准教授による講演】

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期数回の授業が行われた時点で、授業の最後に時間をとって受講生アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料のアンケート用紙と集計結果を参照いただきたい。

また、学期の原則最終授業に同様のアンケートをとり、指定した学生に回収させ、そのコピーと集計結果は、成績評価の締め切り後に担当教員に返送している。

平成 27 年 10 月 21 日

平成 27 年度秋学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

アンケート実施協力のお願い

国際交流科目授業では、平素よりご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

この度、アンケート実施に当たり、貴重な授業時間を割いて頂くこととなり恐縮ですが、どうぞよろしくご協力ををお願い申し上げます。つきましては中間アンケートをお送りさせていただきます。

英語での国際交流科目の授業の質の確保・向上を目的とし、授業を数回行っていただいた別紙記載の期間に授業アンケートを実施し、ご担当の科目の後半の授業運営の参考資料として頂くとともに、今後の国際交流科目 F D のための貴重な参考資料とさせていただきたく存じます。F D や教授会等で集計結果を報告する際には、科目名や担当教員が特定できないように取り扱わせて頂きます。

周知のように英語で授業が行われる国際交流科目は、大阪大学の学生を海外の協定校に派遣するために欠かせない短期交換留学生受け入れにとって、その講義の質の確保が強く求められております。

また当該科目は、大阪大学の一般学生の国際化や留学準備においても重要な役割を担うようになってきており、本学の受講生に対する意義と効果を確認することが求められております。

以上の趣旨のご理解と実施へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

※手順書を別添同封致しておりますので、そちらに沿ってお進め下さい。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センター准教授 宮原 啓造 miyahara@ciee.osaka-u.ac.jp

国際教育交流センタースタッフ 根津 大輔 nezu-d@office.osaka-u.ac.jp

Tel:06-6879-7128

VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、旧留学生センターから引き続いだ当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。平成 22 年度は日本語日本文化研修に集中し、春休みに加えて夏休みのプログラムを開催してきた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受けて、単なる「日本語日本文化プログラム」に留まらず「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計し、阪神淡路大震災の経験を活かした世界から注目される「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとした。平成 23 年度夏においては、前年度のタイ王国での洪水被害に伴い夏休みのスケジュールが変わったため同国協定校から例年通りの参加は難しい由の相談を受けた。そこでプログラムの「防災」の主旨にも鑑み、通常の 8 月プログラムに加えて 9 月プログラムを開催して、日本語に親しみつつ、日本の防災実践に触れる機会を提供した。平成 24 年度は夏と春の二回開催をしたもの、平成 25 年度は Global 30 が最終年次を迎えることに鑑み、「日本語・防災」としての春季プログラムは一旦休止して夏季プログラムのみを運営した。平成 26 年度にはスーパーグローバル大学等事業が公募され、本プログラムも再び夏と春の二回開催体制へと戻し、春季には「アカデミックジャパン基礎」として開催した。参加者数は合計で例年度と同程度となり、多くの学生に日本語の学習と日本の防災・減災の実践に触れる機会を提供した。平成 27 年度についても引き続き同じ体制でプログラムを開運営している。

【 夏超短期参加者リスト 】

2015 – 2016 Summer Intensive Program (2015.8.2 – 2015.8.22 実施)					
	性 別	在 箇 校	国 稷	生 年	専 攻
1	Female	Mahidol University International College	Taiwanese	1996	International Hospitality Management
2	Female	Mahidol University International College	Thailand	1993	Tourism and Hospitality Management
3	Male	Mahidol University International College	Thailand	1996	Biological Science
4	Female	Mahidol University International College	Thailand	1996	Marketing
5	Female	Mahidol University International College	Thailand	1994	Finance
6	Female	Mahidol University International College	Thailand	1997	Communication Design
7	Female	Mahidol University International College	Thailand	1994	International Business
8	Female	Mahidol University International College	Thailand	1995	International Business
9	Female	Mahidol University International College	Thailand	1994	Communication Design
10	Male	Mahidol University International College	Thailand	1993	Marketing
11	Female	Mahidol University International College	Taiwanese	1995	International Hospitality Management

* 参加在籍校順に記載

【 春超短期参加者リスト 】

2015 – 2016 Spring Intensive Program (2016.2.2 – 2016.2.23 実施)					
	性 別	在 箇 校	国 稷	生 年	専 攻
1	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1990	Japanese and Japanese literature
2	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1989	Computer science and engineering
3	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1992	Business
4	Female	Pusan National University	Republic of Korea	1992	Agricultural economics
5	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1993	Linguistics
6	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1991	Material science and engineering
7	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1991	Food engineering
8	Female	Pusan National University	Republic of Korea	1989	Geographic education
9	Female	Pusan National University	Republic of Korea	1995	Mechanical engineering
10	Female	Pusan National University	Republic of Korea	1994	Mechanical engineering
11	Male	Pusan National University	Republic of Korea	1993	Social education
12	Female	Pusan National University	Republic of Korea	1995	English language and literature

* 参加在籍校順に記載

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIP は 23 年度夏に新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤（2012）等に譲るが、端的に述べれば、秋セメスター 15 週を 5 週ずつの 3 ユニットに分け、1 ユニット（5 週）、2 ユニット（10 週）で日本語を集中的に学習する日本語特化型のプログラムとして案出され、こちらも 23 年度に新設された SS プログラム奨学金を最大限獲得する設計となっている。かなりの突貫工事であったが、日本語教育開発研究チームの全面的な協力を得て運営にこぎ着けることができた。将来的にはそれぞれのレベルにあった 1 ユニット、もしくは連続した 2 ユニットを自由に履修できる環境を理想としている。しかし、立ち上げには、種々の制約から 10 月から 12 月中旬までの 2 ユニット、および 12 月中旬から 1 月末までの 1 ユニットとして運用された。また豪州からの学生を対象にした 12 月よりの 1 モジュールについては、豪州への派遣学生との交流会などを盛り込むことで、SS & SV プログラムとして奨学金の上積みをしているが、実質的には一貫したプログラム設計となっている。

平成 24 年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学（UC）を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講で、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供した。平成 25 年度にも引き続いて 3 サイクル（夏 2 ユニット、秋 2 ユニット、冬 1 ユニット）のプログラムを開設した。夏のプログラムには UC をはじめとして多数の学生がアメリカおよび香港から集まり成功を収めた。特に平成 25 年 6 月には UC の日本進出 50 周年のイベントが東京で行われたが、同時に UC 関係者多数を招いて大阪でもサブイベントを開催し、その際にも J-ShIP が本学と UC とが連携をする際のフラッグシップ的な位置づけとして紹介されている。なお、種々の事情から秋プログラムは参加者なしとなったものの、豪州向け冬プログラムには多数の参加を見た。

平成 26 年度については参加者無しとなった秋プログラムを休止し、結果として米国向け 90 コマ 8 週間のサマーインスティチュート（6-8 月）、および豪州向け 45 コマ 5 週間のサマーインスティチュート（12-1 月）の 2 サイクルを運営することになった。それぞれに多数の学生が来学し、特に夏プログラムについて

は、UC などから予想外に多くの学生が殺到し、教室を「時間差」でやりくりをしながらプログラムの運営を行うことになった。また平成 26 年度からは宿舎のオプションとして新たに「ホームステイ」を導入した。創設以来、本プログラムは日本学生支援機構からの奨学金支援を受けている。平成 27 年度には、協定校側からの強い要望を受けて中上級クラスである「Mid-Summer」プログラムを追加し受入れ体制をさらに拡充して運営するなど、引き続いて受入態勢を強化している。例えばハード面では箕面に教室および職員室を増設して 3 教室体制を整備した。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。

近藤佐知彦（2012）「SS プログラム J-ShIP の 1 年目 — 新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』16、97-106 ページ

【 夏 J-ShIP 参加者リスト 】

2015 – 2016 Summer J-ShIP Program (2015.6.19 – 2015.8.13 実施)					
	性 別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	Female	University of Macau	Macau	1994	Law in Chinese
2	Female	New York University, Shanghai	China	1995	Business and finance
3	Male	University of Kentucky	USA	1994	Economics
4	Female	University of Kentucky	China	1993	Marketing
5	Male	University of California, Irvine	USA	1993	Electrical Engineering
6	Male	University of California, Davis	USA	1986	Physics
7	Female	University of California, San Diego	USA	1994	Psychology
8	Female	University of California, Berkeley	USA	1996	Statistics
9	Male	University of California, San Diego	USA	1993	Biochemistry
10	Male	University of California, Santa Barbara	USA	1993	Linguistics with Spanish emphasis
11	Female	University of California, Riverside	USA	1994	Sociology
12	Female	University of California, Berkeley	China	1992	Mechanical Engineering
13	Female	University of California, Santa Barbara	China	1994	Actuarial Science
14	Male	University of California, Berkeley	USA	1993	Physics
15	Female	University of California, Davis	USA	1990	English and Evolutionary Anthropology
16	Female	University of California, Davis	Korea	1994	Psychology and Communication
17	Male	University of California, Santa Cruz	USA	1994	Legal Studies
18	Male	University of California, Riverside	USA	1993	Business administration
19	Male	University of California, Berkeley	USA	1994	Rhetoric
20	Female	University of California, San Diego	USA	1993	Sociology
21	Female	University of California, Irvine	USA	1993	Business Economics
22	Female	University of California, Berkeley	USA	1993	Molecular and cell biology
23	Female	University of California, San Diego	USA	1994	Computer science
24	Male	University of California, Santa Barbara	China	1995	Math
25	Female	University of California, Berkeley	USA	1994	Cognitive Science
26	Female	University of California, Berkeley	Mongolia	1995	Computer science
27	Male	University of California, Los Angeles	USA	1994	Economics
28	Male	University of California, Santa Barbara	USA	1996	Mathematics
29	Female	University of California, Berkeley	China	1995	Business administration
30	Female	University of California, Berkeley	Vietnam	1995	Molecular Toxicology
31	Male	University of California, Los Angeles	USA	1995	Undeclared

	性 別	在 籍 校	国 籍	生 年	専 攻
32	Male	University of California, Berkeley	USA	1995	Engineering
33	Male	University of California, Berkeley	USA	1984	Sociology
34	Female	University of California, Los Angeles	USA	1994	Environmental Science
35	Female	University of California, San Diego	USA	1993	General biology
36	Female	University of California, Los Angeles	USA	1995	Pre Human biology and society
37	Female	University of California, Los Angeles	USA	1994	Financial actuarial mathematics
38	Male	University of California, Berkeley	USA	1995	Economics
39	Female	University of California, Santa Barbara	China	1995	Financial mathematic and statistic
40	Male	University of California, Santa Barbara	China	1994	Math
41	Male	University of California, Santa Barbara	China	1995	Financial mathematics and statistics

*参加在籍校順に記載

【 Mid-Summer J-ShIP 参加者リスト 】

2015 – 2016 Mid-Summer J-ShIP Program (2015.7.13 – 2015.8.13 実施)					
	性 別	在 籍 校	国 籍	生 年	専 攻
1	Female	Mahidol University International College	Thailand	1994	Hospitality and tourism management
2	Female	Mahidol University International College	Thailand	1993	International business
3	Female	Mahidol University International College	Thailand	1995	Business economics
4	Male	Mahidol University International College	Thailand	1992	Social science
5	Female	Mahidol University International College	Myanmar	1992	Social science
6	Female	Mahidol University International College	Thailand	1993	Tourism and hospitality
7	Male	Mahidol University International College	Thailand	1994	Biology
8	Female	Romanian-American University	Romania	1992	Economy

*参加在籍校順に記載

【 冬 J-ShIP 参加者リスト 】

2015 – 2016 Winter J-ShIP Program (2015.12.7 – 2016.1.29 実施)					
	性 別	在 箇 校	国 稷	生 年	専 攻
1	Male	The University Of Queensland	Australia	1993	Japanese and Chinese
2	Female	TU Dortmund University	Deutsch	1986	mathematics
3	Female	TU Dortmund University	Deutsch	1992	industrial engineering
4	Female	Monash University	England	1991	Japanese and French
5	Female	Monash University	Australia	1995	specialisation in global cultural literacies
6	Female	Monash University	Australia	1996	Japanese
7	Male	Monash University	Australia	1997	Japanese
8	Female	Monash University	Australia	1996	Japanese
9	Female	Monash University	Australia	1992	Japanese
10	Female	Monash University	Australia	1993	Interpreting and translating
11	Female	Monash University	Hong Kong	1995	journalism
12	Male	Monash University	Australia	1996	Japanese
13	Female	Monash University	Australia	1995	Japanese
14	Female	Monash University	Australia	1996	Japanese
15	Female	Monash University	Australia	1996	linguistics and criminology
16	Female	Monash University	Australia	1996	Japanese
17	Male	Monash University	Australia	1996	history
18	Male	Monash University	Australia	1994	medicine
19	Female	Australian National University	Republic of Korea	1989	English and psychology
20	Male	Australian National University	China	1994	actuarial studies
21	Male	Australian National University	Australia	1995	international relations
22	Female	Australian National University	China	1996	Asia pacific security
23	Male	Australian National University	Republic of Korea	1990	international business
24	Female	Australian National University	China	1995	accounting
25	Female	Australian National University	China	1996	art history
26	Female	Australian National University	China	1994	finance
27	Female	Australian National University	China	1995	international relations
28	Female	Australian National University	China	1995	Northeast asian studies
29	Female	Australian National University	China	1993	international relations

*参加在籍校順に記載

VII. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行する IRIS レター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUISA: Osaka University International Student Association）や B.S.P. (Brothers and Sisters Program) の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）は Information Room for International Students の略。以下 IRIS と記す。）にて平日 8 時半～18 時の間、豊中地区では学生会館 2 階の豊中分室で平日 10 時半～17 時の間、箕面分室は原則として平日 10 時半～17 時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表 1 に IRIS、表 2 に豊中分室、表 3 に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、学生交流推進課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称 OHP）を実施している。

大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P. の学生によるキャンパスツアーや、大阪大学留学生会（OUISA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学留学生センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

平成27年度相談対応延べ状況

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流	186	223	293	237	95	289	527	735	432	262	207	73	3559
日本語	38	7	24	33	8	17	55	14	16	8	4	15	239
奨学金	5	14	3	0	4	0	3	2	1	0	2	1	35
保証人	1	0	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	6
住居保証人	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	6
医 療	18	5	16	13	12	1	14	7	6	3	4	0	99
入管関係	1	0	3	10	2	1	3	2	0	2	0	1	25
家族について	4	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	7
就 職	44	53	38	28	12	20	74	58	5	30	7	40	409
住 居	4	2	29	16	6	4	6	4	0	0	0	2	73
各種情報提供	255	95	121	120	109	79	274	99	104	110	125	77	1568
生活用品	45	43	60	75	16	12	51	21	52	45	12	15	447
学習・研究	16	7	9	18	9	3	8	4	18	3	3	1	99
事故・トラブル	0	0	0	9	5	0	4	0	1	0	1	0	20
引 越	0	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	6
アルバイト	5	3	2	7	2	9	8	4	0	2	1	5	48
ホストファミリー	24	8	35	170	106	5	15	0	2	45	75	26	511
ホームステイ	0	0	3	7	1	1	2	0	0	0	0	0	14
海外留学相談	2	0	1	2	7	2	1	1	1	0	2	1	20
問合せ等(学外)	45	71	48	53	50	72	73	63	87	57	76	37	732
その他	51	23	14	11	3	9	42	3	11	8	4	4	183
計	744	555	701	812	450	526	1165	1019	736	577	523	298	8106

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517	5553	6114	8106

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	2011	1651	2003	1918	354	439	2166	2107	1553	1742	975	279	17198
日本人学生	230	99	169	141	68	88	252	112	57	93	76	50	1435
その他・一般	114	72	90	122	79	170	176	115	157	155	135	158	1543
合 計	2355	1822	2262	2181	501	697	2594	2334	1767	1990	1186	487	20176

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

表2 大阪大学留学生センター豊中分室の相談状況 及び来室・利用状況

平成27年度相談対応延べ状況

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流	108	15	7	8	6	2	23	17	15	17	19	9	246
日本語	13	0	1	2	0	10	6	0	3	2	2	2	41
奨学金	15	2	0	2	1	1	2	4	0	1	0	1	29
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	2	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	3	10
医 療	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	2	0	8
入管関係	2	1	1	1	0	0	2	2	5	3	2	4	23
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就 職	1	0	3	0	0	0	0	0	1	5	7	6	23
住 居	1	0	1	1	1	0	2	1	1	1	0	2	11
各種情報提供	87	27	20	25	15	29	89	52	40	42	27	22	475
生活用品	0	0	0	2	0	2	1	3	0	3	1	3	15
学習・研究	2	3	3	0	0	0	0	1	6	14	47	2	78
事故・トラブル	0	2	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	7
引 越	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
アルバイト	0	1	1	0	0	0	2	0	3	5	7	5	24
ホストファミリー	11	2	0	0	0	0	28	2	1	0	1	0	45
ホームステイ	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
海外留学相談	41	26	15	14	4	1	12	6	10	26	20	13	188
問合せ(学外)	0	0	2	2	0	0	1	1	7	7	2	10	32
その他	3	1	3	4	2	2	1	1	7	4	9	2	39
合 計	286	80	63	63	31	49	170	94	101	133	147	85	1302

相談対応件数推移

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
件 数	2607	3056	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ(電話・メールも含む)を示す。

来室者数推移

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
年間利用者数	10028	9575	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612

2. 豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
留学生	653	614	559	395	56	205	791	410	389	395	172	114	4753
日本人学生	712	528	428	415	101	70	600	353	347	286	152	66	4058
教官・学外など	107	72	83	71	40	53	73	68	66	73	46	49	801
合 計	1472	1214	1070	881	197	328	1464	831	802	754	370	229	9612

*ここでいう「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数(イベント等含む)を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連(小・中・高校の教師)、ボランティアなどである。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

平成27年度相談対応延べ状況

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流	23	31	23	20		6	50	29	37	15	4		238
日本語													0
奨学金							2						2
保証人													0
住居保証人													0
医 療													0
入管関係	1	1	1	1									4
家族について													0
就 職		1						1					2
住 居											2		2
各種情報提供	48	10	5	17	6	12	18	13	3	7	5	8	152
生活用品			1										1
学習・研究	4	7	8	3	7	3	8	3	3	9	12	3	70
事故・トラブル													0
引 越													0
アルバイト							3						1 4
ホストファミリー	7					1	26	2					1 37
ホームステイ			4										4
海外留学相談	34	28	45	39	11	10	20	7	8	31	30	2	265
問合わせ（学外）	1		2										3
その他		2	9	25	8		3	2	7	11		3	70
計	118	81	97	105	32	32	131	56	58	75	51	18	854

相談対応件数推移

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
件 数	1488	966	840	661	831	797	731	854

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
件 数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	273	215	153	148	24	167	382	141	192	138	60	23	1916
日本人学生	249	319	303	301	44	23	332	180	197	261	111	14	2334
その他・一般	21	16	36	46	16	7	22	16	26	36	13	20	275
合 計	543	550	492	495	84	197	736	337	415	435	184	57	4525

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会（OUISA）の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUISA）の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成27年度B.S.P.の活動内容

月	日		内 容	共 催 団 体
4	4	豊中	サークルオリエンテーション	
	6	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	7	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	8	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	9	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	11	豊中	お花見(万博記念公園)	BSP全体
	24	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会(OUISA)
	25	豊中	春の遠足(大阪城・道頓堀)	
	8	箕面	Japanese Cafe	
	15	豊中	W.W.W. Party	大阪大学留学生会(OUISA)
	21	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会(OUISA)
	31	箕面	春の遠足(宇治)	
6	22	箕面	J-ShIP Summer キャンパスツアー	
	23	豊中	Find Japan ~日本の遊び~	
	23	吹田	いろんな国のごはんを食べよう!	大阪大学留学生会(OUISA)
	29	箕面	パンケーキパーティー	
7	3	箕面	Japanese Cafe	
	4	豊中	夏まつり出店(箕面キャンパス)	
	13	箕面	J-ShIP Mid-Summer キャンパスツアー	
	15	吹田	七夕流しそうめんパーティー	大阪大学留学生会(OUISA)
	16	箕面	冷麺パーティー	
	24	箕面	将棋会	
9	28	豊中	豊中キャンパスツアー	大阪大学留学生会(OUISA)
	29	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	30	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
10	5	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会(OUISA)
	21	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会(OUISA)
	23	豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会(OUISA)
	29	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会(OUISA)
11	1~2	豊中	まちかね祭出店	
	8	箕面	秋の遠足(嵐山)	
12	4	箕面	多国籍料理パーティー	
	8	箕面	J-ShIP Winter キャンパスツアー	
	17	豊中	パエリアParty	
	21	吹田	Japanese Cafe & 年末大掃除	大阪大学留学生会(OUISA)
1	8	箕面	みんなでノルウェー語	
	21	吹田	もち&書き初めパーティー	大阪大学留学生会(OUISA)
	26	箕面	かきぞめパーティー	
2	9	吹田	End of the Semester Party	大阪大学留学生会(OUISA)

表 5 平成 27 年度 大阪大学留学生会（OUISA）の活動内容

月	日	内 容	場 所	共 催 団 体 、 内 容 他
4	6	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	研修コース留学生対象/ B.S.P. 共催
	7	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象/ B.S.P. 共催
	8	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部・短期留学生対象/ B.S.P. 共催
	9	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	U コース対象/ B.S.P. 共催
		OUISAオリエンテーション	吹田キャンパス	新規留学生対象
	16	役員会(1)	吹田キャンパス	
	24	OUISA 総会	吹田 : IC ホール会議室	
		ウェルカムパーティー	吹田 : IC ホール講義室 5,6	B.S.P. 共催
	28	理事との面談	吹田 : 本部	各国留学生団体代表
5	2~3	いちょう祭出展	豊中キャンパス	
	8	ネパール紹介	吹田キャンパス	ネパール人留学生共催
	15	W.W.W.Party	豊中キャンパス : 大学会館	B.S.P. 生協留学生チーム共催
	16~17	役員合宿	生駒野外活動センター	
	21	ウェルカムパーティー	箕面 : 福利会館 2F	B.S.P. 共催
6	1	役員会(2)	吹田キャンパス	
	22	阪大広報によるインタビューに協力	吹田キャンパス	
	25	ハラスメントワークショップ	吹田キャンパス	ハラスメント相談室、CIEE 共催
7	6	役員会(3)	吹田キャンパス	
	11	OUISA Fun Run	吹田キャンパス	
	17	OUISA 送別会	吹田キャンパス	
	23	アカデミックライフワークショップ	吹田キャンパス	ハラスメント相談室、CIEE 共催
9	28	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	短期留学生対象/ B.S.P. 共催
	29	新留学生へのキャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象/ B.S.P. 共催
	30	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	日日センター学生対象/ B.S.P. 共催
10	2	役員会(4)	吹田キャンパス	
	5	新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修コース・KOSMOS / B.S.P. 共催
	7	OUISA オリエンテーション	吹田キャンパス	新規留学生対象
	21	ウェルカムパーティー	吹田キャンパス	B.S.P. 共催
	22	ハラスメントワークショップ	吹田キャンパス	ハラスメント相談室、CIEE 共催
	23	ウェルカムパーティー	豊中キャンパス : 大学会館	B.S.P. 共催
	29	ウェルカムパーティー	箕面 : 福利会館 2F	B.S.P. 共催
11	4	役員会(5)	吹田キャンパス	
	14	大阪大学留学生会スポーツ大会	吹田キャンパス	協力 : B.S.P.
	30~	難民への衣料品寄付活動	吹田・豊中キャンパス	
12	1	役員会(6)	吹田キャンパス	
	16	アカデミックライフワークショップ	吹田キャンパス	ハラスメント相談室、CIEE 共催
	21	年末大掃除	吹田キャンパス	B.S.P. 共催
1	12	役員会(7)	吹田キャンパス	
2	12	役員会(8)	吹田キャンパス	
	22	産学国際交流懇親会に参加	スイス南海大阪	関西留学生国際交流支援連絡会
	23	阪大広報によるインタビューに協力	吹田キャンパス	
3	11	OUISA 送別会	吹田キャンパス	

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は平成27年7月24日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成27年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第24回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成28年2月18日に実施した。今回の協議会では、大阪大学国際同窓会の活動について、大阪大学国際同窓会会长の講演後、卒業生をパネリストとし、「大阪大学留学生の日常生活を学ぼう—ムスリム留学生の経験から 大阪大学ムスリム留学生協会の活動の紹介」と題したパネルディスカッションを行った。当日は学内49名、学外139名、発表者5名のあわせて193名の参加があった。

表6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
ホストファミリーグループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	238
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	215
(公財) とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	841
(公財)箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	433
池田ホームステイ友の会 →池田市国際交流協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	27
(公財)吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	454
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	271
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	173
留学生さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	81
海外協力グループクスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	69
チャターポックス*4																11	12	9	8	12	10	11	73
OHP/IRIS に直接登録*5	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	301
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	3356

*1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始

*2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始

*3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始

*4 チャターポックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始

*5 ホストファミリーの学内公募は平成19年8月開始

*6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会として参加

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表7は、平成27年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

さらに平成27年度も大阪府教育委員会に協力して、教員の初任者研修—社会体験プログラムを行った。国際教育交流センターにおいてこのプログラムを7月21日～22日に実施し、講義や留学生とのディスカッションを行った。このプログラムには大阪府立学校から7名の新任教員が参加した。

表7 平成27年度「国際理解教育」実施状況

*「/」は二重国籍

月	日	府/市	学校/プログラム名	派遣人数	派 遣 学 生 国 稷
5	6	大 阪 府	三国丘高等学校	9	フィリピン、マレーシア、ブラジル、エジプト、ベトナム、ネパール、スウェーデン、イラン、イエメン
6	15		かんらん保育園	4	ロシア、オーストラリア、イギリス、メキシコ
6	26	茨 木 市	郡山小学校	9	韓国、ウクライナ、エジプト、インド、中国、フィリピン、ロシア
6	30	兵 庫 県	兵庫高等学校	10	インド、イラン、スウェーデン、ネパール、エジプト、フィリピン、ロシア、イエメン
7	6	能 势 町	東中学校	9	インド、フィリピン、オーストリア、マレーシア、台湾、ベトナム、イエメン、ペルー、カナダ
7	9	豊 中 市	第十三中学校	2	ウクライナ、インド
7	15		清教學園	10	インド、韓国、バングラデシュ、ベトナム、スウェーデン、マレーシア、エジプト、ロシア、イラン、中国
9	11	寝屋川市	第五中学校	15	インド、オーストラリア、コスタリカ、ペルー、インドネシア、エジプト、インド、ネパール、ドイツ、ブルガリア、ウクライナ、イエメン、イラン、韓国、アフガニスタン
9	15	兵 庫 県	川西北陵高等学校	8	ウクライナ、ブルガリア、インド、ロシア、ドミニカ、ギニア、ハンガリー、シリア
9	28-30		報徳学園中学校	16	アフガニスタン、インド、ウズベキスタン、中国、フィリピン、ブルガリア、ペルー、マレーシア、イラン、インドネシア、ヨルダン
10	7	大 阪 府	刀根山支援学校 大阪大学医学部附属病院分教室	1	韓国
11	5	茨 木 市	畠田小学校	2	インド、韓国
11	9	茨 木 市	南中学校	7	ギニア、ブラジル、ロシア、中国、ネパール、カナダ、韓国
11	12		関西大倉高等学校	16	インドネシア、ヨルダン、メキシコ、中国、ウクライナ、ロシア、スーダン、ハンガリー、韓国、ドイツ、コスタリカ、ブルガリア、イタリア、チエコ、ベトナム
11	13	吹 田 市	第一中学校	7	フィリピン、香港、台湾、ハンガリー、ドイツ、イタリア
11	19	豊 能 町	東能勢中学校	5	イラン、ロシア、マレーシア、ブルガリア、エジプト
11	22	大 阪 府	天王寺高等学校	18	イギリス、ロシア、インド、ベトナム、ウズベキスタン、グアテマラ、ハンガリー、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、チュニジア、韓国、ドイツ
11	26	川 西 市	明峰中学校	4	ウクライナ、カザフスタン、中国、ロシア
11	27	大 阪 市	大和田小学校	9	エジプト、ブラジル、インド、韓国、イラン、コスタリカ、ペルー、ウクライナ
11	28	大 阪 府	茨木高等学校	56	インド、フィリピン、イギリス、ベトナム、ウズベキスタン、グアテマラ、中国、チュニジア、スウェーデン、フィンランド、ハンガリー、グアテマラ、香港、アメリカ、ヨルダン、ペルー、タイ、エジプト、ドミニカ、ベルギー、ブルガリア、ポルトガル、イタリア
12	4	茨 木 市	沢池小学校	9	ハンガリー、ブラジル、アメリカ、インド、フィリピン、韓国、イタリア、チュニジア
12	7	能 势 町	西中学校・東中学校	20	インドネシア、ロシア、ハンガリー、フィリピン、ペルー、中国、韓国、エジプト、アフガニスタン、イエメン、カナダ、ドイツ、スーダン、カザフスタン、チュニジア、ヨルダン、ウクライナ
12	14	大 阪 府	千里高等学校	2	フランス、フィリピン
12	15	吹 田 市	藤白台小学校	12	コスタリカ、アフガニスタン、イエメン、ギニア、スーダン、ウクライナ、エジプト、ベトナム、ロシア、インドネシア、中国
12	16	茨 木 市	春日丘小学校	8	ハンガリー、中国、タイ、ドイツ、ロシア、マレーシア、チュニジア
12	22	大 阪 府	豊中高等学校	31	ブルガリア、コスタリカ、ロシア、カザフスタン、タイ、ドイツ、エジプト、イエメン、モザンビーク、ハンガリー、中国、韓国、イタリア、スウェーデン、イラン、ベトナム、インドネシア、ヨルダン、カナダ、イエメン
1	15	池 田 市	渋谷中学校	7	ギニア、インドネシア、イラン、ロシア、香港、台湾
1	18	豊 中 市	第十四中学校	5	韓国、ドイツ、ギニア、ロシア、フィリピン
1	22	吹 田 市	西山田中学校	5	イラン、ロシア、フィリピン、ハンガリー
2	9	摂 津 市	摂津第三中学校	6	ギニア、ロシア、ハンガリー、スリランカ、イギリス、中国
2	25	大 阪 市	堀江小学校	8	インド、ロシア、インドネシア、モザンビーク、台湾、ハンガリー、バングラデシュ
2	26	大 阪 市	堀江小学校	8	インド、ロシア、インドネシア、モザンビーク、台湾、ハンガリー、バングラデシュ
2	29	能 势 町	西中学校	6	ロシア、エジプト、インド、スウェーデン、ハンガリー
3	1	大 阪 市	堀江小学校	8	インド、ロシア、インドネシア、モザンビーク、台湾、ハンガリー
3	5-7	大 阪 府	大手前高等学校	8	イエメン、イラン、タイ、ブルガリア、ドミニカ、チュニジア、ドイツ

計： 35件/ 360名

延べ人数	360
件数	35

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、平成 27 年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全 9 回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 平成 27 年度の留学生のための就職対策講座

(a) 英語によるキャリア入門セミナー

2015 年 6 月 5 日（金）、英語で就職情報を希望している外国人留学生を対象にした、「留学生のための英語によるキャリア入門セミナー」が吹田キャンパス IC ホールで開催された。セミナーは学内のキャリアカウンセラーの講演に通訳者が英語で通訳する形で行われた。参加者数は 42 名であった。背景には、昨年度の就職相談コーナーでの相談者の要望、また英語コースを担当している教員からの要望もあり、英語で就職活動を行いたい留学生に対する就活支援の必要性が浮かび上がったことが挙げられる（図 1 参照）。



図 1 英語による就活入門セミナーポスター

(b) 留学生のための就職対策講座

2015 年 10 月より 2016 年 1 月にかけて恒例の「留学生のための就職対策講座」を開催した。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生 OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全 8 回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ 217 名であった。（図 2, 3 参照）。



図 2 就職対策講座ポスター

平成27年度 留学生のための就職対策講座【Program】					
月	日 Date & Time	場所 Place	言語 Language	講義項目 Subject	講義担当 Instructor
	10月9日(木) 16:00~18:00	【吹田】全学教育推進機構 大講堂	日本語	留学生のための就職活動セミナー	教育推進部学生・キャリア支援課のプログラムによる
1	October 15th (Thu.) 18:00~20:00	【Toyonaka】Matching-type Seminar Room, 2F, Student Commons	日本語/English	就活入門セミナー/Introduction to job search for international students	Kumiko Niida (career adviser) ※ English translation provided!
2	10月30日(金) 18:00~20:00	【吹田】ICビル2F R5 & 6	日本語	情報収集及び企業・業界研究	中川浩一氏 (キャリアアドバイザー)
3	11月6日(金) 18:00~20:00	【豈中】ステューデントコモンズ1F カルチャーエキスラーニング	日本語	自己分析/キャリアデザイン	新居由久美子氏 (キャリアアドバイザー)
4	11月16日(月) 18:00~20:00	【豈中】ステューデントコモンズ1F カルチャーエキスラーニング	日本語	エントリーシートの書き方/ 合同企業説明会等対策	野村文子氏 (キャリアアドバイザー)
5	11月20日(金) 18:00~20:00	【吹田】ICビル2F R5 & 6	日本語	OB・OGによる体験談	大阪大学国際同窓会
6	11月26日(木) 18:00~20:00	【吹田】ICビル2F R5 & 6	日本語	内定者による体験談	大阪大学留学生
7	12月6日(木) 18:00~20:00	【豈中】ステューデントコモンズ1F カルチャーエキスラーニング	日本語	面接対策(1) (日本企業の面接ルール、 読得力あるアピール方法)	野村文子氏 新居由久美子氏
8	1月18日(月) 18:00~20:00	【吹田】 ICビル2F R5 & 6	日本語	面接対策(2) (模擬面接)	野村文子氏 新居由久美子氏

図 3 就職対策講座プログラム

(c) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図4に示されている通りである。全8回のうち、第2回目の「情報収集及び企業・業界研究」の参加者が最も多く35名、次に第1回目の「就活入門セミナー」の32名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く125名で、全体の58%を占めた(cf.表8)。所属別では工学系が最も多く90名であった(cf.図5)。学年別では博士課程前期1年次が最も多く121名で全体の56%を占めた(cf.図6)。

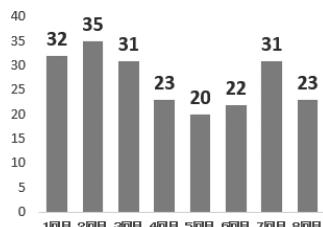


図4 各回の参加者数

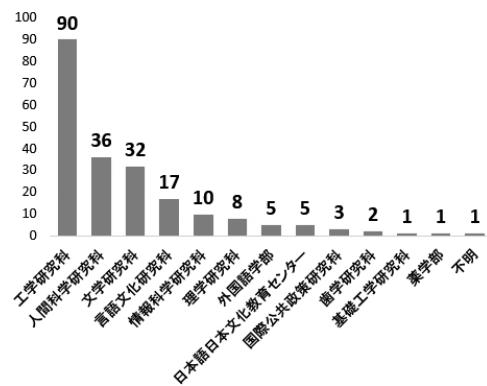


図5 参加者の所属

表8 参加者の出身

出身国	人数
中国	125
インドネシア	12
ベトナム	11
韓国	11
スリランカ	7
台湾	6
スウェーデン	5
タイ	5
アフガニスタン	4
マレーシア	4
ロシア	4
フランス	3
イエメン	2
インド	2
エジプト	2
フィンランド	2
ポルトガル	2
ミャンマー	2
不明	2
セルビア	1
チュニジア	1
ドイツ	1
パナマ	1
フィリピン	1
モンゴル	1

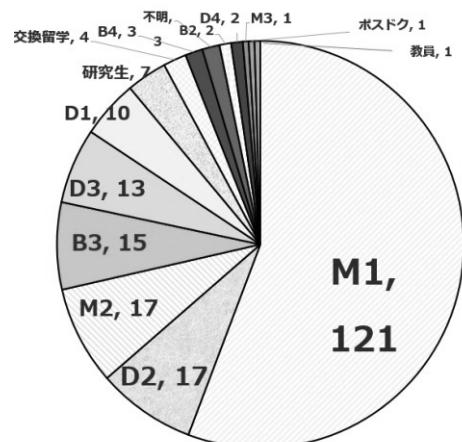


図6 参加者の学年



i) 第1回 Introduction to job search for international students



ii) 第4回エントリーシートの書き方・合同企業説明会等対策



iii) 第6回 内定者による体験談



iv) 第8回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、吹田および豊中キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で行った（図7参照）。平成27年度利用者数は延べ40名、メールによる相談は延べ97件となっている（表9、10参照）。主な相談内容は以下の通りである。

- エントリーシート、CV のチェック
- 英語で就活をしたい/英語で就職できるところはあるか
- 障がいがあるが就職できるか
- 内定をもらったので送られてきた書類の確認をしてほしい
- 学生ビザで就活できるか
- 外国人医師の登録サイトの登録サポート
- 今から（2月）から就活しても間に合うか
- 短期で働きたい
- インターンをしたい
- 面接がうまくできない。
- 説明会に着ている服装について

就職活動を考えている留学生のための相談コーナー

Consultation on Job Search for International Students

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？
If interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

◆ 対象：大阪大学に在籍する正規留学生
 Target: International students registered as regular students

▼ 相談時間と場所
Time and Place

- ◆ 豊中キャンパス/Toyonaka Campus
 ○ 毎週火曜日 Every Tuesday 12:00 ~ 13:00
 学生交流棟 2F 國際教育交流センター +
 ミナミティアラーム
- ◆ CIEE Meeting Room 2F, Student and Service Union
 The building where Café restaurant, Sora is located

トヨナカ — Student Service & Union, 2F



Here

◆ 吹田キャンパス/Suita Campus
 ◇ 毎週木曜日 Every Thursday 12:00 ~ 13:00
 國際教育交流センター ICホール2F, 講義室4
 Room 4 2F, IC Hall, CIEE
 ※ メール予約優先
 Priority given to those who have an appointment via e-mail
 ※ 春季・夏季：冬季休業期間中はメールでの予約必須
 Appointment necessary during spring, summer and winter vacations

▼申込み Appointment : career@ciee.osaka-u.ac.jp

1. 希望日時 2. 氏名 3. 学部 4. 学年 5. 国籍を書いて申込んでください。
 件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。
 E-mail us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. family, 4. year, 5. country. Put "career consultation" in the subject line.

▼主催 大阪大学国際教育交流センター Organizer: Center for International Education and Exchange
 ▼協力 学生部、学生・キャリア支援課 Cooperation: Department of Student Affairs, Student Career Support Division
 ▼コラボ「オカサキ」 大阪英語特典講座教授 Noriko USAKA, specially appointed associate professor

卒業後、日本で就職するかどうか迷っているら、If you are yet to decide whether to look for a job in Japan

卒業後、日本での就職を希望していたら、If you are willing to find a job in Japan

ぜひ、相談コーナーへ！ Come and consult!

表9 相談コード別利用状況（日別・出身国別）

表 10 メール相談件数（月別・出身国別）

	中 国	ベ ト ナ ム	イン ド ネ シア	ス ウェ ー デン	イ ン ド	マ レ ー シア	イ エ メ ン	フィ ン ラ ンド	ロ シ ア	イ ラ ン	フィ リ ピ ン	計
4月	16											16
5月	9	7										16
6月	11	7		1	2							21
7月	9	4				2	3					18
8月	1	3					3	3				10
9月	2											2
10月								2	3			5
11月			1									1
12月												0
1月	5									1		6
2月											2	2
3月	18		2								10	30
	71	21	3	1	2	2	6	5	3	1	12	127

VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

短期海外研修として、英国エセックス大学での夏季語学研修、オーストラリアモナシュ大学での春季語学研修を実施した。海外体験を希望する学生に機会を提供することに加え、これらのプログラムは、協定校への交換留学の準備段階としても位置付けられている。英語力の伸びを客観的に測るために研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTS・TOEFLの受験を義務付けた。

また、事前研修として留学生との交流学習の場も設けた。エセックス現地研修出発前には、3度（6月27日、7月9日、8月10日）事前研修を行ったが、このうち1度目の事前研修では、箕面キャンパスにて、大阪大学で日本語を学ぶ留学生との協働活動（グループディスカッション、グループプレゼンテーション）を行った。モナシュ現地研修出発前には3度（12月19日、1月15日、2月12日）出発前の事前研修を行い、同様に1度目の事前研修は本学で短期間日本語研修プログラムに参加している留学生との協働活動を行った。昨年度に引き続き、現地到着後、モナシュ研修参加者にはボランティア活動を行う機会が与えられた。

(1) 事前研修（留学生との協働活動）の様子



(2) エセックスプログラム現地研修日程（参加者 37名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2015年8月14日（金）	PM 16:00	関西国際空港集合
	PM 18:00	出国：関西国際空港発（キャセイパシフィック航空 CX507便）
	PM 20:55	経由：香港国際空港着
	PM 23:55	経由：香港国際空港発（キャセイパシフィック航空 CX251便）
2015年8月15日（土）	AM 05:40	入国：ヒースロー空港着
		大学のバスでエセックス大学へ移動
2015年8月16日（日）		休 日
2015年8月17日（月） ～ 2015年9月18日（金）		エセックス大学にて研修（IELTS受験：9月5日（土））
2015年9月19日（土）		大学のバスで空港へ移動
	PM 12:25	出国：ヒースロー空港発（キャセイパシフィック航空 CX252便）
2015年9月20日（日）	AM 07:05	経由：香港国際空港着
	AM 07:55	経由：香港国際空港発（キャセイパシフィック航空 CX594便）
	PM 12:45	入国：関西国際空港着

(3) モナシュプログラム現地研修日程（参加者 29名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2016年2月14日（火）	AM 09:00	関西国際空港集合
	AM 11:00	出国：関西国際空港発（タイ航空 TG623）
2016年2月15日（水）	PM 03:45	経由：バンコク・スワンナプーム国際空港着
	AM 00:05	経由：バンコク・スワンナプーム国際空港発（タイ航空 TG465）
	PM 01:05	入国：メルボルン空港着
		大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面
2016年2月16日（火） ～ 2016年3月18日（日）		モナシュ大学にて研修
2015年3月19日（月）		大学のバスで空港へ移動
	PM 03:25	出国：メルボルン空港発（タイ航空 TG466便）
	PM 08:35	経由：バンコク・スワンナプーム国際空港着
2015年3月24日（日）	AM 11:15	経由：バンコク・スワンナプーム国際空港発（タイ航空 TG622便）
	AM 06:25	入国：関西国際空港着

2. 海外留学オリエンテーション

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

平成 27 年度 4 月に主に新入生を対象に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、全新入生が共通教育を受ける豊中キャンパスにおいて、海外留学オリエンテーション入門編をそれぞれお昼休みと夕方に国際交流オフィス学生交流推進課の協力のもと開催した。(表 1 参照)。

オリエンテーションでは在学中の交換留学制度や夏や春休み中の短期の語学研修プログラムについての説明、実際のプログラム参加学生の体験談発表の後、質問を受け付けた。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談システムなどの情報を提供することで、計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促した。終了後も多数の質問が寄せられ、新入生の海外に対する高い興味関心を確認することができた。

表 1 平成 26 年度 4 月海外留学オリエンテーション（入門編）参加者数

開催キャンパス	開 催 日 時	参 加 者 数
豊 中	4 月 16 日 (18 時～19 時)	129
豊 中	4 月 17 日 (昼休み)	49
計		178 (前年比-18%)

(2) 海外留学オリエンテーション本編

平成 27 年度 5・6 月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも国際交流オフィス学生交流推進課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の 3 キャンパスで計 4 回開催した(表 2 参照)。

表 2 平成 27 年度 5・6 月海外留学オリエンテーション

各キャンパスの海外留学オリエンテーション参加者数

開催キャンパス	開 催 日 時	参 加 者 数
豊 中	6 月 1 日 (18 時～19 時)	101
豊 中	6 月 2 日 (昼休み)	104
吹 田	6 月 3 日 (18 時～19 時)	22
箕 面	6 月 5 日 (昼休み)	114
計		341 (前年比+11%)



【海外留学オリエンテーション（入門編）の様子】



【海外留学オリエンテーション（本編）の様子】

3. 大学間交換留学者数

上記のように、総計 519 名の留学オリエンテーション参加者があり、また後述する留学相談件数の増加からも、多くの学生が海外留学に興味を示していることがうかがえる。それにともなって、大学間交換留学派遣者数も堅調に推移している。提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し学内面接選考を実施した。これに合格して交換留学派遣の推薦を獲得した学生数は、平成 27 年度においては、大学間協定に限定しても 160 名に至っている（表 3 参照）。

表 3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

国	募 集 対 象 協 定 校	人 数
ドイツ連邦共和国	ミュンヘン工科大学	1
ドイツ連邦共和国	アーヘン工科大学	1
ドイツ連邦共和国	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	2
ドイツ連邦共和国	ゲッティンゲン大学	2
ドイツ連邦共和国	ハイデルベルク大学	6
ドイツ連邦共和国	ベルリン工科大学	1
ドイツ連邦共和国	ミュンヘンルートゥヴィヒ・マクシミリアン大学	1
ドイツ連邦共和国	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	4
ドイツ連邦共和国	ビーレフェルト大学	2
ドイツ連邦共和国	アウグスブルグ大学	1
ドイツ連邦共和国	ルール・ボーフム大学	0
中華人民共和国	香港中文大学	2
中華人民共和国	清華大学	3
中華人民共和国	復旦大学	2
中華人民共和国	北京大学	4
中華人民共和国	西安交通大学	0
中華人民共和国	上海交通大学	0
中華人民共和国	浙江大学	0

中華人民共和国	同濟大学	0
中華人民共和国	南京大学	0
中華人民共和国	武漢大学	0
中華人民共和国	北京師範大学	0
大韓民国	ソウル大学校	5
大韓民国	釜山大学校	1
大韓民国	漢陽大学校	7
大韓民国	慶尚大学校	0
大韓民国	昌原大学校	0
大韓民国	中央大学校	0
大韓民国	忠南大学校	0
大韓民国	全南大学校	0
大韓民国	延世大学校	2
アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	2
アメリカ合衆国	カリフォルニア大学	16
アメリカ合衆国	ジョージア大学	3
アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	3
アメリカ合衆国	パデュー大学	0
アメリカ合衆国	ワシントン大学	1
アメリカ合衆国	ナザレスカレッジローチェスター校	2
アメリカ合衆国	ライス大学	1
フランス共和国	エックス・マルセイユ大学	2
フランス共和国	グルノーブル大学連合	0
フランス共和国	ストラスブール大学	5
フランス共和国	パリ国立高等化学学院	0
フランス共和国	ピエール・マリー・キュリー大学（パリ第6大学）	0
フランス共和国	ボルドー大学	0
タイ王国	カセサート大学	1
タイ王国	タマサート大学	4
タイ王国	チェンマイ大学	4
タイ王国	チュラロンコン大学	2
タイ王国	マヒドン大学	0
タイ王国	モンクット王トンブリ工科大学	0
オーストラリア連邦	アデレード大学	1
オーストラリア連邦	モナシュ大学	2
オーストラリア連邦	オーストラリア国立大学	3
オーストラリア連邦	クイーンズランド大学	1
カナダ	トロント大学	1
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	4

カナダ	マックマスター大学	4
カナダ	マギル大学	0
台湾	国立台湾大学	5
台湾	国立交通大学	0
台湾	国立清華大学	2
台湾	国立成功大学	0
英国	リーズ大学	5
英国	シェフィールド大学	3
英国	ノッティンガム大学	0
フィリピン共和国	アテネオ・デ・マニラ大学	0
フィリピン共和国	デ・ラ・サール大学	0
フィリピン共和国	フィリピン国立大学	0
オランダ王国	グローニングン大学	1
オランダ王国	デルフト工科大学	0
スイス連邦	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	0
スイス連邦	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	0
スウェーデン王国	イェーテボリ大学	3
スウェーデン王国	スウェーデン王立工科大学	0
スペイン王国	バリヤドリード大学	0
スペイン王国	マドリッドアウトノマ大学	1
インドネシア共和国	ガジャマダ大学	0
インドネシア共和国	バンدون工科大学	0
デンマーク王国	コペンハーゲン大学	5
ハンガリー共和国	エトヴェシュ・ロランド大学	4
フィンランド共和国	オーボアカデミー大学	6
ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学	6
ベトナム社会主義共和国	ハノイ国家大学	0
ペルー共和国	ローマ教皇府立ペルー・カトリック大学	0
ベルギー王国	ルーヴァンカトリック大学	1
ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン大学	0
メキシコ合衆国	メキシコ国立自治大学	0
モンゴル国	モンゴル国立大学	1
ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学	6
インド	インド工科大学ハイデラバード校	0
エジプト	アレキサンドリア大学	0
オーストリア共和国	ウィーン大学	2
カタール	カタール大学	0
合 計		160

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際交流オフィス学生交流推進課と協力して、海外で研修あるいは留学する予定の学生を対象に、毎年前期試験が終了する時期に派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

平成27年度は、2015年8月10日豊中キャンパス（参加者180名）／2016年2月12日吹田キャンパス（参加者79名）の2度開催し、海外渡航中のテロ対策や健康や生活の面で注意すべきことなどについて周知徹底した。

【プログラム】

平成27年度留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日 時：平成27年8月10日（月） 14:00～16:35

場 所：豊中キャンパス 全学教育推進機構 大講義室

司 会：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14:05～15:35 「海外渡航時の危機管理について」

山下 寿人

（日本アイラック株式会社 クライシスソリューション事業部 部長）

15:35～15:45 休憩

15:45～16:30 「海外渡航時の健康管理について」

大橋 一友

（グローバルコラボレーションセンター/医学系研究科保健学専攻 教授）

16:30～16:35 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

平成 27 年度第 2 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日 時：平成 28 年 2 月 12 日（金） 14:00～16:45

場 所：吹田キャンパス 医学部保健学科 第 1 講義室

司 会：歳岡 泳香 特任助教（国際教育交流センター）

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

有川 友子 教授（国際教育交流センター センター長）

14:05～14:15 「留学・海外研修に際しての諸手続きと留意事項」

安達 大祐 事務職員（教育推進部学生交流推進課）

14:15～15:45 「海外渡航中の危機管理について」

中野 翠 スーパーバイザー

（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部）

15:45～15:55 休憩

15:55～16:40 「海外渡航中の健康管理について」

朝野 和典 教授（医学部附属病院感染制御部 部長）

16:40～16:45 閉会の挨拶

有川 友子 教授（国際教育交流センター センター長）

【危機管理オリエンテーション・会場の様子】



5. 留学報告会

前述の「派遣前危機管理オリエンテーション」の終了後、前年度と同様に「留学報告会」を開催した（第1回参加者27名、第2回参加者23名）。主な目的は、短期語学研修プログラム、大学間・部局間交換留学、研究留学、学位取得型留学（長期留学）を実際に経験し帰国した学生から、渡航前にしておくべき留学準備や、特定の国・大学の情報を聞き、これから留学を開始する学生が充実した留学生活を実現するための助けとするためである。報告会においては帰国学生の体験談発表後、帰国学生とこれから留学を開始する学生との間で活発な情報交換が行なわれた。またこの企画は、様々な国や地域に留学した経験者同士の人的ネットワークを構築することも趣旨の一つとしている。

【プログラム】

平成27年度第1回留学報告会

日 時：平成27年8月10日（月） 17:00～19:00

場 所：豊中キャンパス スチューデントコモンズ カルチャ・ミュルチラウンド

司 会：歳岡 泮香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

◆開会の挨拶

歳岡 泮香（国際教育交流センター 特任助教）

◆参加者の自己紹介

◆留学体験談（含質疑応答）

●エセックス大学（イギリス）夏季語学研修プログラム参加

阿部 史佳（法学部国際公共政策学科 U2）

●モナシュ大学（オーストラリア）春季語学研修プログラム参加

長方 詩織（工学部地球総合工学科 U3）

●ルーヴアン・カトリック大学（ベルギー）にて大学間交換留学

河岸 良承（外国語学部外国語学科英語専攻 U4）

●カリフォルニア大学サンタバーバラ校（アメリカ）にて大学間交換留学、実践活動

森 裕美（外国語学部外国語学科英語専攻 U4、トビタテ第1期生）

●ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）にて研究留学

廣瀬 奈々子（歯学研究科口腔科学専攻 D4）

●NGO JIPPO（フィリピン）にて海外インターンシップ

寺地 慶悟（外国語学部外国語学科フィリピン語専攻 U4）

●ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）にて長期留学（修士課程入学）

田平 修（国際公共政策研究科比較公共政策専攻 M2）

◆パネルトーク

◆閉会の挨拶

歳岡 泮香（国際教育交流センター 特任助教）

平成27年度第2回留学報告会

日 時：平成28年2月12日（金） 17:00～19:00
場 所：吹田キャンパス 医学部保健学科 第2講義室
司 会：歳岡 泳香 特任助教（国際教育交流センター）

〈プログラム〉

◆開会の挨拶

歳岡 泳香（国際教育交流センター 特任助教）

◆参加者の自己紹介

◆留学体験談（含質疑応答）

- エセックス大学（イギリス）夏季語学研修プログラム参加
山田 葵（法学部国際公共政策学科 U1）
- モナシュ大学（オーストラリア）春季語学研修プログラム参加
小國 真奈（文学部人文学科 U2）
- カリフォルニア大学サンタバーバラ校（アメリカ）にて大学間交換留学、実践活動
森 裕美（外国語学部外国語学科英語専攻 U4、トビタテ第1期生）
- Leibniz Centre for Agricultural Landscape Research (ZALF) (ドイツ) にて
海外インターンシップ
館林 香菜（工学研究科環境・エネルギー工学専攻 M1）
- オーストラリア大学（オーストラリア）にて研究留学
若林 真美（医学系研究科公衆衛生学 D4）
- ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）にて学位留学（修士号取得）
歳岡 泳香（国際教育交流センター 特任助教）

◆パネルトーク

【留学報告会の様子】



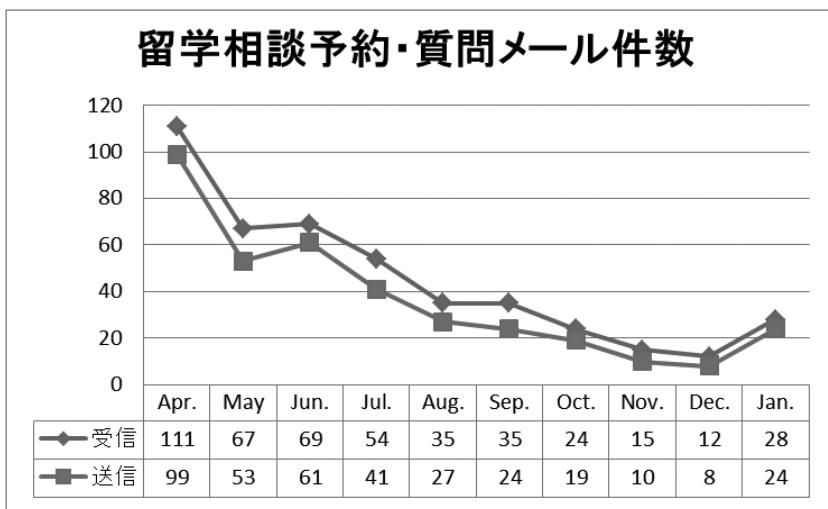
6. 海外留学相談とアドバイス

留学を希望する学生のサポートのために、学期期間中を中心として教員による留学相談（メール・対面）を実施した。2016年2月12日には、学生交流推進課と共同でトビタテ！留学 JAPAN 応募書類作成相談会を開催した。また、交換留学から帰国した学生有志により、定期的な留学相談会と予約制の個別相談を実施した。

(1) 教員による留学相談

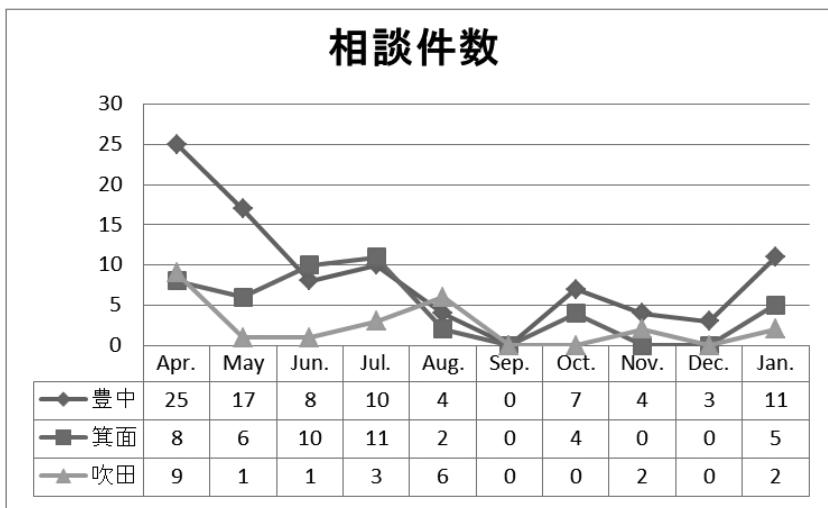
国際教育交流センター豊中分室と箕面分室では、週一度昼夜休みに、吹田キャンパスでは要望に応じ、留学経験のある教員により、対面での留学相談を実施した。相談件数は合計159件（前年度143件）であった。相談予約・メールでの相談はadvising@ciee.osaka-u.ac宛のメールで、随時受け付けた。メール件数は受信が450件、送信が366件であった。

(1)-1. advising@cieeへの留学相談予約・質問メール件数（受信450件、送信366件）

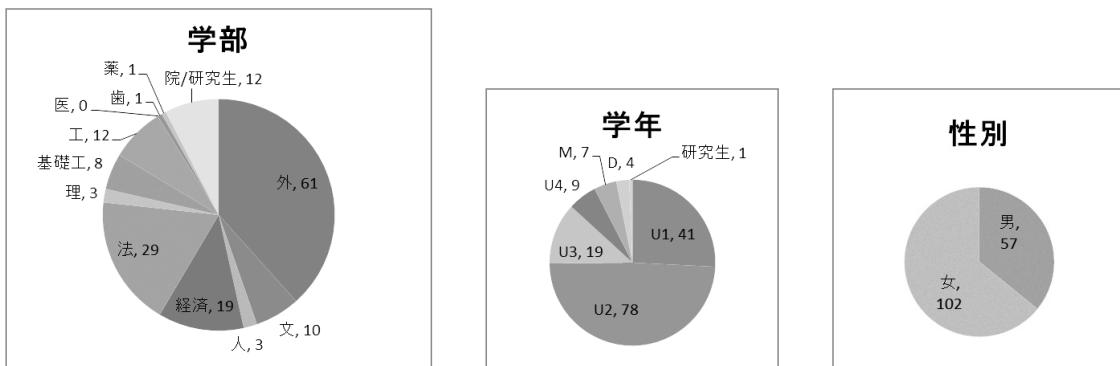


(1)-2. 相談件数推移（豊中：89件、箕面：46件、吹田：24件、合計159件）

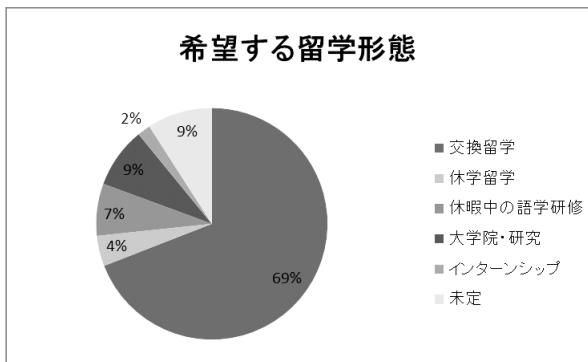
※1月の件数には、2月1日～2月10日までに受け付けた相談も含む。



(1)-3. 対面での相談利用者



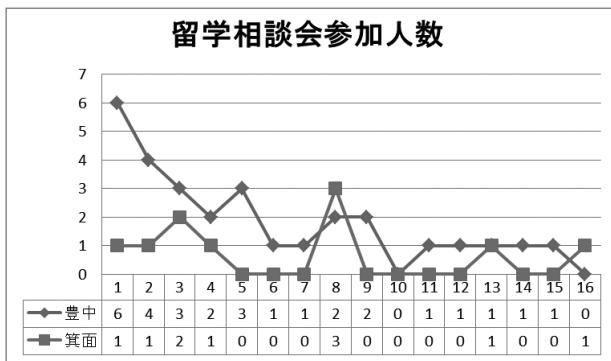
(1)-4. 希望する留学形態



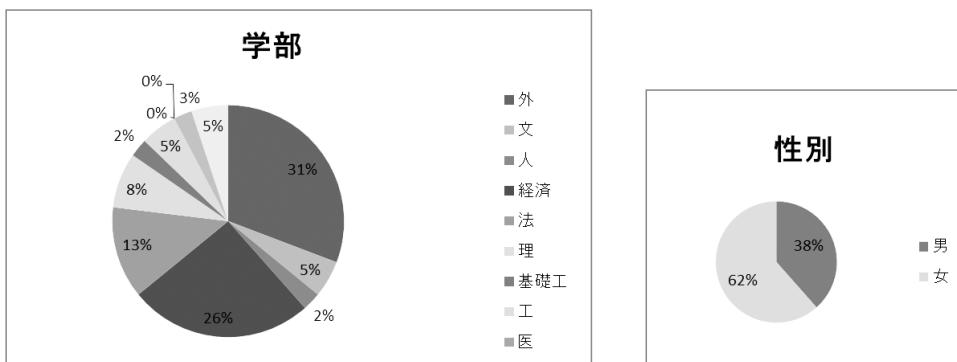
(2) 交換留学経験学生による留学相談会

(2)-1. 参加人数（合計 39 名）

(豊中・箕面キャンパスで学期期間中（4月～7月、10月～1月）各月2回の計16回・昼休みに開催)



(2)-2. 相談利用者



IX. サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

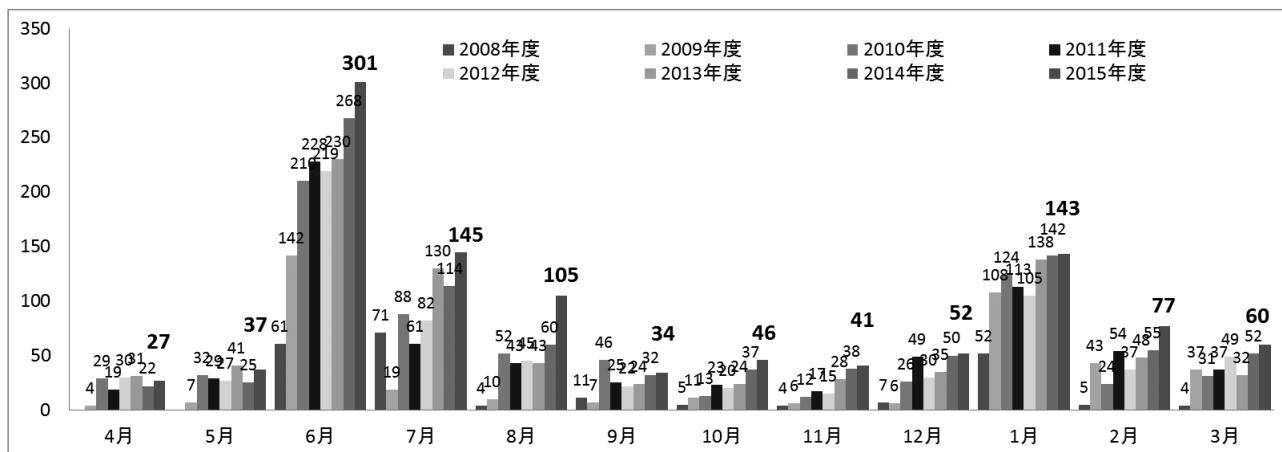
サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、入国前から帰国時までの各種情報を提供している。このような活動をとおして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。

2015年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。



1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2015年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は1,068件であった（「留学」740件、「教授」165件、「文化活動」57件、「家族滞在」106件、その他0件）。CESR Web申請システムは、新システム（申請者画面の日英併記、管理者画面変更）に移行した。また、ビザ関連支援に関するE-mailの送信件数は約5,649件、電話対応件数は約1,952件、窓口対応件数は約415件であった。グラフに2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関する全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）と確実に支援実績を伸ばしている。2016年3月末日現在、約77名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

ハウジングリクエスト機能を用いたリクエスト件数は109件であり、それに対する不動産会社からの返信件数は325件であった。またホームページでは、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供をしている。

宿舎支援に関するE-mailの送信件数は約2,850件、電話対応件数は約511件、窓口対応件数は約391件であった。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2015年度の参加者の合計は210名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① サポートオフィスの紹介
- ② 在留資格に関する案内
- ③ 市役所等での手続きの案内
- ④ 宿舎についての案内
- ⑤ 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ⑥ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑦ 異文化での生活についてのアドバイス
- ⑧ 日本語履修についての説明（留学生対象）

**2015年度 春期
新規来日留学生・外国人研究者向け
オリエンテーション**

◆ 開催日時・場所
2015年4月3日（金） 13時00分～(1時間程度) 英語
14時30分～(1時間程度) 日本語
豊中キャンパス 豊中総合学館 5階 501号
2015年4月8日（水） 9時30分～(1時間程度) 英語
11時00分～(1時間程度) 日本語
吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 研修室

◆ 実施内容
サポートオフィス概要
IRISとその他の学内外コミュニティについて
在留資格及びその他来日直後に必要な手続きについて
宿舎について
大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
大阪大学のインターネットサービスについて
日本語履修についての説明（留学生対象）
個別相談（自由参加）
主催：サポートオフィス&IRIS（国際教育交流センター）
協力：サイバーメディアセンター

豊中キャンパスマップ
吹田キャンパスマップ

サポートオフィス
TEL:06-6879-4750
E-mail:supportoffice@o-office.osaka-u.ac.jp

留学生交流情報室「IRIS」
TEL:06-6879-7076
E-mail:iris@cie.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

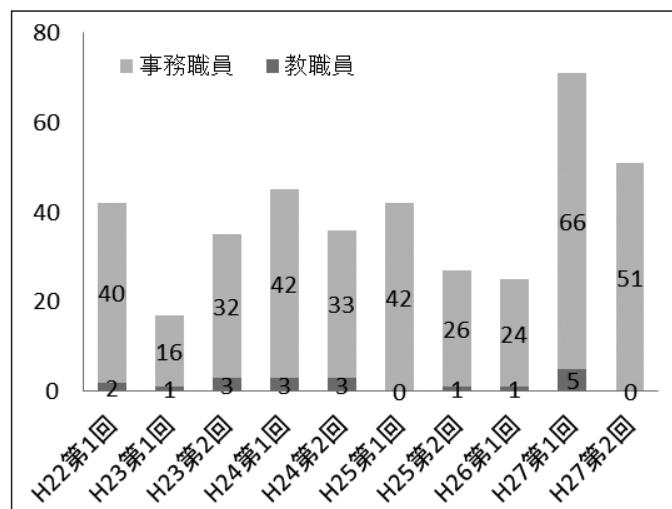
2015年秋および2016年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入れに伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舎支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2015（H.27）年度第1回研修会】

参加者 71 名（教員 5 名、事務職員 66 名）
2015 年 6 月 19 日（金）13：30-16：00（豊中）
2015 年 6 月 24 日（水）13：30-16：00（吹田）

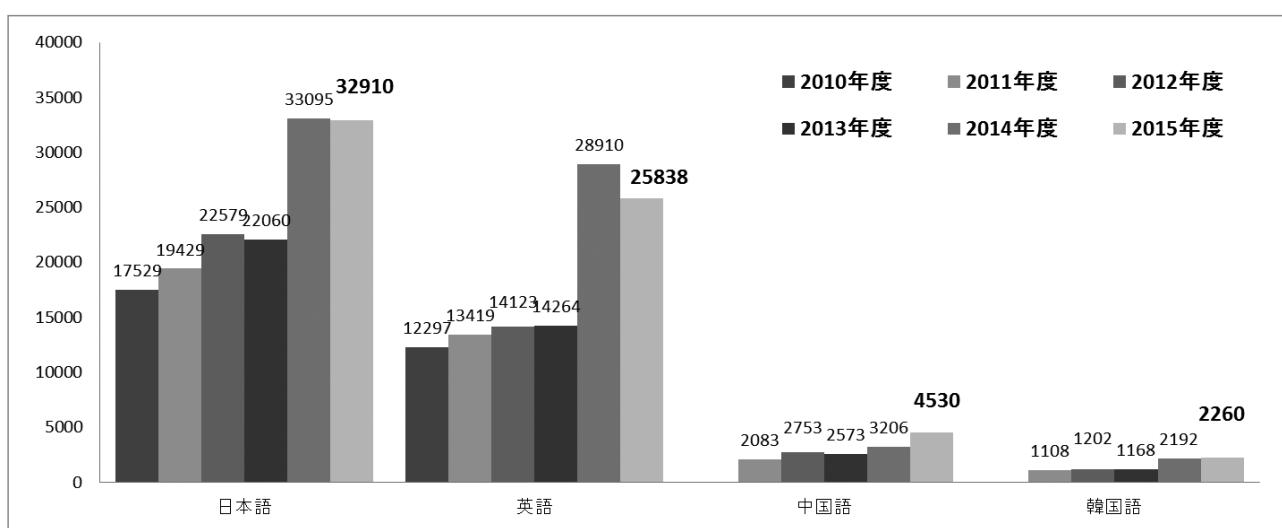
【2015（H.27）年度第2回研修会】

参加者 51 名（教員 0 名、事務職員 51 名）
2015 年 12 月 4 日（金）13：00-16：00（豊中）
2015 年 12 月 9 日（水）09：30-12：00（吹田）



5. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを 4ヶ国語で公開している（日・英サイトは 2010 年 4 月より、中・韓サイトは 2011 年 4 月より公開）。2015 年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約 32,910 件、英語サイトが約 25,838 件、中国語サイトが約 4,530 件、韓国語サイトが約 2,260 件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。

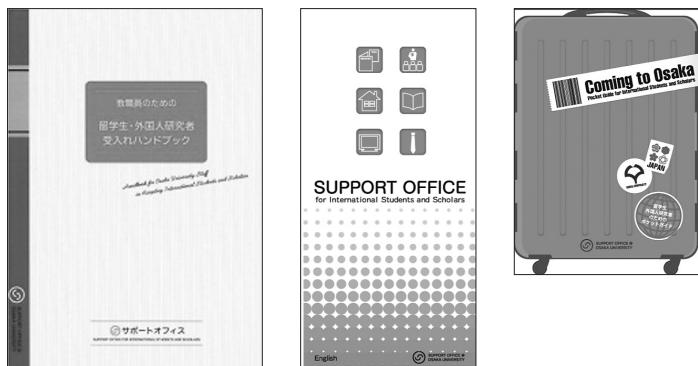


6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『教職員のための留学生・外国人研究者受入ハンドブック』は、説明会や研修会を中心に配布した（196部）。『Coming to Osaka』は、主に CESR 送付時に同封し（910部送付・配布）、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションで主に配布した（884部）。『Living in Osaka』の別冊として子育てに関する情報を集約した「妊娠・出産・子育て編」、

および宿舎情報やそれに関連する契約・引越し等に関する情報を集約した「住まい編」も必要対象者に配布した（妊娠・出産・子育て編：58部送付・配布、住まい編：112部送付・配布）。また、6ヶ国語で作成されているサポートオフィスの紹介パンフレットは、来訪者や留学フェア等で配布された（英：644部）。

*（ ）内の数値は2015年度の配布数。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科 目 名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、こうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『第二言語教育におけるバフチン的視点』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ : A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）について、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科 目 名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、『第二言語教育におけるバフチン的視点』の第7章から第11章までを輪読の形式で講じた。同時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科 目 名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的是、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科 目 名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読みつつ、書記言語コミュニケーションとしてのアカデミック・ライティング（以下、ライティング）について理解を深めた上で、複数回の演習を通してライティングの運用能力の向上を図ることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れる。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科 目 名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷晋也）

【講義概要】まず、言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について検討した。その後、少数民族に対する中国の言語政策とアラビア語圏各国の諸相について、院生の発表を元に考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】ヨーロッパと東南アジアのいくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に考察した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを検討した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】日本語教育学の方法論（義永美央子）

【講義概要】本講義では、本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子著『日本語教育学研究の歩き方』（大阪大学出版会、2014）をテクストとして、第二言語としての日本語の学習や教育に関する研究を概観した。また、研究目的・研究課題の設定から論文の執筆に至るまでの研究の進め方について、特に方法論の側面から検討した。授業では発表やディスカッションを中心とし、受講生の主

体的かつ積極的な参加を促した。

【科 目 名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】質的研究入門（義永美央子）

【講義概要】本講義は、質的研究に関する理解を深め、受講生各自の今後の研究に役立てることを目的とする。外国語教育研究における質的研究・定性的研究の基本的姿勢や分析方法について検討した後、質的研究の手法を用いた論文を読み、フィールドワークやインタビュー等によって得られたデータの「分厚い記述」がどのようにして可能になるのかを考察した。授業は発表やディスカッションを中心とし、受講生の主体的かつ積極的な参加を促した。

【科 目 名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】e-Learningという言葉が使われるようになって、すでに久しい。また、ICT技術は携帯電話やゲーム機などのようにユーザに「コンピュータ」を意識させないまま、コミュニケーションの形態を急速に変化させ続けている。このような状況の中、第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかについて検討した。実際のウェブ教材およびITデバイスを通して、その有用性を相互に報告する形で、評価を行い、その成果をwebサイトにおいて公開した。

【科 目 名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】後期は、前期での検討を踏まえ、実際に日本語教育教材を作成する試みを行った。昨今、反転授業やMOOCsなどの基盤として用いられ、また個人でも編集・公開が手軽に行われるようになったインターネット上の動画を教材として用いるためにはどのような工夫が必要かを検討し、実際にグループ活動で教材作成を行った。

【科 目 名】言語文化政策論A

【講義題目】多文化主義の構想（西村謙一）

【講義概要】かつて、近代国家は単一の「国民」で形成されているとの擬制のもとにあったが、その擬制は必ずしも成り立たないと指摘されるようになってすでに久しい。国家が複数のエスニック・グループを内包しており、それが「国民」としての一体性を持ちえないケースもあるということは、国家のあり方を議論する際の前提として広く受け入れられるようになっている。この授業では、国家とエスニック・グループの複数性との関係をめぐる思想としての「多文化主義」に関する議論を検討した。

【科 目 名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の市民社会（西村謙一）

【講義概要】前期に引き続いて、「多文化主義」に関する議論を検討するとともに、受講生の研究報告を通じて、「多文化主義」の思想の実践的侧面に関する議論を行った。

② 博士後期課程

【科 目 名】応用言語学特別研究A（西口光一）

【科 目 名】応用言語学特別研究B（西口光一）

【科 目 名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）

【科 目 名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程 及び ② 博士後期課程

【科 目 名】生涯教育学特定演習I（木村涼子、有川友子）及び生涯教育学特定演習II（木村涼子、有川友子）

【講義題目】文化と教育に関する研究I及びII（有川友子担当分）

【講義概要】授業は2名の教員で分担したが、有川は文化と教育にかかわる多様な研究を参考にしながら、その理論的枠組みや研究方法、また社会に生起する具体的な諸課題への示唆について考えた。

(3) 工学研究科

① 博士前期課程

【科 目 名】プロダクトデザイン Product Design（宮原啓造）

【講義概要】機械や装置などのプロダクトを設計し開発していくための方法論を実践的な課題学習を通じて修得する。具体的には「プロダクトデザイン方法論」で講述される設計・開発のための方法論に基づきつつ、数名の学生からなるチームに産業界から提供される具体的な開発設計のための模擬課題をプロジェクトとして与え、各課題の分析・設計・試作などを通じて、一連の方法論の内容、それらを総合的に運用するためのプロセスについての考え方、創造的なデザインに求められる基本的な能力などを養う。

(4) リーディング大学院未来共生提供科目

【科 目 名】未来共生社会貢献論I

【講義題目】社会保障とサービスデザイン（伊藤ゆかり）

【講義概要】ミクロ経済学の基礎理論と社会保障制度の各国比較により、社会保障システムの理論的背景と状況についての理解を深める。その後社会保障システムの網から抜け落ちる人の状況を理解するため、ホームレスの就業支援を行うNPOをフィールドトリップで訪問し、実際に社会的弱者の支援を行っている人、対象となる元ホームレスの方から話を聞く機会を持つ。さらに、ホームレスの方を対象としたソーシャルサービスの案をグループで提案することで、社会的課題への解決に向けての意識を高める。

【科 目 名】未来共生社会貢献論II

【講義題目】社会起業（伊藤ゆかり）

【講義概要】発展途上国を含めた各国の社会起業のケーススタディにより、社会起業家と社会起業の影響とその波及効果について理解を深めながら、社会起業の手法を学ぶ。その後、対象となる地域に赴き、現地の地域の状況について自分の目で実際に確認し、対象となる地域のユーザーの話を聞

く。その後、専門性や価値観の異なるグループメンバーと対話しながら、社会的インパクトを起こす社会起業のビジネスプランを起案し、対象となる地域のユーザーへ提示する。

(5) インターナショナル・カレッジ

【春 学 期】

国際交流科目 (※共通教育科目の基礎教養科目として設定)

科 目 名 (日本語名称)	科 目 名 (英語名称)	担当教員名
イギリス「異文化体験」演習	Pre-Study Abroad Intensive English Program in the UK	歳岡 洋香
オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦

日本語 100～600 レベル

科 目 名 (日本語名称)	科 目 名 (英語名称)	担当教員名
日本語 101	Japanese Language 101	岡田亜矢子
日本語 102	Japanese Language 102	花井 理香
日本語 201	Japanese Language 201	上仲 淳
日本語 202	Japanese Language 202	滝井 未来
日本語 301	Japanese Language 301	岡崎 洋三
日本語 302	Japanese Language 302	花井 理香
日本語 401	Japanese Language 301	新庄あいみ
日本語 402	Japanese Language 302	新庄あいみ
日本語 501	Japanese Language 401	菅 摂子
日本語 502	Japanese Language 402	藤澤 好恵
日本語 601	Japanese Language 601	田中 真衣
日本語 602	Japanese Language 602	小原 俊彦
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	金 孝卿
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	磯野 英治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 403	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	磯野 英治
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	金 孝卿
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	磯野 英治
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	宮原 啓造
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	磯野 英治
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋 学 期】

国際交流科目 （※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
オーストラリア「異文化体験」演習	Multicultural Interaction between Australia and Japan	歳岡 泊香

日本語 100～600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
日本語 101	Japanese Language 101	岡田亜矢子
日本語 102	Japanese Language 102	花井 理香
日本語 201	Japanese Language 201	上仲 淳
日本語 202	Japanese Language 202	滝井 未来
日本語 301	Japanese Language 301	花井 理香
日本語 302	Japanese Language 302	畠中 香乃
日本語 401	Japanese Language 401	新庄あいみ
日本語 402	Japanese Language 402	新庄あいみ
日本語 501	Japanese Language 501	藤澤 好恵

科 目 名 (日本語名称)	科 目 名 (英語名称)	担当教員名
日本語 502	Japanese Language 502	菅 摂子
日本語 601	Japanese Language 601	田中 真衣
日本語 602	Japanese Language 602	小原 俊彦
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	金 孝卿
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	磯野 英治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル (共通教育科目)

科 目 名 (日本語名称)	科 目 名 (英語名称)	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	磯野 英治
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	金 孝卿
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション (日本語)	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	磯野 英治

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研究題目	指導教員
M 2	日本で働く中国人看護師の看護実践 —実践共同体への十全な参加に向けて—	西口 光一 大谷 晋也
M 2	語りから見る中国人留学生の異文化適応と日本語学習動機の関係	西口 光一 (秦 かおり)
M 2	日本語ライティング指導における学習者同士の「気づき」の実態 —ピア・レスポンスのインターアクションを通して—	村岡 貴子 (佐藤 彰)
M 2	市民による教育から考える多文化共生 —外国につながる子どもたちを対象とした地域学習支援教室をフィールドとして—	(ジェリー・ヨコタ) 難波 康治
M 2	在日中国人私費留学生の現状調査 —異文化理解の角度から見た留学生のアルバイト状況—	(中 直一) 難波 康治
M 2	2要素からなる4字漢語のアクセント —後部要素が状態や動作をあらわす場合—	(郡 史郎) 大谷 晋也
M 2	南京大虐殺をめぐる記憶のあり方	(我田 広之) 西村 謙一
M 2	A Research on EFL Learners' Can-do Perception: Under the Context of Japanese High School Education	(小口 一郎) 義永美央子
M 1	日本語中級学習者の教室内談話における訂正フィードバックと第二言語の最近接発達の領域	西口 光一 (瀧田 恵巳)
M 1	来日初期中国人留学生の対人関係の変容 —日本人チューターとの談話の分析から—	村岡 貴子 (中村 綾乃)
M 1	中国人日本語学習者と日本語母語話者の間に起こるチャットにおける実態調査	(郡 史郎) 難波 康治
M 1	自律学習能力促進におけるゲーミフィケーションのコンセプト活用 —中国における大学専攻日本語教育を例に—	(岩根 久) 大谷 晋也
M 1	中国ソーシャルネットワークの発達とその社会民主化への影響	(大村 敬一) 西村 謙一
M 1	日本語文字との接触場面における調整行動について —非漢字圏留学生の事例から—	(中 直一) 義永美央子

注) 「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は言語文化研究科教員。

② 博士後期課程学生

学年	研究題目	指導教員
D 3	日系企業の中国人ビジネスパーソンにおける異文化間コンフリクトへの対応 —中国の大学における日本語のビジネスコミュニケーション教育への応用に向けて—	村岡 貴子 (森 祐司)
D 3	日本語基礎段階にある研究留学生の学習過程 —専門紹介プレゼンテーションの準備活動から—	村岡 貴子 (岩根 久)
D 3	韓国語学習成功者の研究 —日本人大学生の学習ストーリーを例として—	西口 光一 (福田 覚)
D 3	中国語話者を対象とする日本漢字音教育のための基礎的研究 —日本語能力試験2級漢語を中心として—	(坂内 千里) 西口 光一
D 3	公立小学校で低学年のJSL児童に日本語を教える日本語指導協力者たちのライフヒストリーからみる日本語指導協力者の意味世界	(山下 仁) 難波 康治
D 3	対人コミュニケーションにおける「慰め」の様相について —日本語母語話者と韓国語母語話者を中心に—	(A・ディボフスキイ) 難波 康治
D 3	中国と日本の変身譚の歴史的変遷に関する考察 —狐、蛇、虎、犬、亀を中心に—	(坂内 千里) 大谷 晋也
D 3	台湾における郷土言語の習得と使用から見る台湾人の帰属意識	(伊勢 労夫) 西村 謙一
D 3	タイ人ビジネスパーソンによる日本語の断りメールにおける言語行動様式とラボーラマネジメント—日本人ビジネスパーソンとの比較を通じて—	(春木 仁孝) 義永美央子
D 3	行為の連鎖から見た「はい」の機能と韻律的特徴との関わりについて	(郡 史郎) 義永美央子
D 2	基礎後日本語教育の課題 —改革のための総合的研究—	西口 光一 (山本 佳樹)
D 2	自律的な外国語学習を促す方略	西口 光一 (植田 晃次)
D 2	The recipient designing of teacher-talk for shared understanding of 'doryoku'	西口 光一 (岡田 悠佑)
D 2	EPA看護師候補者のための漢字・語彙指導 —看護師国家試験の漢字・語彙調査およびEPA看護師候補者の現場調査から—	村岡 貴子 大谷 晋也
D 2	オーストラリア在住日英バイリンガル話者のコードスイッチング	(ジェリー・ヨコタ) 義永美央子
D 1	観光ガイドのための自律的な日本語学習環境の構築を目指す教育と学習支援 —中国の大学における観光日本語教育の改善に向けて—	村岡 貴子 (力武 京子)

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

研 究 题 目	指 導 教 員
日本マンガのジャンル研究—『こち亀』を例として—	西口 光一
接触場面における中国人日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジーに関する考察	西口 光一
オンラインゲームを通した日本語学習者の会話能力の向上	義永美央子

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 题 目	指 導 教 員
日本で働く中国人看護師の看護実践 —実践共同体への十全な参加に向けて—	西口 光一 大谷 晋也
語りから見る中国人留学生の異文化適応と日本語学習動機の関係	西口 光一 (秦 かおり)
2要素からなる4字漢語のアクセント —後部要素が状態や動作をあらわす場合—	(郡 史郎) 大谷 晋也
市民による教育から考える多文化共生 —外国につながる子どもたちを対象とした地域学習支援教室をフィールドとして—	(ジェリー・ヨコタ) 難波 康治
在日中国人私費留学生の現状調査 —異文化理解の角度から見た留学生のアルバイト状況—	(中 直一) 難波 康治
南京大虐殺をめぐる記憶のあり方	(我田 広之) 西村 謙一
A Research on EFL Learners' Can-do Perception: Under the Context of Japanese High School Education	(小口 一郎) 義永美央子

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は言語文化研究科教員。

② 博士学位論文

論 文 题 目	指 導 教 員
中国と日本の変身譚の歴史的変遷に関する考察 —狐、蛇、虎、犬、亀を中心に—	(坂内 千里) 大谷 晋也
中国語話者を対象とする日本漢字音教育のための基礎的研究 —日本語能力試験2級漢語を中心として—	(坂内 千里) 西口 光一
ドイツにおける日本人交換留学生のネットワーク構築に関する研究	(我田 広之) 西口 光一

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は言語文化研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ

研究プロジェクト名	採用時間数	担当教員
ICT を使った海外派遣・留学支援の充実化に関する研究	100	近藤佐知彦 歳岡 洋香
モバイルフォンを利用したシームレスな語学学習環境デザイン構築に関する研究と実践	84	魚崎 典子
離散値駆動型マニピュレータおよび自律分散型移動体システムの研究	202	宮原 啓造

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- ・2015年4月7日 平成27年度春季第43-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス ICホール講義室1~6、4階会議室、留学生交流情報室(IRIS)
組み合わせ数73組
- ・2015年4月13日 留学生対象交通安全集会
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階、阪急電鉄・三和銀行ホール 参加者：54名
- ・2015年4月16日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 全学大講義室 参加者：129名
- ・2015年4月16日 第14回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 学内参加者：3名、
学外参加者：11名、合計：14名
- ・2015年4月17日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：49名
- ・2015年4月18日 平成27年度春季第43-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター多目的ホール、
講義室1301-1305、1311-1313 組み合わせ数32組
- ・2015年6月1日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：101名
- ・2015年6月2日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：104名
- ・2015年6月3日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6 参加者：22名
- ・2015年6月3日 第70回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 待兼山会館 会議室 参加者13名
- ・2015年6月5日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：箕面キャンパス A棟416講義室 参加者：116名
- ・2015年6月5日 英語によるキャリア入門セミナー
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：42名
- ・2015年7月24日 平成27年度国際教育交流関係者連絡・交換会
於：豊中キャンパス 大学会館アセンブリーホール 参加者：65名

- ・2015年7月31日 トビタテ！留学JAPAN相談会
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ カルチャ・ミュルチラング
参加者：25名
- ・2015年8月4日 第42回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：学内4名、学外19名、
合計24名
- ・2015年8月10日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
於：豊中キャンパス 全学大講義室 参加者：180名
- ・2015年8月10日 留学報告会
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズマッチング型セミナー室
参加者：27名
- ・2015年9月3日 第71回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者 13名
- ・2015年9月4日 研修会「多様な留学生を受け入れるにあたって～自閉症スペクトラムの学生を受け入れる場合～」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：27名
- ・2015年9月29日 平成27年度秋季第44・1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス ICホール講義室1～6、4階会議室、留学生交流情報室
(IRIS) 組み合わせ数 58組
- ・2015年9月30日 トビタテ！留学JAPAN説明会
於：吹田キャンパス ICホール講義室6 参加者：9名
- ・2015年10月6日 平成27年度秋季第44・2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、留学生交流情報室 (IRIS) 組み
合わせ数 10組
- ・2015年10月10日 平成27年度秋季第44・3回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター多目的ホール、
講義室1301-1305、1311-1313 組み合わせ数 76組
- ・2015年10月15日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第1回目「Introduction」
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ マッチング型セミナー室、
参加者：32名
- ・2015年10月19日 留学生対象交通安全集会
於：吹田キャンパス コンベンションセンター3階 MOホール、参加者：130名
- ・2015年10月30日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第2回目「日本で就職する
ということ / 情報収集及び企業・業界研究」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：35名

- ・2015年11月6日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第3回目「自己分析 キャリアデザイン」
於：豊中キャンパス ステューデントコモンズ カルチャ・ミュルチラウンド、
参加者：31名
- ・2015年11月16日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第4回目「エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策」
於：豊中キャンパス ステューデントコモンズ カルチャ・ミュルチラウンド、
参加者：23名
- ・2015年11月20日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第5回目「OB・OGによる体験談」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：20名
- ・2015年11月26日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第6回目「内定者による体験談」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：22名
- ・2015年12月1日 第72回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 大阪大学会館セミナー室2 参加者 14名
- ・2015年12月18日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6 発表者：8名
- ・2016年1月6日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第7回目「面接対策（1）」
於：豊中キャンパス ステューデントコモンズ カルチャ・ミュルチラウンド、
参加者：31名
- ・2016年1月18日 平成27年度外国人留学生のための就職対策講座 第8回目「面接対策（2）」
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：23名
- ・2016年1月21日 トビタテ！留学JAPAN 説明会
於：豊中キャンパス ステューデントコモンズ セミナー室1 参加者：11名
- ・2016年1月29日 留学ポートフォリオ説明会
於：吹田キャンパス 情報科学研究科A棟 講義室110 参加者：51名
- ・2016年2月3日 平成27年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会
第43回大阪大学留学生教育・支援協議会
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階阪急電鉄・三和銀行ホール
学内参加者：23名、学外参加者：63名、合計：86名
- ・2016年2月4日 第4回留学生交流・指導研究会（国立大学留学生指導研究協議会主催）
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階 会議室
学内参加者：3名、学外参加者：29名、合計：32名
- ・2016年2月12日 トビタテ！留学JAPAN 説明会
於：吹田キャンパス ICホール 4階会議室 参加者：6名
- ・2016年2月12日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
於：吹田キャンパス 医学部保健学科第1講義室 参加者：79名

- ・2016年2月12日 留学報告会
於：吹田キャンパス 医学部保健学科第2講義室 参加者：23名
- ・2016年2月16日 第9回 専門日本語教育研究協議会
於：吹田キャンパス ICホール講義室5・6、参加者：60名（学内35名・学外25名）
- ・2016年2月18日 第24回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階阪急電鉄・三和銀行ホール
学内参加者：29名、学外参加者125名、合計：154名
- ・2016年2月26日 研修会「多様な留学生を受け入れるにあたって～事例検討：自閉症スペクトラムの学生のケース～」
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室、参加者：23名
- ・2016年3月3日 第73回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者 15名
- ・2016年3月9日 第43回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：学内4名、学外16名、合計20名

○学外行事

- ・2015年7月27日 勉強会「Homestayを考える」（共催：JAFSA、ネクステージ）
於：中之島センター 参加者：27名
- ・2016年2月12日 第1回 CARES-Osakaシンポジウム「留学生のためのキャリア・サポートを考える」
(主催：CARES-Osaka、後援：アンザスインターナショナル、国際教育交換協議会(CIEE) 日本代表部、株式会社JTB西日本、公益財団法人日本漢字能力検定協会)
於：阪急ホテルインターナショナル 参加者：200名

2. 海外出張・海外研修

○海外出張

- ・2015年4月21日－4月29日 伊藤ゆかり准教授 イギリスのロンドンに出張
同年夏開催のRENKEI SUMMERプログラムの開発のために、University College Londonの関係者との会合を実施し、また、ロンドン市内で開催された欧州同窓会に出席するため
- ・2015年5月28日－5月30日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンに出張
NAFSAにおける大学広報および情報収集のため
- ・2015年7月8日－7月11日 魚崎典子特任准教授 台湾のHualienに出張
第15回 IEEE International Conference on Advanced Learning Technologiesでの口頭発表のため

- ・2015年8月1日－8月8日 伊藤ゆかり准教授 イギリスのロンドンに出張
University College London で開催された RENKEI SUMMER Program の運営補助および参加学生の支援のため
- ・2015年9月10日－9月13日 西村謙一准教授 カンボジアのプノンペンに出張
Asian Political and International Studies AssociationのAnnual Congress 2015 で研究発表を行うため
- ・2015年9月17日－9月23日 西口光一教授 ベトナムのホーチミンに出張
日本語教育国際シンポジウム（9月19日・20日）での講演と、ホーチミン市師範大学でのワークショップ実施のため
- ・2015年9月19日－9月26日 宮原啓造准教授 イタリア共和国のフィレンツェに出張
工学教育国際学会（WEEF/ICL2015）における研究発表および情報収集のため
- ・2015年10月17日－10月21日 西村謙一准教授 中華人民共和国の上海に出張
Eastern Regional Organization for Public Administration の 2015 Annual Conference で研究発表を行うため
- ・2015年10月28日－10月30日 宮原啓造准教授 大韓民国のソウルに出張
工学系国際学会（URAI 2015）における研究発表および情報収集のため
- ・2015年11月1日－11月4日 西村謙一准教授 フィリピンのカビテ州に出張
自治体の調査を行うため
- ・2015年11月1日－11月5日 宮原啓造准教授 中華人民共和国のマカオに出張
工学系国際学会（IEEE-Tencon 2015）における研究発表および情報収集のため
- ・2015年11月18日－11月23日 義永美央子准教授 米国のサンディエゴに出張
夏季短期日本語プログラム特任教員応募者の面接およびACTFL 2015への参加のため
- ・2015年11月19日－11月24日 西口光一教授 米国のサンディエゴに出張
American Association of Teachers of Japanese の Fall Conreference への参加および夏季短期日本語プログラム特任教員応募者の面接のため
- ・2015年12月10日－12月13日 宮原啓造准教授 中華人民共和国の珠海に出張
工学教育国際学会（IEEE-TALE2015）における研究発表および情報収集のため
- ・2016年1月14日－1月18日 伊藤ゆかり准教授 フィリピンのマニラに出張
East West Center 主催の EWC/ EWCA International Conference2016 に参加し、今後の国際共同研究のカウンターパートの情報収集を行うため
- ・2016年1月18日－1月22日 伊藤ゆかり准教授 香港に出張
サービスラーニングの先進的事例の視察およびキャリア支援を中心とした学生支援の状況の情報収集を行うため
- ・2016年2月16日－2月19日 近藤佐知彦教授 大韓民国のソウルに出張
漢陽大学において日韓学生会議プログラム学生引率と運営打ち合わせのため
- ・2016年3月16日－3月19日 村岡貴子教授 タイのバンコクに出張
科研による調査および会議のため

- ・2016年3月12日－3月18日 西村謙一准教授 アメリカ合衆国のカリフォルニア州バークレーに
出張
科研による会議のため
- ・2016年3月5日－3月13日 難波康治准教授、金孝卿特任准教授 オーストラリアのシドニーに
出張
オーストラリアの高等教育機関の語学教育体制の調査を行うため

3. 出版物・印刷物等（2015年5月から2016年3月まで）

No.	出版物のタイトル	発行年月
1	大阪大学国際教育交流センター 2014年度年報	2015年7月
2	2015年度〈秋学期〉留学生日本語プログラム履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2015 Fall Semester	2015年8月
3	平成27年度大阪府教育センター初任者研修における社会体験研修－実施報告書	2015年8月
4	OUSSEP Calendar 2016-2017	2016年1月
5	大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要	2016年2月
6	Coming to Osaka 改訂増刷	2016年2月
7	第9回専門日本語教育研究協議会報告書（web版）	2016年3月
8	大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書	2016年3月
9	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第20号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.20	2016年3月
10	2016年度留学生日本語プログラム履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2016	2016年3月

4. 来訪者対応

年月日	来訪者	センターからの対応者
2015年4月8日	レディング大学 Bruce Howell氏 (Director of ISLI Visiting Student Programme)	近藤教授、歳岡特任助教
2015年4月15日	カリフォルニア大学東京スタディセンター Miriam Wattles氏 (Director of the University of California Tokyo Study Center)	近藤教授、宮原准教授
2015年4月30日	コーネル大学 Ms Christine POTTER (Coordinator, International Exchange Program & Partnerships, College of Agriculture and Life Sciences)	近藤教授
2015年5月21日	Schwarzman Scholars Jessica Loh (Director, Outreach & Marketing, Institute of International Education - Southeast Asia)	近藤教授
2015年6月4日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Business Development General Manager)	近藤教授、歳岡特任助教

2015年6月26日	ライス大学 Ms. Sarah Phillips (Manager, TeraNano PIRE Education & International Initiatives, Rice University)	近藤教授
2015年10月9日	アーヘン工科大学 Ms Bettina Dinter (交換留学担当者)	近藤教授
2015年10月26日	ENSTA パリ先端技術大学院 Dr. (Ms.) Cécile Vigouroux (Deputy Director for International Relations, Office for International Relations and Corporate Partnerships)	近藤教授
2015年10月27日	リバプール大学国際課課長 Daniel Stephenson 氏 (Associate Director of International Recruitment, Relations & Study Abroad)	近藤教授、歳岡特任助教
2015年10月30日	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン Christopher Metzger 氏 (UCL Centre for Languages & International Education)	近藤教授、歳岡特任助教
2015年11月12日	上海交通大学 Ms. Shushu Li (Head of International Mobility Office, International Student Center) 他3名	近藤教授、宮原准教授
2015年11月17日	フランス大使館 ダヴィッド=アントアヌ マリナス氏 (大学交流担当官)	近藤教授
2015年11月26日	ヤンゴン大学 アウンミンウ教授 (副学長・ミャンマー語専攻長)	宮原准教授
2015年12月9日	リバプール大学英語学センター営業課長 Michelle Dwyer 氏 (Commercial and Quality Director of English Language Centre)	近藤教授、歳岡特任助教
2016年1月25日	タイ王国スワンクラーブ高校 GATE Program プログラム長・Mr. Witoon WONG-IN ほか教職員5名	村岡教授、大谷准教授
2016年3月7日 ～10日	Facilitate This Dawn Reeves 氏	伊藤准教授
2016年3月29日	レディング大学 Bruce Howell 氏 (Director of ISLI Visiting Student Programme)	歳岡特任助教

5. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたりしている。学習者はそのような学習をするだけでなく、その途上で気楽に自由に日本語で話すことができ、日本語力の向上に役立つ。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上のたいへん貴重な場となっている。

○ 吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成18年4月に発足した。会員数は、発足時が41名で、平成27年5月現在31名である。にほんごテーブルの参加者は

主としていちらう日本語プログラムに参加している外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も一部参加している。

吹田地区のほんごテーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、七夕飾り、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、ほんごテーブルは、外国人参加者の日本語学習・習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。又、平成27年9月に竹の子ほんご交流会のホームページが立ち上げられた。

他に、竹の子ほんご交流会のメンバー4名が社会人経験者として、春学期と秋学期のビジネス日本語（金孝卿准教授、水曜日2限）にビジターとして参加し、授業活動に協力した。参加期間は、2015年6月3日（水）～7月29日（水）と2016年1月6日（水）～2016年1月27日（水）である。

□ 実施状況

・期 間：春季

参加登録—平成27年4月28日（火）

平成27年5月12日（火）～7月28日（火）

※7月28日（火）は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋季

参加登録—平成27年10月20日（火）

平成27年10月27日（火）～平成28年2月2日（火）

※2月2日（火）は交流会として、カルタ会とお茶の会を実施した。

・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日 13時00分～14時30分

春季は12回、秋季は12回

・場 所：国際教育交流センター 第5・6教室

・平均参加者数：春季

外国人参加者：17人、日本人参加者：21人

秋季

外国人参加者：21人、日本人参加者：23人

□ 交流映画会

・平成27年8月4日（火） 13:00-15:00

『ALWAYS 三丁目の夕日』（山崎貴監督、2005年、東宝）

外国人参加者：6人、日本人参加者：18人

□ 竹の子ほんご交流会総会

・平成28年3月22日（火） 10:00-11:00

□ 研修会

・平成28年3月22日（火） 11:15-12:30

「自己表現活動中心の基礎日本語教育の実践－NEJの授業の実際」

西口 光一（大阪大学国際教育交流センター教授）

○ 豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、平成27年5月現在20名である。

□ 実施状況

・期 間：春季

参加登録—平成27年4月8日（水）

平成27年4月8日（水）—7月29日（水）

※7月8日（水）は交流会として、メンバーの林さんによる中華料理クラスとランチパーティーを実施した。

秋季

参加登録—秋は特に登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成27年10月7日（水）—平成28年2月3日（水）

※2月3日（水）は交流会として、ポットラックランチパーティーを実施した。

・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日 10時30分—12時00分

春季は15回、秋季も15回

・場 所：大阪大学国際交流会館 本館 ロビー

・平均参加者数：春季

外国人参加者：12人、日本人参加者：15人

秋季

外国人参加者：15人、日本人参加者：16人

□ マチカネにほんご交流会総会

・平成28年3月23日（水） 10：30-12：00

□ 研修会（竹の子にほんご交流会との合同による実施、吹田地区での日本語テーブル活動参照）

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム
(5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生
(4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育（学外） 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演会 11. 報道 12. その他

※ 以下の記載の 7 の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

▶ 有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

多文化コミュニケーション I/II-3

(3) 大学院

○ 春学期

生涯教育学特定演習 I (共同) 人間科学研究科

○ 秋学期

生涯教育学特定演習 II (共同) 人間科学研究科

(5) 国際交流科目

○ 秋学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○ 秋学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- 留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- 国際教育交流センター長
- 国際教育交流委員会（委員会の下の3つのWG等委員）
- キャンパスライフ支援センター運営委員会委員
- 施設マネジメント委員会委員
- ハウジング委員会委員
- 教育学習支援センター兼任教員
- ハラスメント相談室専門アドバイザー
- 国際教育交流センター人権・セクシュアルハラスメント対策委員会委員
- 総長選考会議委員
- 経営協議会委員（9月～）
- グローバル連携室室員（9月～）

7. 研究業績

(2) 著 書

- 大阪大学出版会からの助成を得て出版準備

(3) 口頭発表

- 有川友子、2015、「留学」－変化する高等教育の中で長期的観点から考える－」（単独ポスター）、異文化間教育学会第36回大会、平成27年6月6－7日（千葉大学）

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 代表幹事

9. 会議運営

- 平成27年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016年2月
- 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016年2月

12. その 他

- 平成27年度大阪大学FDフォーラム

研修 E「学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会」

「事例を通して考える留学生への対応とサポートについて」

平成27年9月7日（月）吹田地区：コンベンションセンター

平成27年9月8日（火）豊中地区：豊中総合学館

► 磯 野 英 治

1. 専門分野

日本語教育学、語用論、社会言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

専門日本語（吹田）・総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

○ 秋学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA200-1

○ 秋学期

総合日本語 JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

(7) その他

○ 夏季 J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2015年6月19日－8月13日までの9週間）のコーディネーションと期間中週2コマの授業担当

○ 夏季超短期プログラム（2015年8月3日－8月22日の3週間）のコーディネーター

○ 冬季 J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2015年12月7日－2016年1月29日）のコーディネーションと期間中週2コマの授業担当

○ 日韓共同理工系学部留学生予備教育科目「専門基礎日本語①」を後期週1コマ担当

4. 教育（学外）

- 桜美林大学大学院言語教育研究科 マルチメディア日本語教育研究（集中講義）

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 基盤研究（B）課題番号：26284072 平成26年度～平成30年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」（研究代表者：村岡貴子）、研究分担者

- 科学研究費補助金 基盤研究（B）（海外学術調査）課題番号：15H05158 平成27年度～平成30年

度「太平洋諸語日本語起源借用語逆引き辞典を作成するための現地調査研究」(研究代表者：ダニエルロング)、研究分担者

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号：15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」(研究代表者：難波 康治)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」、磯野英治、『日本語研究』第35号、pp.193-200、查読有
- 「2015年度短期日本語教育プログラムの実施と新たなプログラムの構築」、磯野英治・近藤佐知彦・宮原啓造、『大阪大学国際教育交流センター論集 多文化社会と留学生交流』第20号、pp.19-24、查読無
- 「2014年度超短期プログラム『アカデミック・ジャパニーズの基礎』の実践報告」、村岡貴子・磯野英治・花井理香・大平幸・上仲淳・村上康代・金孝卿、『大阪大学国際教育交流センター論集 多文化社会と留学生交流』第20号、pp.81-93、查読無

(3) 口頭発表等

- 「大阪日本橋における言語景観と街の成り立ちー電気とサブカルチャーの街の多言語化と地域的特徴についてー」、磯野英治・上仲淳・大平幸・田中真衣、2015年度日本語学会春季大会、2015年5月、関西学院大学、查読有
- 「ビデオ教材『東京の言語景観ー現在・未来ー』の制作と公開」、磯野英治・西郡仁朗、2015年度日本語教育学会春季大会、2015年5月、武蔵野大学、查読有
- 「パラオ人の日本語に見られる談話的特徴」、磯野英治、第4回アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える公開研究会、2015年10月、琉球大学、查読無
- 「パラオ人の日本語会話におけるターン交替の質的特徴についてーいかに会話を展開しているのかー」、磯野英治、第5回アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える公開研究会、2016年1月、首都大学東京、查読無

8. 学外運営

- 韓国日本語学会 理事
- 日本語教育学会 対話協力者
- 実践日本語コミュニケーション検定試験実施事業委員会 委員
- 実践日本語コミュニケーション検定プリッジ開発・第一回試験実施事業委員会 委員長

12. その他

- 第3回アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える公開研究会「ハワイの日本語の記録と分析」指定討論者

▶ 伊 藤 ゆかり

1. 専門分野

社会保障論、医療経済、キャリア教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
多文化コミュニケーション
- 秋学期
多文化コミュニケーション

(2) 大学院

- 春学期
未来共生社会貢献論 I
- 秋学期
未来共生社会貢献論 II

(5) 国際交流科目

- 春学期
Social Security and Service Design (社会保障とサービスデザイン)
- 秋学期
Social Entrepreneurship (社会起業)

3. 学生指導

- 留学生の相談対応 (IRIS)

5. 学内運営

- 国際教育交流センター評価 WG 委員
- 国際教育交流センター広報・出版委員
- 大阪大学学内留学生指導フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- 大阪大学全学フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- 省エネルギー推進会議担当
- 男女共同参画推進委員
- 人権・セクシュアルハラスメント対策委員
- RENKEI タスクフォースメンバー

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：26350044 「妊娠・出産の高年齢化の現状と課題—これらの出産を考える—」(研究代表者)

7. 研究業績

(1) 論 文

- ・「留学生による国際理解教育活動支援の考察—地域の学生と共に学びあう課外活動」、伊藤ゆかり、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第 20 号、pp.25-34、査読無

(2) 著 書

- ・『シンポジウムブックレット 出産リテラシーセミナーシリーズ 出産と明日の視点 Fertility Knowledge Literacy Seminar Series: Birth and Future Perspective』、伊藤ゆかり・三宅智子・深渡千鶴編著、国際教育交流センター、ISBN: 978-4-9908825-0-1

(3) 口頭発表

- ・「International Educational Program: A School Visitation by International Students」、Yukari ITO、International Association for Educational and Vocational Guidance International Conference 2015、国際学会、2015 年 9 月 18 日、於：つくば国際会議場、査読有

8. 学外運営

- ・宝塚市大型児童センター運営委員 2 期 5 年目 (2009 年～)
- ・財団法人人と防災未来センター リサーチフェロー (2005 年～)
- ・大阪市大正区保健師研究チーム「終の住処研究プロジェクト」リサーチアドバイザー (2015 年～)

9. 会議運営

- ・「シンポジウム 出産リテラシーセミナーシリーズ「出産と明日の視点」」、2015 年 10 月 14 日、於：大阪大学、シンポジウム企画運営
- ・RENKEI Intercultural workshop at UCL “Renaissance Entrepreneurship: Shaping a future of demographic change”、2015 年 8 月 1 日～14 日、於：University College of London、日英 12 大学間連携と産学連携を基盤としたプログラムのコーディネーター

10. 講 演 会

- ・「妊娠・出産の高齢化状況の考察」、2015 年 10 月 14 日、「シンポジウム 出産リテラシーセミナーシリーズ「出産と明日の視点」」、於：大阪大学

12. そ の 他

- ・大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016 年 2 月
- ・大阪大学ホストファミリープログラム (OHP) 「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 4 月、2015 年 10 月
- ・新規来日留学生への生活サポートコーディネート
- ・新規来日国費留学生研究訪問コーディネート

▶ 魚 崎 典 子

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○ 春学期

オンライン・リソースを活用した L2 学習

○ 秋学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- 就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田キャンパス）
- 留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- 海外派遣候補者選考 WG
- 国際教育交流センターホームページ改修 WG
- 大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- 大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- キャンパスライフ支援センター兼任教員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26350319 平成 26 年～28 年度「モバイルフォンを利用したシームレスな語学学習環境デザイン構築に関する研究と実践」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論 文

- 大学における外国人留学生の就職支援をめぐって—ラーニング・ログ・システムと SNS を活用したキャリア支援の提案—, 魚崎典子, 緒方広明, 毛利孝祐『留学生交流・指導研究』第 17 号、pp.59-71、2015 年、査読有
- How We Can Boost Up Outside-class Learning? : Effectiveness of Ubiquitous Learning Log System. Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, Kousuke Mouri, *International Journal of Mobile Learning and Organisation (IJMLO)*, vol.9, No.2, pp.160-181, 2015.07, 査読有
- Analysis of Ubiquitous Learning Logs Using Social Network Analysis, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki, *International Journal of Mobile Learning and Organisation (IJMLO)*, vol.9, No.2, pp.101-123, 2015. 査読有

- Analysis of Ubiquitous-Learning Logs Using Spatio-temporal Data Mining, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata and Noriko Uosaki, *The 15th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT2015)*, Hualien, Taiwan, pp.96-98, July 2015, 査読有
- Japanese Onomatopoeia Learning Support for International Students Using SCROLL, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, Kousuke Mouri and Erdenesaikhan LKhagvasuren, *Proceedings of the 23nd International Conference on Computers in Education (ICCE 2015)*, pp.329-338, 2015, 査読有
- Visualization and Analysis System for Connecting Relationships of Learning Logs, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata and Noriko Uosaki, *Proceedings of the 23nd International Conference on Computers in Education (ICCE 2015)*, pp.357-366, 2015, 査読有
- Recommendation Method in the Context of Real-world Language Learning, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata and Noriko Uosaki, *Workshop Proceedings of the 23nd International Conference on Computers in Education (ICCE 2015)*, pp.704-712, 2015, 査読有
- Supporting Real-world Language Learning Based on Ubiquitous Learning Analytics, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata and Noriko Uosaki, Doctoral Student Consortium (DSC) Proceedings of the 23nd International Conference on Computers in Education (ICCE 2015), pp.5-8, 2015, 査読有

(3) 口頭発表

- Career Support for International Students in Japan Using Ubiquitous Learning Log System, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, Kousuke Mouri, and Erdenesaikahan Lkhagvasuren, *Proceedings of The 15th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT2015)*, Hualien, Taiwan pp.78-82, 2015, 査読有
- Supporting JFL learners with User Customized Kanji Learning System Using Computer Graphics, N. Uosaki, K. Matsushita, H. Suzuki, *Proceedings of the 4th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments (LTLE2015)*, pp.264-267, 12-16 July 2015, 査読有

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2015) program committee member
- LTLE2014 (3th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016年2月

12. その他

- 2015 年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 10 月～2016 年 1 月（計 8 回）
- 「英語によるキャリア入門講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 6 月
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 4 月、10 月（計 4 回）
- 2015 年度秋学期新規渡日留学生対象「自転車に関する安全講習会」企画運営 2015 年 4 月、10 月（計 2 回）

▶ 大 谷 晋 也

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

○ 秋学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○ 春学期

言語文化教育論A／言語文化教育論（G）

○ 秋学期

言語文化教育論B／言語文化教育論（H）

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA600

○ 秋学期

総合日本語 JA600

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2 (留学生)

(2) 博士前期課程 3 (うち留学生は 2)

5. 学内運営

- 大学院言語文化研究科兼任教員
- 外国語学部教授会構成員
- 全学教育推進機構兼任教員
- 超域イノベーション博士課程プログラム担当教員
- 未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員
- 情報化推進会議委員

- 情報セキュリティ連絡会委員
- ODINS 運用部会委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26370607 平成 26 年度～平成 29 年度「EPA 看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者

7. 研究業績

- (1) 論 文
 - 「『わかりやすい日本語文書』を目指して ——病院文書の例を中心に——」、大谷晋也、応募、『インターナル・コミュニケーションの理論と実践』（くろしお出版）、2016 年 3 月
- (2) 編 書
 - 『源氏物語』（平安文学ライブラリー）、日本文学 Web 図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2015 年 10 月、Web 配信
 - 『インターナル・コミュニケーションの理論と実践』（くろしお出版）、三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也 編、2016 年 3 月

8. 学外運営

- 国・地方公共団体、医療事務連絡会（箕面市等） 委員
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

▶ 金 孝 卿

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

総合日本語

○ 秋学期

総合日本語

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

総合日本語 JB100 T-1

アカデミックライティング JW400

ビジネス日本語 BJ400500600

○ 秋学期

総合日本語 JB100 T-1

アカデミックライティング JW400

ビジネス日本語 BJ400500600

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA100

○ 秋学期

総合日本語 JA100

(6) インターナショナル・カレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

(7) その他

○ 韓国超短期プログラム、2015 韓国超短期プログラム（アカデミック・ジャパニーズの基礎）、2015 年 1 月 30 日 – 2 月 20 日までの 3 週間の期間中、2 回（2 コマ）の特別講義を担当した。

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「グローバル時代における日本語教育：プロセスとケースで学ぶビジネスコミュニケーション」、近藤彩・金孝卿、『NSJLE Proceedings 2012』、pp.104-115、2014 年 09 月、有

- 「日本語教育用リソース検索 web サイト「Classroom Resources」の開発 - オーストラリアの初中等教育におけるシドニー日本文化センターの日本語教育支援 - 」、大知春華・キャシージョナック・金孝卿、『国際交流基金日本語教育紀要』第 11 号、pp.141-154、2015 年 3 月、有

(2) 著 書

- 「『JF 日本語教育スタンダード』の韓国の日本語教育実践へのインパクト—学校教育における第二外国語としての日本語教育を中心に—」、金孝卿、『外国語教育VII グローバル時代の外国語教育』朝日出版社、pp.204-213、2015 年 02 月
- 「日本語教育から見た国際関係—全体討論」、金孝卿、『国際シンポジウム アジア・日本研究センター日本語教育から見た国際関係報告書 2014』国士館大学、pp.51-53、2015 年 02 月

(3) 口頭発表

- Renewal!! The Japan Foundation, Sydney 'Classroom Resources' Website., Ochi Haruka, Jonak Cathy, Kim Hyogyung、NSJLE 全豪日本語教育シンポジウム Proceedings、2014 年 08 月、於 : University of Technology, Sydney、有
- 「ケース教材を用いた実践トレーニングプログラムの開発 —ビジネスを巡る多様な視点から—」、近藤彩・品田潤子・池田玲子・藤原未雪・小笠恵美子・金孝卿、2014 年度日本語教育学会秋季大会(研究発表・ポスター発表)、2014 年 10 月、於 : 富山大学、有
- 「大学におけるビジネス日本語コミュニケーション教育の挑戦—持続可能な社会と個人の幸福を目指して—」、金孝卿、第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2015 年 02 月、於 : 大阪大学、無
- 「トンガにおける中等教育日本語シラバス及び教科書開発の実践—協働的開発プロセスから得たものー」第 8 回協働実践研究会、金孝卿・三浦香菜子、2015 年 02 月、於 : 早稲田大学、無

10. 講 演 会

- 「国士館大学アジア・日本文研究センター 日本語教育から見た国際関係 Symposium International Relations from the Perspective of Japanese Language Education」、全体討論、2014 年 08 月、於 : 国士館大学
- 「2014 年後期中等日本語教師職務研修、教育実践と「生教材・ウェブリソース」をどう結びつけるか—日本語教育を通じた 21 世紀型スキルの育成ー」国際文化フォーラム、2014 年 11 月、於 : 国際交流基金ソウル文化センター釜山日本語教育室
- 「二つ以上の言語で学ぶこと—多様な学習者・学び方と向き合うー」、静岡大学工学部教職員 事業開発マネジメント専攻学生及び OB・OG 対象 FD 「真のグローバル化の経験と知恵」、2015 年 01 月、於 : 静岡大学

▶ 近 藤 佐知彦

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

- 春学期；日本の社会とイデオロギー
- 秋学期；日本のメディアとコミュニケーション

(7) その他

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）春学期 80名

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）秋学期 79名

(6) その他

Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 11名

Winter Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 12名

Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)

06.19.-08.13. Summer Program 41名

07.17.-08.13. Mid-Summer Program 8名

12.07.-01.29. Winter Program 29名

阪神地区3大学連携「第四回日韓学生会議」21名（02.16.-02.25.）

慶熙大学校3、漢陽大学校6、関西大学3、関西学院大学4

於) ソウル漢陽大学校

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

5. 学内運営

G30 企画室兼任

全学教育推進機構兼任

グローバルアドミッションズオフィス兼任

学生交流プログラム検討ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP ワーキング座長

6. 研究業績

(2) 著 書

- 教科書, 「日本の近代化と教育制度」教育学入門: 30 のテーマで学ぶ、岡田昭人 (編), ミネルバ書房, ISBN, 4623072983, 2015 年 05 月
- 専門著書, 「18 章 多文化・異文化との共生—『共通認識』を育み、心の壁を取り払え—」共生学が創る世界, 河森正人・栗本英世・志水宏吉 (編), 大阪大学出版会, ISBN, 978-4-87259-542-0, 2016 年 03 月

7. 学外運営

大阪府国際化戦略実行委員会委員

(公財)大阪府国際交流財団理事

(公財)吹田市国際交流協会理事

住環境・就職支援東留学生の受入環境支援事業「CARES-Osaka」

阪大側運営委員

日本学生支援機構短期プログラム審査委員

官民協働「トビタテ！留学 Japan」学識者選考委員

(公財)業務スーパージャパンドリーム財団奨学金選考委員

留学生教育学会理事副会長

グローバル人材育成教育学会理事副会長

アゴラブリタニカ（イギリス研究会）副会長

8. 会議運営

01.29.

「グローバル人材育成教育学会関西支部会；『日本』という COMFORT ZONE から教員や学生を『引っ張り出す』ために」主宰。共催グローバル人材育成教育学会。

01.29.

「大阪大学留学ポートフォリオ」説明会 主催 大阪大学国際教育交流センター

12. その 他

2016/10 から(公財)英語検定協会および British Council Tokyo と連携して日本人学生と留学生がペアワークをする Project HELP! (Harmonized English Learning Program) を実施。2016 年度においてはマッチング実績 20 組

▶ 歳 岡 洋 香

1. 専門分野

日英・英日翻訳研究、レトリック・メタファーに関する認知言語学的研究、

2. 授業担当

(1) 国際交流科目

○ 春学期

言語と翻訳

○ 秋学期

翻訳と翻訳者たち

(2) 短期英語研修プログラム

○ 夏 季

エセックス大学語学研修プログラム

○ 春 季

モナシュ大学語学研修プログラム

5. 学内運営

- OUSSEP 運営 Sub WG
- 海外派遣候補者選考 WG

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「語り手によるメタファー操作とその効果—音楽に関する TED 講演の分析から—」、日本認知言語学会論文集、(15)、学術論文、無、pp.278-287
- 「留学生とのメンタリングによる英語学習支援の試み」大阪大学高等教育研究、(4)、教育実践レポート、有、pp.87-91

▶ 難波康治

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
専門日本語
- 秋学期
専門日本語

(2) 学際融合教育科目

- 春学期
上級日本語（アカデミックプレゼンテーション）
- 春学期
上級日本語（アカデミックプレゼンテーション）

(3) 大学院

- 春学期
応用マルチメディア論A
- 秋学期
応用マルチメディア論B

(5) 国際交流科目

- 春学期
総合日本語 JA500
- 秋学期
総合日本語 JA500

(6) インターナショナルカレッジ

- 春学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 503
- 秋学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 503

(7) その他

- 春学期
留学生日本語選択コース JP600/700) アカデミックプレゼンテーション)
- 秋学期
留学生日本語選択コース JP600/700) アカデミックプレゼンテーション)

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3 (うち留学生は 2)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は 2)

4. 教育（学外）

- 広島大学教育学部日本語教育系コース 「日本語学習とマルチメディア」（集中講義）

5. 学内運営

- インターナショナルカレッジ教務委員会
- 教育情報化 WG
- CALL システム WG
- 広報・出版委員会

7. 研究業績

(3) 口頭発表

- 「日本語オリジナルショートビデオを中心としたオンライン教材の開発 —『ミアンのチャレンジ日記 日本で仕事を探してみよう』を例として—」（共：簡佩鈴） 2016 年 3 月 15 日
第 14 回 e-Learning 教育学会 於：金沢大学

10. 講演会

- 「デジタル日本語学習支援のすゝめ」千葉大学国際教育センター日本語教育研修会 2014 年 11 月 22 日 於千葉大学国際教育センター
- 「日本語教育における ICT を活用した協同学習」日本語教育機関教員と留学生進学先教育機関の教育担当者との研究協議会 2015 年 2 月 7 日 於日本学生支援機構（JASSO）東京日本語教育センター

1. 専門分野

日本語教育学、言語心理学

2. 授業担当

(3) 大学院

○ 春学期

応用言語学研究A

言語文化教育論特別研究A

○ 秋学期

応用言語学研究B

言語文化教育論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 秋学期

文法講義 JG300/400

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA300-1

総合日本語 JA400-1

○ 秋学期

総合日本語 JA300-1

総合日本語 JA400-1

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

(7) その他

- 夏季 J-ShIP (ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2015年6月22日－8月12日までの9週間) のコーディネーション支援と、1クラスのコーディネーションと、期間中週1コマの授業担当
- 夏季 Mid Summer J-ShIP (2015年7月13日－8月12日) のコーディネーション
- 超短期プログラム (2015年8月3日－8月24日の3週間) のコーディネーション支援
- 総合日本語集中 JAcc300 (J-ShIP プログラム、2015年12月9日－2015年1月28日) のコーディネーション支援
- 中級日本語と防災 (超短期プログラム、2016年2月3日－2月22日) のコーディネーション支援

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 5 (うち留学生は 4)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は 1)
- (3) 研究生 2 (うち留学生は 2)

4. 教育（学外）

- 立命館大学言語情報教育研究科 日本語教育学VII (集中講義)
- 関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究 F (集中講義)
- 京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究III (集中講義)
- 沖縄国際大学地域文化研究科 日本語学特論 (集中講義)

5. 学内運営

- 評議委員会
- OUSSEP 運営サブ WG
- Maple 運営 サブ WG
- 日本語・日本文化研修留学生プログラム実施 WG
- 博士課程教育リーディングプログラム 未来共生イノベーター博士課程プログラム 兼任（選抜・審査ワーキング・グループのメンバー）

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「調和のある創造的で優れた教育を実践するための教育実践ガイドライン」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 20 号、実践報告、無、pp.63-73
- 「第二言語教育における言語と文化についての社会文化論的視点」『インターナル・カルチャラル・コミュニケーションの理論と実践』くろしお出版、学術論文、無、pp.205-21

(1) 著 書

- 『対話原理と第二言語の習得と教育 — 第二言語教育におけるバフチン的アプローチ』くろしお出版

(3) 口頭発表

- 「カリキュラムの革新と実践の創造 — 基礎と中級の教育を例として」、2015 年 5 月 29 日、第 30 回国立大学日本語教育研究協議会、於：一橋大学
- 「バフチンの対話原理」、2015 年 5 月 30 日、平成 27 年度日本語教育学会春季大会 パネルセッション 日本語教育における「対話」と対話原理、於：武藏野大学
- 「進んだ基礎日本語課程の企画と教材の企画」、2015 年 9 月 5 日、平成 27 年度第 6 回日本語教育学会研究集会、於：園田学園女子大学
- 「映画の中の社会的相互行為における社会的交通の進展 — セリフと吹き替えを素材とした対話論的な分析」、2016 年 3 月 12 日、平成 27 年度第 10 回日本語教育学会研究集会、於：桃山学院大学

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 大会委員
- 国立大学日本語教育研究協議会 理事（2014年6月から）

10. 講 演

- 「新しい基礎日本語教育の開発と実践 — 自己表現活動中心のマスター・テクスト・アプローチ」、2015年9月19日、日本語教育国際シンポジウム、ホーチミン市師範大学主催、於：ホーチミン市統一会堂
- 「『NEJ — テーマで学ぶ基礎日本語』そのねらいと指導法について」、2016年3月18日、新潟大学主催（「地（知）の拠点大学による地方創世推進事業」の教育の国際化事業）、於：クロスパルにいがた

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 秋学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー II

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

アカデミックリーディング（日本語）

○ 秋学期

アカデミックリーディング（日本語）

(3) 大学院

○ 春学期

言語文化政策論 A

○ 秋学期

言語文化政策論 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

○ 秋学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1 (うち留学生 1)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生 1)

(3) 日本語研修生 12

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 7

5. 学内運営

● 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討 WG（日本語科目コーディネーター）

● 人権問題委員会

● 吹田地区事業所安全衛生委員会

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究(A) 課題番号: 15H02600 平成 27 年度～平成 30 年度
「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号: 25283009 平成 25 年度～平成 27 年度「東南アジアの自治体エリートサーヴェイ分析—タイ、インドネシア、フィリピンの比較」(研究代表者: 永井史男)、研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号: 15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」(研究代表者: 難波康治)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「フィリピン地方自治体エリートサーヴェイ調査（1）」西村謙一・菊地端夫・小林盾・永井史男、『法学雑誌』第 61 卷第 3 号、無、715-758 頁
- 「フィリピン地方自治体エリートサーヴェイ調査（2）」西村謙一・菊地端夫・小林盾・永井史男、『法学雑誌』第 62 卷第 1 号、無、123-133 頁
- 「災害リスク軽減管理事業における地方政府のパフォーマンス：フィリピンのケース」西村謙一・小林盾、『多文化社会と留学生交流』第 20 号、無、9-17 頁

(3) 口頭発表

- “Does Political Dynasty Matter?: Relation between Family Background of Mayor and the Performance of Local Government in the Philippines”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, 2015 年度アジア政経学会全国大会, 2015 年 6 月 14 日, 立教大学.
- “Do the Family Background of Mayors Affect the Performance of Local Governments in the Philippines?”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, Asian Political and International Studies Association (APISA) Annual Congress 2015, September 11, 2016, Phnom Penh, Cambodia.
- 「フィリピンにおけるよい地方ガバナンスの決定要因」西村謙一・小林盾・菊地端夫, 2015 年度日本政治学会研究大会, 2015 年 10 月 11 日, 千葉大学.
- “Do the Mayors' Characteristics Affect the Performance of Local Governments in the Philippines?”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, Eastern Regional Organization for Public Administration (EROPA) 2015 Conference, October 19, 2016, Shanghai Administration Institute, China.
- “Do Mayor's Orientations Matter on Local Governance?: A Case Study in the Philippines”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) 2015 Conference, December 12, 2015, Kyoto International Conference Center.

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員、SGH 企画推進委員会委員長
- 大阪府立学校教員初任者研修

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当
- 国際教育交流センター省エネ担当

1. 専門分野

機械工学、留学生教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

- 多文化コミュニケーション（日本語），“Communication in Multicultural Contexts (Japanese)”

- 多文化コミュニケーションセミナー I, “Multicultural Communication Seminar I”

(3) 大学院

○ 春学期

- プロダクトデザイン, “Product Design”

○ 秋学期

- プロダクトデザイン, “Product Design”

(5) 国際交流科目

○ 春学期

- 数学とその工学応用 (I), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)”

○ 秋学期

- 数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

3. 学生指導

(1) 博士後期課程

- TA 1 名 (留学生)

(2) 博士前期課程

- TA 1 名 (留学生), RA 2 名 (留学生)

(4) 短期留学特別プログラム

- 国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)

- FrontierLab@OsakaU

- FrontierLab@OsakaU Summer Program

- Summer Japanese Short-stay In-session Program (Summer J-ShIP)

- Mid-Summer Japanese Short-stay In-session Program (MidSummer J-ShIP)

- Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention (Summer Short-term)

- Winter Japanese Short-stay In-session Program (Winter J-ShIP)

- Spring Intensive Program Japanese Language (Fundamental Academic Japanese: Spring Short-term)

4. 教育（学外）

- 神戸大学農学部非常勤講師

5. 学内運営

- ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- 国際交流委員会 海外派遣候補者選考ワーキンググループ 委員
- 国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営サブワーキンググループ 委員
- FrontierLab@OsakaU 運営企画会議 委員
- FrontierLab@OsakaU 運営サブワーキンググループ 委員／コーディネータ
- 国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- 大学院工学研究科兼任教員
- 国際教育交流センター広報出版委員会 委員
- 国際教育交流センター将来計画および評価に関する原案の作成を行うワーキンググループ 委員
- 国際教育交流センター研究倫理教育 実施副責任者
- 国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- 国際教育交流センター研究会 実行委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「国際交流に係る学生支援方針の研究 — 統合支援システムを用いた実証試験 —」（平成 26 – 28 年度）

7. 研究業績

(1) 論 文

- Miyahara, Keizo, "Engineering Education in Non-Native Language -Malaysia/Japan Twinning Program" Advanced Science, Engineering and Medicine, American Scientific Publishers, Vol.7, No.7, pp.543-549, July 2015.
- 宮原啓造「短期留学生向け『理工学研究プログラム』の開発」大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 第 20 号, 2016.3.
- 磯野英治, 近藤佐知彦, 宮原啓造「2015 年度短期日本語教育プログラムの実施と新たなプログラムの構築」大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 第 20 号, 2016.3.

(3) 口頭発表

- MIYAHARA, Keizo and TANAKA, Toshihiro, "Attractive Engineering Research Program for International Exchange Students," Proceedings of 2015 International Conference on Interactive Collaborative Learning (ICL 2015), 1G-3, September 20-24, 2015, Italy, 査読有
- MIYAHARA, Keizo, "Discrete Coordinate System with Isotropy for Robotic Applications," Proceedings of The 12th International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2015), pp.49-52, October 28-30, 2015, Korea, 査読有.
- MIYAHARA, Keizo, Eduardo CASTELLO FERRER, and Photchara RATSAMEE, "Discrete Coordinate System with Isotropy on a Surface with Regular Tessellations," Proceedings of

the International technical conference of IEEE Region 10 (IEEE TENCON 2015), #796, November 1-4, 2015, China, 査読有.

- MIYAHARA Keizo, TOSHIOKA Saeka, and KONDO Sachihiko, “ICT Systems for Student Mobility Programs in Tertiary Education,” Proceeding of the IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering (IEEE TALE), pp.63-66, December 10-12, 2015, China, 査読有.

8. 学外運営

- 応用物理学会 論文誌 Applied Physics Express (APEX), Japanese Journal of Applied Physics (JJAP) 登録閲覧者.
- International Journal of Advanced Robotic Systems 査読者.

12. その他

- 宮原啓造, 田中敏宏, “FrontierLab@OsakaU サマープログラムのご紹介”, 生産と技術, 生産技術振興協会, Vol.68, No.1, pp.88-91, 2016.1.

▶ 村 岡 貴 子

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
専門日本語
- 秋学期
専門日本語

(2) 大学院

- 春学期
言語技術特殊研究 A
言語コミュニケーション論特別研究 A
- 秋学期
言語技術特殊研究 B
言語コミュニケーション論特別研究 B

(3) 留学生日本語プログラム

- 春学期
日本語集中（研修）コース IJ200（読解）
選択コース JW600/700（アカデミックライティング）
- 秋学期
日本語集中（研修）コース IJ200（読解）
日本語集中（研修）コース IJ300（研究計画書を書く）
選択コース JW600/700（アカデミックライティング）

(6) その他

- 学際融合教育科目
前期「上級専門日本語 アカデミックライティング A」
後期「上級専門日本語 アカデミックライティング B」

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 4
- (2) 博士前期課程 2（うち留学生は 1）
- (3) 日本語研修生 14
- (4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 7

5. 学内運営

- 教育課程委員会委員
- 全学教育推進機構兼任教員、企画開発部・言語教育部門、日本語教育セクション長
- 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討ワーキング座長
- コミュニケーションデザイン・センター兼任教員
- 国際教育交流センター副センター長
- 国際教育交流センター教務委員会委員長
- 国際教育交流センター財務委員会委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号: 26284072 平成 26 年度～平成 29 年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究挑戦的萌芽研究 課題番号: 25580113 平成 25 年度～平成 27 年度「海外の大学教員との連携を目指す協働的日本語ライティング教育開発のための調査研究」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号: 15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、(研究代表者: 難波康治)、研究分担者
- 科学研究費補助金特定領域研究(A) 課題番号: 23320107 平成 27 年度～平成 30 年度「読解パスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」(研究代表者: 野田尚史)、連携研究者

7. 研究業績

(1) 論 文

- 「国内外の大学教員が語る日本語アカデミック・ライティング教育への期待と課題－自身の学習・研究・教育の経験から－」、村岡貴子・因京子 (2015) 『専門日本語教育研究』第 17 号、pp.35-40、查読有
- 「2014 年度超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」の実践報告」、村岡貴子・磯野英治・花井理香・大平幸・上仲淳・村上康代・金孝卿、『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第 20 号、pp.81-93、査読無

(2) 著 書

- 「大学に在籍する留学生への日本語 AW 教育の再考－来日前日本語教育との接続および社会への橋渡しを視野に－」、村岡貴子 (2016)、三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也編『インターナル・コミュニケーションの理論と実践』、くろしお出版、pp.239-256

(3) 口頭発表

- 「中国の大学における協働的日本語アカデミック・ライティング学習の可能性－華南師範大学における教育実践に基づいて－」『第 18 回専門日本語教育学会研究討論会誌』、劉偉・村岡貴子、2016 年 3 月 4 日、於: 京都産業大学、査読有

8. 学外運営

- 日本語教育学会調査研究推進委員会委員、2015年6月～
- 日本語教育学会学会誌委員会査読協力者、2015年7月～
- 専門日本語教育学会代表幹事、2015年3月～
- 専門日本語教育学会第18回研究討論会実行委員会委員、2015年3月～2016年3月

9. 会議運営

- 第18回専門日本語教育学会研究討論会およびシンポジウム「海外の大学の日本語教育と人材育成に資する専門日本語教育とは」、企画運営、専門日本語教育学会、2016年3月、於：京都産業大学

10. 講演会

- 「アカデミック・ライティングの視点から見た大学における専門日本語教育」、名古屋大学アジア法交流館落成記念国際シンポジウム第1セッション：日本法教育研究センターにおける法学と日本語教育学の多元複層的なアーティキュレーション、2016年3月9日、於：名古屋大学
- 「専門日本語教育に関するワークショップ」、名古屋大学日本法教育研究センター現地講師研修での講義とワークショップ、2016年3月11-12日、於：名古屋大学

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当

► 義 永 美央子

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

上級専門日本語 アカデミック・コミュニケーション A

○ 秋学期

上級専門日本語 アカデミック・コミュニケーション B

(3) 大学院

○ 春学期

言語コミュニケーション論 A

○ 秋学期

言語コミュニケーション論 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語集中(研修)コース IJ100 (コーディネーターおよび授業担当)

日本語集中(研修)コース IJ150 (コーディネーターおよび授業担当)

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

○ 秋学期

日本語集中(研修)コース IJ100 (コーディネーターおよび授業担当)

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3 (うち留学生は 1)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 1)

(3) 日本語研修生 33

(4) 研究生 1 (うち留学生は 1)

5. 学内運営

- 大学院言語文化研究科兼任教員
- キャンパスライフ支援センター兼任教員 (2015 年 5 月まで)
- 学生活委員会委員
- 国際教育交流センター教務委員会委員
- 国際教育交流センター評価 WG 委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号: 25370589 平成25年度～平成27年度「日本語教育学研究の体系化および方法論の確立」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 15K02639 平成27年度～平成29年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論 文

- 義永美央子 (2016) 「日本語教育に関する談話研究の現状と展望—学会誌『日本語教育』掲載論文の分析から—」三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也 (編著) 『インターナル・コミュニケーションの理論と実践』くろしお出版, pp.221-238.
- 義永美央子 (2015) 「第二言語教育における言語運用能力の評価の変遷」『第二言語としての日本語の習得研究』第18号, pp.11-31. (招待・査読有)
- 中橋真穂・潘英峰・義永美央子 (2015) 「中学生は他国をどう見ているのか—日本・中国・米国の中学生に対するアンケート調査結果報告—」『国際理解教育』21号, pp.71-76. (調査報告・査読有)

(2) 著 書

- 三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也 (編著) (2016) 『インターナル・コミュニケーションの理論と実践』くろしお出版

8. 学外運営

- 日本語教育学会大会委員
- 日本語教育学会査読協力者
- 社会言語科学会査読協力者
- 言語文化教育研究学会査読協力者
- 第二言語習得研究会査読協力者

10. 講 演 会

- 義永美央子 (2016) 「日本語教師の「つなぐ」役割—複数の文脈を横断する学習者の支援を考える—」アカデミック・ジャパンーズ・グループ研究会 (AJG) 第38回研究会 (招待講演およびワークショップの実施) 2016年2月、於東京海洋大学

12. そ の 他

- 平成27年度研究大学強化促進事業による大阪大学若手教員等ホームページ作成支援事業に採択され、個人ウェブサイトを開設した。
<http://mioko-yoshinaga.jpn.org>
- 科研費基盤研究(C)の研究成果公開のために、ウェブサイトを開設した。
<http://nkg-arukikata.jpn.org>

資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2015年度 時間割

春学期・吹田キャンパス

: 専門日本語 : 一般日本語

: 國際交流科目、 : 共通教育科目 (単位取得可能科目)

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
I 8:50 ~ 10:20	1			JB100-T1-1 総合日本語	田中	IJ100	義永			★JA200-T2 総合日本語	上仲
	2			JB100-T2-1 総合日本語	岡田					★JA400-T2 総合日本語	浦木
	3									★JA500-T2 総合日本語	滝井
	4									★JA600-T2 総合日本語	岡崎
	5			JB200-1 総合日本語	山崎	JK201	漢字と語彙 (非漢字系)	TA 陳		★JA100-T2 総合日本語	櫻井
	6			JB300-1 総合日本語	小原	JK202/302 (漢字と語彙 (非漢字系))	TA 王	J301 漢字と語彙 (非漢字系)	陳	★JA300-T2 総合日本語	矢部
II 10:30 ~ 12:00	1					IJ100	菅			JB100-T1-2 総合日本語	矢部
	2			IJ200 福良	山崎	IJ200	村上	IJ200	村岡	IJ200	山崎
	3				滑川	IJ300	西村	IJ300	野々口	JB300-2 総合日本語	梅本
	4					IJ150	義永			JB100-T2-2 総合日本語	竹内
	5			JC400/500 コミュニケーション	岡田	BJ500/600/700 ビジネス日本語 講義	金	チュートリアル (漢字と語彙)	IJ100/150 (漢字と語彙)	JB200-2 総合日本語	滑川
	6	チュートリアル (漢字と語彙)	藤原	新庄	松下	TA 松下	久保田	チュートリアル (漢字と語彙)	IJ100/150 (漢字と語彙)	TA 武蔵 (漢字と語彙)	
III 13:00 ~ 14:30	1	IJ100	福良	IJ100	山崎	IJ100	菅	IJ100	蔭山	IJ100	浦木
	2	IJ200		IJ200	山崎	チュートリアル	IJ200	TA 陳	IJ200	小原	山崎
	3	チュートリアル	柳	IJ300	滑川	IJ300	西村	IJ300	野々口	IJ300	滑川
	4	IJ150	蔭山	IJ150	浦木	IJ150	畠中	IJ150	花井	IJ150	梅本
	5										
	6					JG300/400 文法講義	新庄				
IV 14:40 ~ 16:10	1	IJ100	新庄	IJ100	滝井			IJ100	蔭山	IJ100	浦木
	2							JP400/500 アカデミック プロジェクト	IJ200	小原	
	3							金			
	4	IJ150	蔭山	IJ150	浦木	IJ150	畠中	IJ150	花井	IJ150	梅本
	5	JG600/700 アカデミック プロジェクト	義永	JW400/500 アカデミック プロジェクト	金						
	6										
V 16:20 ~ 17:50	1										
	2	★共通 教育	専門日本語	磯野							
	3	JR600/700 アカデミック プロジェクト	西村	JW600/700 アカデミック プロジェクト	村岡						

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業
I 8:50 ~ 10:20	★★JA100 -T1/T2 総合日本語 (講義)	金 全学教育 C304	★★JA100 -T1 総合日本語	岡田 全学教育 C205	★★JA200 -T1 総合日本語	上仲 全学教育 A103	★★JA100 -T1 総合日本語	花井 全学教育 C107	★★JA200 -T1 総合日本語	花井 全学教育 B205
	J★JA300 -T1 総合日本語	磯野 文法経 本館4階 464講	★★JA300 -T1 総合日本語	★★JA300 -T1 総合日本語	J★JA400 -T1 総合日本語	花井 全学教育 A312	★★JA200 -T1 総合日本語	岡崎 全学教育 B204	★★JA200 -T1 総合日本語	櫻井 基礎工学部 B203
	★JA400 -T1/T2 総合日本語 (講義)	岡崎 西口	★★JA500 -T1 総合日本語	藤澤 全学教育 C208	★★JA600 -T1 総合日本語	田中 全学教育 B306	★★JA300 -T1/T2 (講義)	岡崎 全学教育 B204	★★JA300 -T1 総合日本語	岡崎 基礎工学部 B203
	★JA500 -T2 総合日本語 (講義)	滝井 全学教育 C408	★★JA500 -T2 総合日本語	★★JA600 -T1 総合日本語	★★JA400 -T2 総合日本語	滝井 全学教育 B202	★★JA400 -T2 総合日本語	新庄 文法経 講義棟5 基礎工学部 B202	★★JA400 -T2 総合日本語	新庄 文法経 講義棟5 基礎工学部 B202
	★JA600 -T1/T2 総合日本語 (講義)	大谷 全学教育 A114	★★JA600 -T1 総合日本語	★★JA600 -T1 総合日本語	★★JA600 -T1 総合日本語	大谷 全学教育 A114	★★JA500 -T1/T2 (講義)	難波 全学教育 C107	★★JA600 -T1 総合日本語	難波 文法経 講義棟3 基礎工学部 B202
							★★JA600 -T2 総合日本語 (創)	小原 全学教育 A313	★★JA600 -T2 総合日本語 (創)	小原 全学教育 A313
II	10:30 ~ 12:00									
III	13:00 ~ 14:30									
IV	14:40 ~ 16:10									
V	★★専門日本語 難波 全学教育 A212	★★総合日本語 伊藤 (ゆ)	★★専門日本語 大谷 全学教育 C207	★★専門日本語 宮原 多文化コミュニケーション A312	★★総合日本語 機野 多文化コミュニケーション C207	★★総合日本語 機野 多文化コミュニケーション CELAS B307	★★総合日本語 磯野 多文化コミュニケーション 有川 多文化コミュニケーション B307	★★総合日本語 磯野 多文化コミュニケーション CELAS B307	★★総合日本語 磯野 多文化コミュニケーション 有川 多文化コミュニケーション B307	★★総合日本語 磯野 多文化コミュニケーション CELAS B307

• CELAS: Center for Education in Liberal Arts and Sciences (全学教育)
 • LLFB: Letters, Law and Economics Building
 • GLEB: Graduate School of Law and Graduate School of Economics/Research Building
 • FEB: Faculty of Engineering Science (基礎工学部)

★国際交流科目、★★共通教育科目（単位取得可能科目）

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
I 8:50 ~ 10:20	1			JB100-T1-1 総合日本語	田中 義永	IJ100				★JA200-T2 総合日本語	上仲
	2			JB100-T2-1 総合日本語	岡田					★JA400-T2 総合日本語	浦木
	3			JB200-1 総合日本語	山崎	JK201 漢字と語彙 (非漢字系)	TA 陳			★JA500-T2 総合日本語	滝井
	4			JB300-T1-1 総合日本語	小原	KOSMOS 日本語① 漢字と語彙 (漢字系)	村上 TA 王	JK301 漢字と語彙 (非漢字系)	TA 陳	★JA600-T2 総合日本語	岡崎
	5			JB300-T2-1 総合日本語	滑川	JG300/400 文法講義	西口			★JA100-T2 総合日本語	櫻井
	6									★JA300-T2 総合日本語	矢部
II 10:30 ~ 12:00	1									TA (漢字と語彙集)	久保田
	2	IJ200	福良	IJ200	山崎	チュートリアル	IJ200	TA 菅	IJ200	村岡	山崎
	3	学期後半 のみ	IJ300	村岡			IJ300		IJ300	野々口	矢部
	4	専門基礎 日本語①	KOSMOS	蔭山	日本語②	KOSMOS	村上	義永	JB100-T1-2 専門基礎 日本語③	KOSMOS	上仲
	5	国際交流科目	歳岡	JG400/500 コミュニケーション	岡田	IJ100 TA (漢字と語彙)	BJ500/600/ 松下	BJ700 コミュニケーション	IJ100 TA (漢字と語彙)	JB100-T2-2 専門基礎 日本語	竹内
	6	チュートリアル (漢字と語彙)	田中	チュートリアル (漢字と語彙)						JB200-2 武藤	畠中
III 13:00 ~ 14:30	八科本館 人科本館 44講義室									JB300-T1-2 総合日本語	梅本
	1									JB300-T2-2 総合日本語	滑川
	2	IJ200	福良	IJ200	山崎		IJ200		IJ200	小原	山崎
	3	IJ300	西村	IJ300	菅		IJ300		IJ300	野々口	山崎
	4	専門教科 物理	KOSMOS	寺井		KOSMOS	ホーマーク			チュートリアル 専門基礎 日本語④	TA 柳
	5	国際交流科目	西口								上仲
IV 14:40 ~ 16:10	6	IJ100	蔭山			IJ100	花井	IJ100	花井	IJ100	浦木
	1										
	2										
	3										
	4	専門教科 物理	KOSMOS	寺井		JP400/500 アカデミック	金	IJ200	小原		
	5	JG600/700 コミュニケーション	義永			JP600/700 アカデミック	難波			専門基礎 日本語⑤	KOSMOS
V 16:20 ~ 17:50	6	IJ100	蔭山	JP400/500 アカデミック	金			IJ100	花井	IJ100	浦木
	1										
	2										
	3										
VI 18:00 ~ 19:30	4	専門教科 英語	KOSMOS	前川							
	5	JR600/700 アカデミック	西村	JM600/700 アカデミック	村岡						
	6	JR600/700 アカデミック									

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業	担当	講義室	授業
I 8:50 ~ 10:20	★★JA100 -T1/T2	総合日本語 (講義)	金 全学教育 C304	★JA100 -T1	総合日本語	岡田 全学教育 C405	★JA100 -T1	総合日本語	花井 全学教育 A203	全学教育 A203
	★★JA200 -T1/T2	総合日本語 (講義)	磯野 全学教育 C305	★JA200 -T1	総合日本語	上仲 全学教育 A103	★JA200 -T2	総合日本語	櫻井 全学教育 C204	全学教育 C204
	★JA300 -T1	総合日本語	畠中 法経 講義棟 L2	★JA300 -T1	総合日本語	花井 全学教育 A204	★JA200 -T1	総合日本語	滝井 基礎工学部 B105	基礎工学部 B105
	★JA300 -T2	総合日本語	岡崎 文法経 本館4階 404講	★JA400 -T1	総合日本語	新庄 全学教育 A312	★JA200 -T2	総合日本語	岡崎 基礎工学部 B302	基礎工学部 B302
	★JA400 -T1/T2	総合日本語 (講義)	西口 全学教育 C203	★JA500 -T1	総合日本語	藤澤 全学教育 A208	★JA300 -T1/T2	総合日本語 (講義)	西口 文法経 講義棟 L2	文法経 講義棟 L2
	★JA500 -T1	総合日本語	菅 文法経 講義棟32 文法経 本館4階 461講	★JA600 -T1	総合日本語	田中 全学教育 B306	★JA400 -T1	総合日本語	新庄 全学教育 A313	新庄 全学教育 A313
	★JA500 -T2	総合日本語	滝井 全学教育 C404				★JA400 -T2	総合日本語	蔭山 全学教育 C404	蔭山 全学教育 C404
	★JA600 -T1/T2	総合日本語 (講義)	大谷 全学教育 C404				★JA500 -T1/T2	総合日本語 (講義)	難波 文法経 講義棟 32	難波 文法経 講義棟 32
							★JA600 -T1	総合日本語	小原 全学教育 A313	小原 全学教育 A313
							★JA600 -T2	総合日本語	伊藤 全学教育 C107	伊藤 全学教育 C107
II 10:30 ~ 12:00	専門教科 化学	KOSMOS	立光 演習室	213			日本事情・ 異文化適応	KOSMOS	蔭山 全学教育 C204	蔭山 全学教育 C204
	専門教科 化学	KOSMOS	立光	全学教育 C-S4				KOSMOS		
III 13:00 ~ 14:30	専門教科 数学	KOSMOS	立光	全学教育 C-S4			専門教科 数学	KOSMOS	鹿間 全学教育 C-S4	鹿間 全学教育 C-S4
	専門教科 数学	KOSMOS	宮田	全学教育 C-S4			専門基礎 日本語②	KOSMOS	磯野 全学教育 C-S4	磯野 全学教育 C-S4
IV 14:40 ~ 16:10	専門教科 数学	KOSMOS	立光	全学教育 C-S4						
	★★専門日本語 難波	全学教育 A212	★★総合日本語	大谷 全学教育 C207	★★専門日本語	村岡 全学教育 C405	★★総合日本語	金 全学教育 C205	全学教育 C205	全学教育 C205
V 16:20 ~ 17:50	★★専門日本語 難波	全学教育 A312	★★総合日本語	大谷 全学教育 C203	★★多文化コミュニケーション	村岡 全学教育 C207	★★総合日本語	金 全学教育 C207	全学教育 C207	全学教育 C207
	多文化コミュニケーション 難波	伊藤 全学教育 C307	★★多文化コミュニケーション	西村 多文化コミュニケーション B307	★★多文化コミュニケーション	磯野 多文化コミュニケーション B307	★★総合日本語	磯野 全学教育 C307	磯野 全学教育 C307	磯野 全学教育 C307

資料2 2015年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧

2-1 春学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研究科 / 学部	総計	身 分 別 内 訳				
		学部学生	大学院生 ^{*3}	研究生 ^{*1}	特別 研究学生 ^{*2}	特別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	7	2		2	1	2
人間科学研究科	4		2			2
法学研究科/法学部	7	3	2			2
経済学研究科/経済学部	5	3		2		
理学研究科/理学部	9	1	8			
医学系研究科/医学部	10	1	8	1		
薬学研究科/薬学部	3	1	2			
工学研究科/工学部	64	5	49	2	2	6
基礎工学研究科/基礎工学部	6	1	5			
言語文化研究科	10			10		
国際公共政策研究科	5			5		
情報科学研究科	7		3	4		
生命機能研究科	3		3			
産業科学研究所	4			4		
蛋白質研究所	1			1		
接合科学研究所	1			1		
微生物病研究所	1			1		
核物理研究センター	1			1		
計 ^{*4}	148	17	82	34	3	12

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。

研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生13名は、所属部局欄に記載されている。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLab のほか、iExpo の学生が含まれる。

*3. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まれない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 �chio レ ベ ル	総計	身 分 別 内 訳				
		学部学生	大学院生	研究 生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	21	1	10	5	2	3
200	36	3	26	6		1
300	40	5	30	5		
400	14	2	6	6		
500	11		3	3		5
600	11	3		7	1	
(超上級レベル) 700	15	3	7*	2		3
計	148	17	82	34	3	12

* : 大学院生の「(超上級レベル) 700」の7名は「学際融合教育科目」として履修登録。

2-2 秋学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研究科 / 学部	総計	身 分 別 内 訳				
		学部学生	大学院生	研究生 ^{*1}	特別 研究学生 ^{*2}	特別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	4	1		2		1
人間科学研究科/人間科学部	13	9	3		1	
法学研究科/法学部	4	1	2	1		
経済学研究科/経済学部	7	5		2		
理学研究科	8		7			1
医学系研究科/医学部	24	7	6	11		
歯学部/歯学研究科	2	1	1			
薬学部	2	2				
工学研究科/工学部	79	19	53	4		3
基礎工学研究科/基礎工学部	3			3		
言語文化研究科	12			12		
国際公共政策研究科	8			8		
情報科学研究科	13		3	9		1
生命機能研究科	2		1	1		
産業科学研究所	5			5		
蛋白質研究所	1				1	
接合科学研究所	2			2		
微生物病研究所	3			3		
核物理研究センター	1			1		
サイバーメディアセンター	1			1		
計 ^{*4}	194	45	76	65	2	6

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。

研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生 12 名は、所属部局欄に記載されている。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLab のほか、iExpo の学生が含まれる。

*3. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まれない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第 2 外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 �chio レ ベ ル	総計	身 分 別 内 訳				
		学部学生	大学院生	研究 生	特別 研究学生	特別 聴講学生
(未習) 100	34	1	27	3	1	2
200	34	2	19	13		
300	36	9	10	16		1
400	22	6	6	9		1
500	14	4	2	8		
600	30	13	4	12	1	
(超上級レベル) 700	24	10	8*	4		2
計	194	45	77	65	2	6

* : 大学院生の「(超上級レベル) 700」の 8 名は「学際融合教育科目」として履修登録。

資料3－1 国際交流科目 時間割 (平成27年春学期)

時限	時間	月	火	水	木	金			
		吹田キャンパス	豊中キャンパス/吹田キャンパス	豊中キャンパス/吹田キャンパス	豊中キャンパス	吹田キャンパス/箕面キャンパス			
			日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 200-1, 300-1, 400-1, 500-1, 600-1) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-2, 200-2, 300-2, 400-2, 500-2, 600-2) 《国際教育交流センター》			
I	8:50 10:20		100 : 金 孝卿 200 : 磯野 英治 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 西口 光一 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也	100-1 : 岡田亜矢子 200-1 : 上仲 淳 300-1 : 花井 理香 400-1 : 新庄あいみ 500-1 : 藤澤 好恵 600-1 : 田中 真衣	100-1 : 花井 理香 100-2 : 櫻井 千穂 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 岡崎 洋三 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 薩山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創	100-2 : 櫻井 千穂 200-2 : 上仲 淳 300-2 : 矢部 正人 400-2 : 浦木 貴和 500-2 : 滝井 未来 600-2 : 岡崎 洋三			
			100 : 全学教育 C304 200 : 全学教育 C305 300-1 : 文法経本館 4階464講 300-2 : 全学教育 C409 400 : 全学教育 A214 500-1 : 文法経講義棟32 500-2 : 全学教育 C408 600 : 全学教育 A114	100-1 : 全学教育 C205 200-1 : 全学教育 A103 300-1 : 全学教育 C107 400-1 : 全学教育 A312 400-1 : 全学教育 A208 500-1 : 全学教育 B306	100-1 : 全学教育 C204 100-2 : 全学教育 A203 200-1 : 基礎工学部 B205 200-2 : 基礎工学部 B204 300 : 法經研究棟 L2 400-1 : 文法経講義棟演5 400-2 : 基礎工学部 B202 500 : 文法経講義棟32 600-1 : 全学教育 C107 600-2 : 全学教育 A313	100-2 : IC Hall Room 5 200-2 : IC Hall Room 1 300-2 : IC Hall Room 6 400-2 : IC Hall Room 2 500-2 : IC Hall Room 4 600-2 : IC Hall Room 3			
II	10:30 12:00	我が国の保健サービスと 医療ケア 《医学部》	身の回りの 高分子 《理学部》	人類学 I 《人間科学部》	社会の中の自己 《人間科学部》	近代日本文学 における大阪 《言語文化 研究科》	比較法の 諸問題 《法学部》	多文化共生論 《人間科学部》	
		祖父江友孝	今田 勝巳	MOHACSI GERGELY	Don BYSOUTH	村上 スミス・ アンドリュー	ペドリサ・ ルイス	Viktoriya KIM	
		IC Hall Room 5	理学部 G103 塩見記念室	SCセミナー室 1	全学教育 C107	全学教育 B206	文法経講義棟 23番	人間科学部本館32	
III	13:00 14:30	数学とその 工学応用(I) 《国際教育交流 センター》	比較社会学 《人間科学部》	情報通信技 術の最前線 《工学部》	日本の 社会階層 《人間科学部》	国際協力学 I 《人間科学部》	芸術と脳科学の インターフェイス —文理融合 アプローチの実践 《文学研究科》	基本的人権論 《人間科学部》	異文化理解演習 《外国語学部》
		宮原 啓造	Scott NORTH	北山 研一	安元 佐織	中村 安秀	好井 千代	Christie LAM	堀川 智也
		全学教育 C106	人間科学部 本館32	IC Hall Room 5	人間科学部 本館41	人間科学部 東館 404号室	文法経 本館4階 464講	全学教育 C107	外国語学部 A208
		日本法の諸問題 《法学部》		政治学 I 《人間科学部》	日本社会に おける法律 のしくみ 《人間科学部》		社会保障と サービスデザイン 《国際教育交流 センター》		
		ペドリサ・ ルイス		佐藤 治子	Viktoriya KIM		伊藤ゆかり		
		文法経 講義棟23		国際公共 政策研究科 演習室B	人間科学部 本館32		全学教育 A312		
IV	14:40 16:10	言語と翻訳 《国際教育交流センター》	オンライン・リソースを 活用したL2学習 《国際教育交流センター》			家族と結婚の社会学入門 《人間科学部》			
		歳岡 冴香	魚崎 典子			Viktoriya KIM			
		IC Hall Room 5	全学教育 A304			全学教育 C107			
V	16:20 17:50	情報科学入門 《基礎工学部》	日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》			バイオエシックスとヘルス・ロー 《法学部》			
		長谷川 亨	近藤佐知彦			瀬戸山晃一			
		情報科学研究科 A109	全学教育 A114			文法経講義棟22番			

網がけ授業は箕面キャンパス

資料3－2 国際交流科目 時間割 (平成27年秋学期)

時限	時間	月		火	水	木	金						
		吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス	豊中/吹田キャンバス	豊中キャンパス	豊中/箕面キャンパス						
				日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 200-1, 300-1, 400-1, 500-1, 600-1) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-2, 200-2, 300-2, 400-2, 500-2, 600-2) 《国際教育交流センター》						
I	8:50 10:20			100 : 金 孝卿 200 : 磯野 英治 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 西口 光一 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也	100-1 : 岡田亜矢子 200-1 : 上仲 淳 300-1 : 花井 理香 400-1 : 新庄あいみ 500-1 : 藤澤 好恵 600-1 : 田中 真衣	100-1 : 花井 理香 100-2 : 櫻井 千穂 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 岡崎 洋三 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 薩山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創	100-2 : 櫻井 千穂 200-2 : 上仲 淳 300-2 : 矢部 正人 400-2 : 浦木 貴和 500-2 : 滝井 未来 600-2 : 岡崎 洋三						
				100 : 全学教育 C304 200 : 全学教育 C305 300-1 : 法経研究棟 L2 300-2 : 文法経本館 4階464講 400 : 全学教育 C203 500-1 : 文法経講義棟32 500-2 : 文法経本館 4階461講 600 : 全学教育 C404	100-1 : 全学教育 C405 200-1 : 全学教育 A103 300-1 : 全学教育 C204 400-1 : 全学教育 A312 500-1 : 全学教育 C208 600-1 : 全学教育 B306	100-1 : 全学教育 A203 100-2 : 全学教育 C204 200-1 : 基礎工学部 B105 200-2 : 基礎工学部 B302 300 : 法経研究棟 L2 400-1 : 文法経講義棟演5 400-2 : 全学教育 C404 500 : 文法経講義棟32 600-1 : 全学教育 A313 600-2 : 全学教育 C107	100-2 : IC Hall Room 5 200-2 : IC Hall Room 1 300-2 : IC Hall Room 6 400-2 : IC Hall Room 2 500-2 : IC Hall Room 3 600-2 : IC Hall Room 4						
II	10:30 12:00	翻訳と翻訳者たち 《国際教育交流センター》	社会学 I 《人間科学部》	数学とその 工学応用(II) 《国際教育交流 センター》	政治学 II 《人間科学部》	人類学 II 《人間科学部》	日本経済史 《経済学部》	社会学 II 《人間科学部》	近代・現代 日本文学 《言語文化 研究科》	持続型環境社会の設計 《工学部》			
		歳岡 冴香	Viktoriya KIM	宮原 啓造	佐藤 治子	Christie LAM	Pierre-Yves Donze	Viktoriya KIM	村上スミス アンドリュー	田中 敏宏			
		IC Hall Room 5	SCセミナー室 1	文法経 講義棟32	国際公共政策 研究科演習室B	全学教育 B306	文法経 講義棟31	全学教育 B206	文理融合棟 共通講義室 1及び2	情報科学研究科 A110			
III	13:00 14:30	国際理解 入門 《工学部》	言語心理 学と日本 語の習得 《国際教育交 流センター》	応用 理工学 入門 《工学部》	グローバル化と 大学教育 《人間科学部》	比較法の諸問題 《法医学部》	特別講義 (比較契約法・ 不法行為法) 《法医学部》	高齢者心理学 《人間科学部》	社会起業 《国際教育交 流センター》	市民社会 運動 《人間科学部》	現代宇宙 地球科学 の話題 《理学部》	異文化理解演習 《外国語学部》	ジェンダー論 《人間科学部》
		藤田 清士	西口 光一	望月 正人	石川真由美	ペドリサ・ ルイス	Leonardo Ciano	権藤 恒之	伊藤ゆかり	Christie LAM	中嶋 悟	堀川 智也	山本 ペバリー アン
		工学部 P1-311	IC Hall Room 5	工学部 R1-211	人間科学部 本館34	文法経 講義棟23	豊中総合学館 L3	人間科学部 本館32	全学教育 A312	全学教育 B206	理学部 F202	外国語学部 A208	人間科学部 東館303号室
IV	14:40 16:10	多変量 統計科学 《人間科学部》	日本の サル学 《人間科学部》	先端科学 技術にお ける応用 物理学 《工学部》	日本のメディアと コミュニケーション 《国際教育交流センター》				現代日本と 歴史世界 《文学研究科》	文化 : その理解 へのアプローチ 《国際教育交流 センター》	比較法の諸問題 《法医学部》		
		足立 浩平	中道 正之	八木 厚志	近藤佐知彦				田口宏二朗	有川 友子	ペドリサ・ルイス		
		人間科学部 本館33	人間科学部 本館41	工学部 P1-211	全学教育 A214				文法経本館 4階461講	全学教育 C406	文法経講義棟22		
V	16:20 17:50			コンピュータを 活用した語学学習 《国際教育交流 センター》	Cutting Edge of Biotechnology 《基礎工学部》	日本の神話と伝説 《人間科学部》	日本の法・政治制度と 法・政治文化入門 《法医学部》						
				魚崎 典子	馬越 大	Irina HOLCA	瀬戸山 晃一						
				全学教育 A304	全学教育 A214	全学教育 C307	文法経講義棟22						

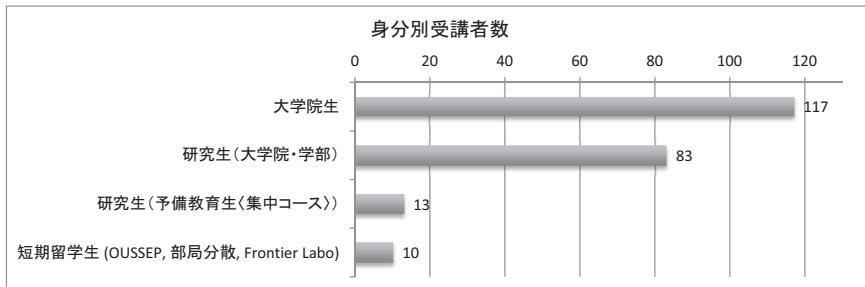
網がけ授業は箕面キャンパス

資料4 日本語授業についてのアンケート

2015年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生) Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 (2015年度 春学期 科目別受講者数調べより (のべ受講者数))

(1) 大学院生	117
(2) 研究生（大学院・学部）	83
(3) 研究生（予備教育生（集中コース））	13
(4) 短期留学生（OUSSEP、部局分散、Frontier Labo）	10
計	223



* 延べ総受講者 223名の内、アンケート回答者数40名（全体の約17.9%）

A. あなたの受講状況について

(5 : 高評価) 全科目平均値

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50~70%	70~80%	80~90%	90%以上	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	4.7

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	4.7

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	~30分	~60分	~90分	90分以上	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	4.0

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	~30分	~60分	~90分	90分以上	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	3.4

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2~3回	4~5回	6回以上	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	4.3

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	すこしだけ上達した	かなり上達した	とても上達した	(5 : 高評価)
1	2	3	4	5	4.2

B. 授業への感想

(5 : 高評価)

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(1) この授業は体系的に構成されていた。

4.7

(2) 教師は十分な準備をしていた。

5.0

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

5.0

(4) 教師は質問にていねいに答えてくれた。

5.0

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

4.9

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.3

(7) 宿題の量は適切だった。

4.1

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.4

(9) この授業を受講してよかったです。

4.9

C. 記述

→ 別紙

2015年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ 223名	のべ 40名	17.9%

○各科目平均集計

1. 選択コース

*延べ総受講者 223名の内、アンケート回答者数 40名 (全体の約 17.9%)

質問項目	科目名	全科目平均値	JB	JB	JK	JK	JG	JG	JC	JW	JP	BJ	BJ	JC	JR	JW	JP	JP	
A.	(1)	4.7	4.50	2.50	3.00	4.00	5.00	4.33	3.00	3.75	3.67	5.00	4.40	5.00	4.50	3.00	3.50	4.00	4.00
	(2)	4.7	3.50	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.25	4.67	5.00	4.40	5.00	4.75	3.00	4.50	4.00	4.50
	(3)	4.0	2.50	2.00	3.50	3.00	3.00	2.67	2.50	3.67	4.00	4.00	4.00	4.00	2.00	2.50	3.00	4.00	3.00
	(4)	3.4	2.50	2.00	4.00	3.00	4.00	2.67	2.00	2.25	2.33	4.00	2.80	4.00	2.00	2.00	2.00	2.50	2.00
	(5)	4.3	3.00	4.00	3.50	5.00	4.00	3.33	4.00	4.00	3.67	5.00	3.60	4.00	4.25	1.00	3.50	4.00	3.00
	(6)	4.2	3.50	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.25	4.67	4.00	4.40	4.00	4.75	2.00	3.50	3.00	3.50
B.	(1)	4.7	4.50	3.00	4.50	4.00	5.00	4.00	4.00	4.50	4.33	5.00	4.46	4.00	4.75	2.00	5.00	4.50	4.00
	(2)	5.0	4.50	4.00	5.00	4.00	4.00	4.33	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.50	4.00	4.00	5.00
	(3)	5.0	4.50	3.50	4.00	4.00	4.00	4.67	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(4)	5.0	4.50	4.00	4.50	4.00	4.00	4.67	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(5)	4.9	4.50	3.50	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.75	4.67	5.00	4.80	5.00	4.50	4.00	3.00	4.00	4.50
	(6)	4.3	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.50	4.33	4.00	4.60	5.00	4.50	4.00	4.00	3.00	4.50
	(7)	4.1	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.33	4.00	4.25	4.33	4.00	4.20	5.00	4.75	3.00	4.50	4.00	4.50
	(8)	4.4	4.00	4.50	4.00	4.00	4.00	4.33	5.00	4.75	5.00	4.00	4.80	5.00	5.00	2.00	4.50	4.00	5.00
	(9)	4.9	4.50	3.50	4.50	4.00	4.00	4.33	5.00	4.75	5.00	4.00	4.80	5.00	5.00	3.00	5.00	4.50	5.00

【設問内容】

A あなたの受講状況について

A1: あなたの日本語科目レベル

A2: 受講したクラス

A3: あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

● 大学院生 (博士) / Graduate school student (DC)

● 大学院生 (修士) / Graduate school student (MC)

● 日本語集中 (研修) コース生 / Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course

● 短期留学生 / OUSSEP, Frontier Lab, Expo etc.)

● その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5
全く思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5
全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思しますか。

全く思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5
全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5
全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5
全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5
全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(5) あなたは、この授業中 (90分) にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2～3回	4～5回	6回以上
1	2	3	4	5

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いませんか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	そこだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5

B 授業への感想

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5	5

(1) この授業は体系的に構成されていた。

(2) 教師は十分な準備をしていました。

(3) 教師の説明はわかりやすかったです。

(4) 教師は質問にていねいに答えてくれた。

(5) 練習やクイズや課題・テストなどは適切だった。

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

(7) 宿題の量は適切だった。

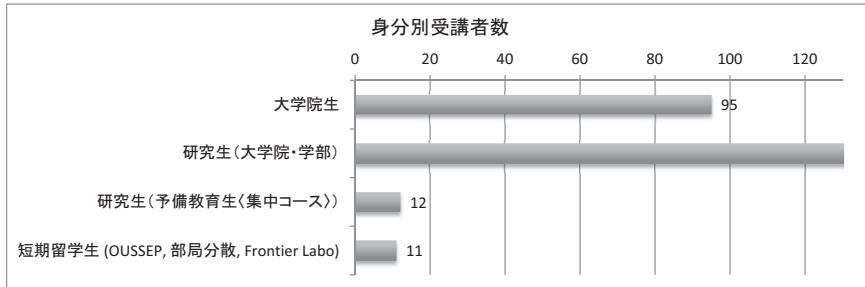
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

(9) この授業を受講してよかったです。

2015年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計
 (回答者：選択コース受講学生)
Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 (2015年度 秋学期 科目別受講者数調べより (のべ受講者数))

(1) 大学院生	95
(2) 研究生（大学院・学部）	187
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	12
(4) 短期留学生（OUSSEP、部局分散、Frontier Labo）	11
計	305



* 延べ総受講者 305名の内、アンケート回答者数71名 (全体の約23.3%)

A. あなたの受講状況について

(5 : 高評価) 全科目平均値

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50~70%	70~80%	80~90%	90%以上	
1	2	3	4	5	<u>3.1</u>

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	
1	2	3	4	5	<u>3.4</u>

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	~30分	~60分	~90分	90分以上	
1	2	3	4	5	<u>2.2</u>

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	~30分	~60分	~90分	90分以上	
1	2	3	4	5	<u>1.8</u>

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2~3回	4~5回	6回以上	
1	2	3	4	5	<u>2.1</u>

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

せんぜん 上達しなかった	ほとんど 上達しなかった	すこしだけ 上達した	かなり 上達した	とても 上達した	
1	2	3	4	5	<u>2.8</u>

B. 授業への感想

(5 : 高評価)

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(1) この授業は体系的に構成されていた。

3.5

(2) 教師は十分な準備をしていました。

3.7

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

3.7

(4) 教師は質問にていねいに答えてくれた。

3.8

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

3.4

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

3.5

(7) 宿題の量は適切だった。

3.5

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

3.4

(9) この授業を受講してよかったです。

3.6

C. 記述 → 別紙

2015年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ 305名	のべ 71名	23.3%

○各科目平均集計

1. 選択コース

*延べ総受講者 305名の内、アンケート回答者数 71名 (全体の約 23.3%)

質問項目	科目名	全科目 平均値	JB	JB	JK	JK	JG	JG	JW	JW	JP	JP	BJ	BJ	JC	JC	JR	JR	JW	JW	JP	JP
A.	(1)	3.15	4.25	3.50	2.00	5.00	3.00	4.00	3.80	3.00	3.30	2.00	3.30	2.00	3.50	4.00	3.70	3.70	3.50	1.00	3.70	2.00
	(2)	3.47	4.50	3.50	3.00	4.50	4.00	3.00	3.30	3.30	3.50	4.00	3.00	3.50	3.00	3.20	3.30	3.00	3.00	3.00	3.50	4.00
	(3)	2.20	3.50	2.00	4.00	3.67	2.50	2.00	1.80	1.30	1.70	2.30	1.50	1.00	1.00	3.00	1.50	1.30	1.30	2.40	3.00	2.00
	(4)	1.83	3.50	2.50	3.00	4.00	3.33	1.50	1.00	1.80	1.20	1.30	1.00	1.30	1.00	1.00	1.00	1.30	1.30	2.70	2.20	1.80
	(5)	2.17	3.00	4.00	1.00	4.00	3.33	3.50	1.50	2.00	1.80	1.70	2.00	2.30	1.80	2.00	2.00	3.00	1.50	2.10	2.00	2.30
	(6)	2.89	3.75	4.25	3.00	5.00	2.67	2.50	2.00	3.00	2.70	2.00	3.00	3.00	3.00	3.50	2.00	2.50	2.00	3.30	2.30	3.00
B.	(1)	3.54	4.25	4.75	3.00	4.50	3.33	3.50	3.50	3.30	3.30	3.50	3.50	3.50	3.50	3.70	3.50	3.50	3.00	3.60	3.20	3.30
	(2)	3.76	4.75	4.00	5.00	4.67	3.50	3.50	3.50	3.30	3.30	3.70	3.50	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00
	(3)	3.72	4.00	4.50	4.00	5.00	4.33	3.50	2.50	3.30	3.30	4.00	3.50	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	3.50	3.50	3.60	3.30
	(4)	3.83	4.50	4.50	4.00	5.00	4.33	2.50	4.00	3.80	3.70	4.00	3.50	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	3.50	3.70	3.50	4.00
	(5)	3.46	4.75	4.50	3.00	4.50	4.00	2.50	2.50	3.30	3.20	3.00	3.50	3.30	4.00	4.00	3.50	3.50	3.30	3.70	3.00	3.80
	(6)	3.50	3.75	4.50	3.00	4.50	4.00	2.50	2.50	3.50	3.30	3.30	3.50	3.70	3.30	4.00	4.00	3.50	3.50	3.20	3.10	3.50
	(7)	3.50	3.75	4.50	4.00	4.50	4.00	3.00	2.00	3.30	3.30	3.70	3.50	3.70	3.30	4.00	4.00	3.50	3.30	3.30	2.80	3.30
	(8)	3.48	4.50	4.25	3.00	4.50	3.33	3.50	2.50	3.50	3.30	3.30	3.70	3.30	4.00	4.00	3.50	3.50	3.30	3.20	3.00	3.80
	(9)	3.62	4.75	4.50	3.00	5.00	3.67	3.50	3.50	3.80	3.50	3.50	3.70	3.30	4.00	4.00	4.00	3.50	3.30	3.30	3.00	3.80

【設問内容】

A あなたの受講状況について

A1: あなたの日本語科目レベル

A2: 受講したクラス

A3: あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

● 大学院生（博士） / Graduate school student (DC)

● 大学院生（修士） / Graduate school student (MC)

● 日本語集中（研修）コース生 / Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course

● 短期留学生 / OUSSEP, Frontier Lab, Expo etc.)

● その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思しますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2～3回	4～5回	6回以上
1	2	3	4	5

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	そこだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5

B 授業への感想

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	3	4	5

(1) この授業は体系的に構成されていた。

(2) 教師は十分な準備をしていました。

(3) 教師の説明はわかりやすかったです。

(4) 教師は質問にていねいに答えてくれた。

(5) 練習やクイズや課題・テストなどは適切だった。

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

(7) 宿題の量は適切だった。

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

(9) この授業を受講してよかったです。

資料5 国際交流科目 授業アンケート（質問票）

International Exchange Subjects 2014 Fall Semester

Final Questionnaire on the Subject you attended

Conducted by Center for International Education and Exchange

***Note:**

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead. (Those who are G30 students can answer to either English version or Japanese one.)

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

1. Which is your program?

A: OUSSEP B:iExPO C: Frontier Lab D: Maple

E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1□Dentistry, 2□Economics, 3□Engineering, 4□Engineering Science
5□Foreign Studies, 6□Human Sciences, 7□Information Science and Technology,
8□International Public Policy, 9□ Language and Culture, 10□Law and Politics, 11□Letters,
12□Medicine, 13□Pharmaceutical, 14□ Sciences, 15□Others

5. How often did you attend this class so far?

A: all B:80%~ C:60%~ D:50~59% E:less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If “No”, please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student. B: I can transfer, but I don't need credits.
C: I cannot transfer. D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?

A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all

<Continue to the reverse side>

9. Is the lecture understandable?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

10. Does the instructor speak English understandably?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

11. Is the class conducted in accordance with the syllabus?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

12. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

13. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.

A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)

14. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?

Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?

A: yes, very much B: to some extent C: not at all

15. Is there any TA (Teaching Assistant) in the class? Yes No

If Yes, how well does the TA contribute?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

16. Are you satisfied with this class?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)

18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.

19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

1	Which is your program?	Answer	Num.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Program</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A. OUSSEP</td><td>58%</td></tr> <tr><td>B. iExPO</td><td>12%</td></tr> <tr><td>C. Frontier Lab</td><td>14%</td></tr> <tr><td>D. Maple</td><td>6%</td></tr> <tr><td>E. G30-CBCMP</td><td>3%</td></tr> <tr><td>F. G30-HUS</td><td>2%</td></tr> <tr><td>G. Others</td><td>1%</td></tr> <tr><td>NA</td><td>2%</td></tr> </tbody> </table>	Program	Percentage	A. OUSSEP	58%	B. iExPO	12%	C. Frontier Lab	14%	D. Maple	6%	E. G30-CBCMP	3%	F. G30-HUS	2%	G. Others	1%	NA	2%																
Program	Percentage																																					
A. OUSSEP	58%																																					
B. iExPO	12%																																					
C. Frontier Lab	14%																																					
D. Maple	6%																																					
E. G30-CBCMP	3%																																					
F. G30-HUS	2%																																					
G. Others	1%																																					
NA	2%																																					
A. OUSSEP	153																																					
B. iExPO	6																																					
C. Frontier Lab	18																																					
D. Maple	1																																					
E. G30-CBCMP	36																																					
F. G30-HUS	16																																					
G. Others	32																																					
NA	1																																					
Total Num.	263																																					
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)																																				
4	Your Major	Answer	Num.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Major</th> <th>Number</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Dentistry</td><td>0</td></tr> <tr><td>Economics</td><td>23</td></tr> <tr><td>Engineering</td><td>41</td></tr> <tr><td>Engineering-Science</td><td>29</td></tr> <tr><td>Foreign Studies</td><td>15</td></tr> <tr><td>Human Sciences</td><td>41</td></tr> <tr><td>Information Science</td><td>10</td></tr> <tr><td>International Public</td><td>5</td></tr> <tr><td>Language and Culture</td><td>24</td></tr> <tr><td>Law and Politics</td><td>21</td></tr> <tr><td>Letters</td><td>25</td></tr> <tr><td>Medicine</td><td>0</td></tr> <tr><td>Pharmaceutical</td><td>0</td></tr> <tr><td>Sciences</td><td>49</td></tr> <tr><td>Others</td><td>0</td></tr> <tr><td>NA</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	Major	Number	Dentistry	0	Economics	23	Engineering	41	Engineering-Science	29	Foreign Studies	15	Human Sciences	41	Information Science	10	International Public	5	Language and Culture	24	Law and Politics	21	Letters	25	Medicine	0	Pharmaceutical	0	Sciences	49	Others	0	NA	2
Major	Number																																					
Dentistry	0																																					
Economics	23																																					
Engineering	41																																					
Engineering-Science	29																																					
Foreign Studies	15																																					
Human Sciences	41																																					
Information Science	10																																					
International Public	5																																					
Language and Culture	24																																					
Law and Politics	21																																					
Letters	25																																					
Medicine	0																																					
Pharmaceutical	0																																					
Sciences	49																																					
Others	0																																					
NA	2																																					
Dentistry	0																																					
Economics	23																																					
Engineering	41																																					
Engineering-Science	29																																					
Foreign Studies	15																																					
Human Sciences	41																																					
Information Science	10																																					
International Public	5																																					
Language and Culture	24																																					
Law and Politics	21																																					
Letters	25																																					
Medicine	0																																					
Pharmaceutical	0																																					
Sciences	49																																					
Others	0																																					
NA	2																																					
Total Num.	285																																					
5	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Attendance</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A:all</td><td>48%</td></tr> <tr><td>B:80%~</td><td>50%</td></tr> <tr><td>C:60%~</td><td>2%</td></tr> <tr><td>D:50~59%</td><td>0</td></tr> <tr><td>E:less than half</td><td>0</td></tr> <tr><td>NA</td><td>5%</td></tr> </tbody> </table>	Attendance	Percentage	A:all	48%	B:80%~	50%	C:60%~	2%	D:50~59%	0	E:less than half	0	NA	5%																				
Attendance	Percentage																																					
A:all	48%																																					
B:80%~	50%																																					
C:60%~	2%																																					
D:50~59%	0																																					
E:less than half	0																																					
NA	5%																																					
A:all	126																																					
B:80%~	131																																					
C:60%~	5																																					
D:50~59%	0																																					
E:less than half	0																																					
NA	1																																					
6	(a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?	Answer	Num.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Intention</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A. Yes</td><td>56%</td></tr> <tr><td>B. No</td><td>42%</td></tr> <tr><td>NA</td><td>2%</td></tr> </tbody> </table>	Intention	Percentage	A. Yes	56%	B. No	42%	NA	2%																										
Intention	Percentage																																					
A. Yes	56%																																					
B. No	42%																																					
NA	2%																																					
A. Yes	147																																					
B. No	111																																					
NA	5																																					
Total Num.	263																																					
(b)	If "No", please choose the reason.	Answer	Num.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Reason</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A:I'm an Osaka University's student</td><td>55%</td></tr> <tr><td>B:I can transfe, But I don't need credits.</td><td>20%</td></tr> <tr><td>C:I cannot transfer.</td><td>15%</td></tr> <tr><td>D:Other</td><td>9%</td></tr> <tr><td>NA</td><td>2%</td></tr> </tbody> </table>	Reason	Percentage	A:I'm an Osaka University's student	55%	B:I can transfe, But I don't need credits.	20%	C:I cannot transfer.	15%	D:Other	9%	NA	2%																						
Reason	Percentage																																					
A:I'm an Osaka University's student	55%																																					
B:I can transfe, But I don't need credits.	20%																																					
C:I cannot transfer.	15%																																					
D:Other	9%																																					
NA	2%																																					
A:I'm an Osaka University's student	53																																					
B:I can transfe, But I don't need credits.	23																																					
C:I cannot transfer.	39																																					
D:Other	2																																					
NA	146																																					
Total Num.	263																																					
My original university have a rule that I should take class which has connection with my major.																																						
To broaden my horizons in the field.																																						

		Since it was new for me, it caught my attention.																	
		Since I need credit that I can transfer to my home university.																	
		Expand my studies beyond the curriculum of my home institution.																	
8	Are you satisfied with this class?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	99	B:almost always	96	C:to some extent	55	D:not so much	10	E:not at all	2	NA	1	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:almost always C:to some extent D:not so much E:not at all NA</p>
Answer	Num.																		
A:yes,very much	99																		
B:almost always	96																		
C:to some extent	55																		
D:not so much	10																		
E:not at all	2																		
NA	1																		
Total Num.	263																		
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>B:to some extent</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>C:not so much</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>D:not at all</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	37	B:to some extent	55	C:not so much	56	D:not at all	114	NA	1	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:to some extent C:not so much D:not at all NA</p>		
Answer	Num.																		
A:yes,very much	37																		
B:to some extent	55																		
C:not so much	56																		
D:not at all	114																		
NA	1																		
Total Num.	263																		
10	Is the lecture understandable?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	130	B:almost always	91	C:to some extent	39	D:not so much	1	E:not at all	1	NA	1	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:almost always C:to some extent D:not so much E:not at all NA</p>
Answer	Num.																		
A:yes,very much	130																		
B:almost always	91																		
C:to some extent	39																		
D:not so much	1																		
E:not at all	1																		
NA	1																		
Total Num.	263																		
11	Does the instructor speak English understandably?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>146</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	146	B:almost always	79	C:to some extent	31	D:not so much	2	E:not at all	1	NA	4	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:almost always C:to some extent D:not so much E:not at all NA</p>
Answer	Num.																		
A:yes,very much	146																		
B:almost always	79																		
C:to some extent	31																		
D:not so much	2																		
E:not at all	1																		
NA	4																		
Total Num.	263																		
12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>187</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	187	B:almost always	58	C:to some extent	8	D:not so much	5	E:not at all	1	NA	4	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:almost always C:to some extent D:not so much E:not at all NA</p>
Answer	Num.																		
A:yes,very much	187																		
B:almost always	58																		
C:to some extent	8																		
D:not so much	5																		
E:not at all	1																		
NA	4																		
Total Num.	263																		
13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:yes,very much	166	B:almost always	83	C:to some extent	9	D:not so much	1	E:not at all	1	NA	3	Total Num.	263	<p>A:yes,very much B:almost always C:to some extent D:not so much E:not at all NA</p>
Answer	Num.																		
A:yes,very much	166																		
B:almost always	83																		
C:to some extent	9																		
D:not so much	1																		
E:not at all	1																		
NA	3																		
Total Num.	263																		
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:too much</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>B:adequate</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>C:not enough(insufficient)</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table>	Answer	Num.	A:too much	33	B:adequate	212	C:not enough(insufficient)	12	NA	6	Total Num.	263	<p>A:too much B:adequate C:not enough (insufficient) D:NA</p>				
Answer	Num.																		
A:too much	33																		
B:adequate	212																		
C:not enough(insufficient)	12																		
NA	6																		
Total Num.	263																		

15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	<table border="1"> <tr><td>A:yes,very much</td><td>177</td></tr> <tr><td>B:to some extent</td><td>77</td></tr> <tr><td>C:not at all</td><td>4</td></tr> <tr><td>NA</td><td>5</td></tr> <tr><td>Total Num.</td><td>263</td></tr> </table>	A:yes,very much	177	B:to some extent	77	C:not at all	4	NA	5	Total Num.	263				
A:yes,very much	177																	
B:to some extent	77																	
C:not at all	4																	
NA	5																	
Total Num.	263																	
Answer	Num.																	
16	Is there any TA in the class?	A: Yes	175	<table border="1"> <tr><td>A: Yes</td><td>175</td></tr> <tr><td>B: No</td><td>82</td></tr> <tr><td>NA</td><td>6</td></tr> <tr><td>Total Num.</td><td>263</td></tr> </table>	A: Yes	175	B: No	82	NA	6	Total Num.	263						
A: Yes	175																	
B: No	82																	
NA	6																	
Total Num.	263																	
Answer	Num.																	
17	If YES, how well does the TA contribute?	A:yes,very much	83	<table border="1"> <tr><td>A:yes,very much</td><td>83</td></tr> <tr><td>B:almost always</td><td>46</td></tr> <tr><td>C:to some extent</td><td>32</td></tr> <tr><td>D:not so much</td><td>13</td></tr> <tr><td>E:not at all</td><td>2</td></tr> <tr><td>NA</td><td>87</td></tr> <tr><td>Total Num.</td><td>263</td></tr> </table>	A:yes,very much	83	B:almost always	46	C:to some extent	32	D:not so much	13	E:not at all	2	NA	87	Total Num.	263
A:yes,very much	83																	
B:almost always	46																	
C:to some extent	32																	
D:not so much	13																	
E:not at all	2																	
NA	87																	
Total Num.	263																	
Answer	Num.																	
17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.	I really like the multidisciplinary approach (different instructors from different fields), however, it was difficult to grasp the big picture, because the different lectures were not connected at all.																
		All experiments have been really enjoyable and have helped to understand the topic.																
		The experiments have been very good, and so has the handouts! As a non-science student, I cannot copy the formulas, but I might be able to understand them via the handouts.																
		The teacher discuss with us plus we are given time to discuss among ourselves.																
		The syllabus was very well laid out.																
		The group discussing were wonderful. It was also nice to meet different people in different group works.																
		Enjoyed open discussion and dynamic activities getting students to interact.																
		He provides the copy of the PPT used in class. It's very helpful.																
18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.	Survey the student background before prepare teaching material.																
		Sometimes teacher's English is difficult to understand.																
		Maybe it's possible to insert more assignments in order to increase the involvement of students, which will stimulate learners to discuss, like some project group work.																
		A high level of literature understanding in the questions instead of always asking about what we felt reading the stories but more technical questions.																
		The teacher should be a bit more proactive and take handle the situation, control the class, more often.																
		Maybe less worksheet because some of them are too similar to each other.																
		Just make the board writing more structured.																
		Sometimes I feel like only the students with previous knowledge in the field can participate.																
19	Please write other comments and frank opinions freely, if any.	Love professor's class. He teaches very well and answers qestions with great pacience. Discussionsis also interesting.																
		It could be beneficial to add some short readings in order for the students from other fields to get the most out of the classes and understand more.																
		The classes were extremely enjoyable and the teacher was very clear in explaining concepts and adressing questions:)																

2015年度 年 報

2016年7月20日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電 話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株一心社